

Oracle® InfiniBand Switch IS2-46 サービス マニュアル



Part No: E75977-01
2016 年 9 月

Part No: E75977-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	9
製品ドキュメントライブラリ	9
フィードバック	9
コンポーネントの識別	11
スイッチコンポーネント	12
フロントパネルのコンポーネント	13
背面パネルのコンポーネント	14
障害の検出と管理	15
スイッチのトラブルシューティング	15
▼ 診断プロセスを開始する	16
▼ スイッチがある場所で診断を実行する	17
▼ スイッチがある場所で追加の診断を実行する	19
▼ リモートで診断を実行する	22
▼ Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する	25
障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別	27
Oracle ILOM /HOST および /SP ターゲットの交換可能コンポーネン ト	27
Oracle ILOM /System ターゲットの交換可能コンポーネント	28
Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント	29
障害が発生した項目の交換可能コンポーネント	30
診断ツール	32
トラブルシューティング (LED)	32
▼ LED を検査する	33
フロントパネルの LED	34
SFP+ リンク LED	34
RJ-45 リンク LED	35
シャーシステータス LED	36
コンポーネント LED	37
SP へのアクセス	38

▼ SP にアクセスする (RJ-45 ポート)	38
▼ SP にアクセスする (SER MGT ポート)	39
▼ SCP にアクセスする (RJ-45 ポート)	40
▼ ネットワーク管理を構成して有効にする (SER MGT ポート)	40
トラブルシューティング (Oracle ILOM /SP ターゲット)	43
▼ Oracle ILOM ログエントリを表示する	44
Oracle ILOM ログエントリのフィルタ	44
▼ ネットワーク管理の構成プロパティを表示する	45
▼ ユーザーセッション情報を表示する	46
▼ SP ファームウェアのバージョンを表示する	47
トラブルシューティング (Oracle ILOM /System ターゲット)	47
▼ 問題のあるコンポーネントを表示する	48
未解決の問題の障害	49
▼ コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する	50
Oracle ILOM ターゲットの健全性状態	51
▼ アクティブな消費電力を表示する	52
トラブルシューティング (Oracle ILOM レガシーターゲット)	52
▼ Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする	53
▼ 特定のコンポーネントのステータスを表示する	54
▼ 障害を手動でクリアする	55
障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット	56
アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット	57
消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット	58
電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット	59
温度の Oracle ILOM レガシーターゲット	60
ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット	61
LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット	62
リセット可能なターゲット	63
保守の準備	65
安全に関する情報	66
安全に関する記号	66
静電放電の対策	66
静電気防止用リストストラップの使用	67
静電気防止用マット	67
保守ツール	67
▼ スイッチのシリアル番号を読み取る (Oracle ILOM)	68
▼ スイッチを特定する	69
▼ ESD による損傷を防ぐ	70

▼ エアダクト構成部品を取り外す	70
▼ スナップ留め具を取り外す	74
▼ スイッチの電源を切断するための準備をする	77
▼ 電源装置の電源を切断する	78
データケーブルの保守	83
データケーブルの種類の識別	84
PrizmMT ケーブル	85
SFP+ ケーブルトランシーバ	86
RJ-45 ケーブル	86
▼ 障害のあるデータケーブルを特定する	87
▼ データケーブルを取り外す	91
▼ (オプション) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる	98
▼ データケーブルを取り付ける	100
▼ データケーブルを検証する	106
▼ (オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニン グする	106
バッテリーの保守	109
▼ バッテリーに障害があるかどうかを判定する	109
▼ バッテリーを取り外す	110
▼ バッテリーを取り付ける	115
▼ バッテリーを検証する	119
ファンモジュールの保守	121
ファンモジュール LED	122
▼ 障害のあるファンモジュールを特定する	122
▼ ファンモジュールを取り外す	125
▼ ファンモジュールを取り付ける	126
▼ ファンモジュールを検証する	129
電源装置の保守	131
電源装置 LED	132
▼ 障害のある電源装置を特定する	133
▼ 電源装置を取り外す	135
▼ 電源装置を取り付ける	137
▼ 電源装置を検証する	139

スイッチの交換	141
スイッチの LED	142
▼ スwitchに障害があるかどうかを判定する	143
▼ スwitchを取り外す	145
▼ スwitchの設置	148
▼ スwitchを検証する	151
 スイッチを稼働状態に戻す	155
▼ 電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す	156
▼ 電源装置の電源を投入する	159
▼ SER MGT ケーブルの接続	160
▼ 交換用スイッチを構成する	163
▼ スナップ留め具を取り付ける	166
▼ エアダクト構成部品の取り付け	168
 用語集	171
 索引	179

このドキュメントの使用方法

- **概要** – Oracle InfiniBand Switch IS2-46 をトラブルシューティングおよび保守する方法について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、および認定サービスプロバイダ。
- **必要な知識** – ネットワークハードウェアの保守に関する豊富な経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/is2-46/docs> で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

コンポーネントの識別

これらのトピックでは、スイッチコンポーネントを識別し、保守タスクへのリンクを示します。

- [12 ページの「スイッチコンポーネント」](#)
- [13 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [14 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

関連情報

- [15 ページの「障害の検出と管理」](#)
- [65 ページの「保守の準備」](#)
- [83 ページの「データケーブルの保守」](#)
- [109 ページの「バッテリーの保守」](#)
- [121 ページの「ファンモジュールの保守」](#)
- [131 ページの「電源装置の保守」](#)
- [141 ページの「スイッチの交換」](#)
- [155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」](#)

スイッチコンポーネント

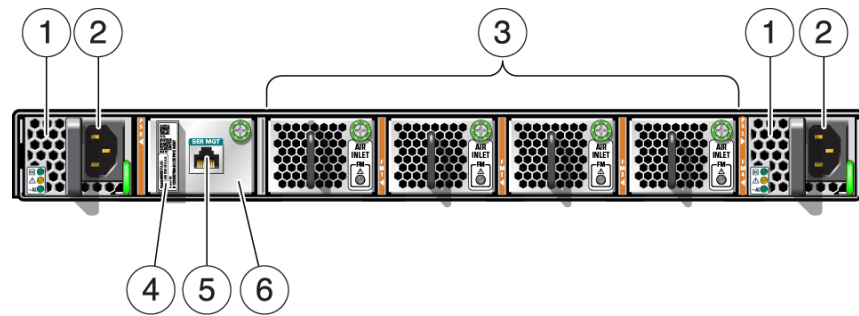


番号	説明	リンク
1	ファンモジュール	121 ページの「ファンモジュールの保守」
2	SER MGT モジュール (SMM) (バッテリーは内部)	109 ページの「バッテリーの保守」
3	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」

関連情報

- [13 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [14 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

フロントパネルのコンポーネント

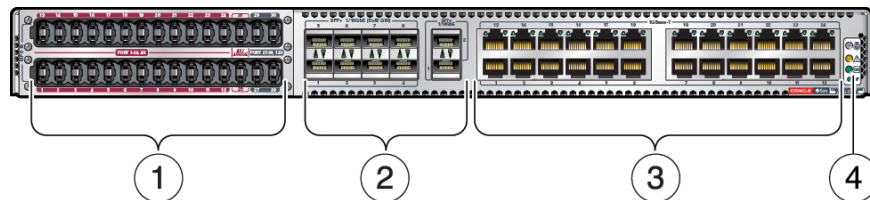


項目	説明	リンク
1	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
2	電源コードのコンセント	78 ページの「電源装置の電源を切断する」 159 ページの「電源装置の電源を投入する」
3	ファンモジュール	121 ページの「ファンモジュールの保守」
4	RFID タグ	68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る (Oracle ILOM)」 70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」
5	SER MGT ポート	39 ページの「SP にアクセスする (SER MGT ポート)」
6	SMM (バッテリーは内部)	109 ページの「バッテリーの保守」

関連情報

- [12 ページの「スイッチコンポーネント」](#)
- [14 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

背面パネルのコンポーネント



項目	説明	リンク
1	PrizmMT コネクタ ■ ポート 1 - 24 - IB 4x ■ ポート 25 および 26 - IB 4x または 10GbE のどちらか ■ ポート 27 - 30 - IB 12x	85 ページの「PrizmMT ケーブル」
2	SFP+ コネクタ ■ ポート 1 - 8 (左) - 10GbE Ethernet オーバーレイネットワーク (IB スイッチチップ) ■ ポート 1 および 2 (右) - 10GbE ネットワーク管理アップリンク (Ethernet スイッチチップ)	86 ページの「SFP+ ケーブルトランシーバ」
3	RJ-45 コネクタ	86 ページの「RJ-45 ケーブル」
4	シャーシステータス LED	34 ページの「フロントパネルの LED」

関連情報

- [12 ページの「スイッチコンポーネント」](#)
- [13 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)

障害の検出と管理

これらのトピックでは、トラブルシューティングプロセスについて説明します。

- [15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」](#)
- [27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」](#)
- [32 ページの「診断ツール」](#)
- [32 ページの「トラブルシューティング \(LED\)」](#)
- [38 ページの「SP へのアクセス」](#)
- [43 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /SP ターゲット\)」](#)
- [47 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /System ターゲット\)」](#)
- [52 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM レガシーターゲット\)」](#)

関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)
- [65 ページの「保守の準備」](#)
- [83 ページの「データケーブルの保守」](#)
- [109 ページの「バッテリーの保守」](#)
- [121 ページの「ファンモジュールの保守」](#)
- [131 ページの「電源装置の保守」](#)
- [141 ページの「スイッチの交換」](#)
- [155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」](#)

スイッチのトラブルシューティング

これらのトピックでは、スイッチをトラブルシューティングする方法について説明します。

- [16 ページの「診断プロセスを開始する」](#)
- [17 ページの「スイッチがある場所で診断を実行する」](#)
- [19 ページの「スイッチがある場所で追加の診断を実行する」](#)

- 22 ページの「リモートで診断を実行する」
- 25 ページの「Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する」

関連情報

- 27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」
- 32 ページの「診断ツール」
- 32 ページの「トラブルシューティング (LED)」
- 38 ページの「SP へのアクセス」
- 43 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM /SP ターゲット)」
- 47 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM /System ターゲット)」
- 52 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM レガシーターゲット)」

▼ 診断プロセスを開始する

問題が通知された場合や、問題を認識している場合は、このプロセスに従ってください。

1. 問題の原因が確実にわかっていますか？

- はい – **ステップ 2** に進みます。
- いいえ – **ステップ 5** に進みます。

2. 原因はソフトウェア障害またはハードウェア障害のどちらですか？

- ハードウェア – **ステップ 3** に進みます。
- ソフトウェア – 解決方法は、このドキュメントの範囲を超えています。
『Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド』およびソフトウェアのトラブルシューティングドキュメントを参照してください。必要に応じて、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

3. ハードウェアの問題に対する解決方法が確実にわかっていますか？

- はい – **ステップ 4** に進みます。
- いいえ – **ステップ 5** に進みます。

4. 問題のあるコンポーネントを交換します。

コンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。

5. スイッチがある物理的な場所にいますか？

- はい – [17 ページの「スイッチがある場所で診断を実行する」](#)に進みます。
- いいえ – [22 ページの「リモートで診断を実行する」](#)に進みます。

関連情報

- [17 ページの「スイッチがある場所で診断を実行する」](#)
- [19 ページの「スイッチがある場所で追加の診断を実行する」](#)
- [22 ページの「リモートで診断を実行する」](#)
- [25 ページの「Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する」](#)

▼ スイッチがある場所で診断を実行する

注記 - この手順では、エアダクト構成部品が取り外され、SER MGT ケーブルが接続されたままになっていることを前提にしています。その手順については、[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)を参照してください。

1. このタスクで新しいトラブルシューティングセッションを開始していますか？

- はい – [16 ページの「診断プロセスを開始する」](#)に進み、そこでトラブルシューティングセッションを開始します。
- いいえ – [ステップ 2](#)に進みます。

2. いずれかの電源装置 LED が点灯していますか？

- はい – [ステップ 4](#)に進みます。
- いいえ – [ステップ 3](#)に進みます。

3. 電源コードと供給されている電源をチェックし、必要に応じて修正します。

『Oracle InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド』を参照してから、[ステップ 2](#)に戻ります。

4. 電源装置のオレンジ色のアテンション LED が点灯していますか？

- はい – [ステップ 5](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 7](#) に進みます。
5. 爪を解放して障害が発生した電源装置を取り外し、1 分待ってから、その電源装置を再度取り付けて爪を固定します。
6. 電源装置のアテンション LED はまだ点灯していますか？
- はい – [ステップ 16](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 7](#) に進みます。
7. 緑色の SP LED が消灯していますか？
- はい – [ステップ 16](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 8](#) に進みます。
8. ネットワーク管理インタフェースに 1GBASE-T ポートまたは SFP+ ポートが使用されていますか？
- はい – [ステップ 9](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 17](#) に進みます。
9. ポートのリンク LED が点灯していますか？
- はい – [ステップ 10](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 11](#) に進みます。
10. リンク LED がときどき点滅しますか？
- はい – [ステップ 17](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 13](#) に進みます。
11. ケーブル配線は適切なケーブルとしっかりした接続によって確実に正しく配線されていますか？
- はい – [ステップ 13](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 12](#) に進みます。

12. ケーブル配線を検査し、必要に応じて交換します。
そのあと、[ステップ 9](#)に戻ります。
13. 通信ハードウェア (端末、ルーター、およびスイッチ) は確実に完全に機能していますか?
 - はい – [ステップ 15](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 14](#)に進みます。
14. 通信ハードウェアを検査し、必要に応じて交換します。
そのあと、[ステップ 9](#)に戻ります。
15. 新しいケーブルを使用し、別の 1GBASE-T ポートまたは SFP+ ポートに接続します。
[ステップ 9](#)に進みます。2 回目もこの手順に戻った場合は、[ステップ 16](#)に進みます。
16. 障害が発生したコンポーネントを取り外し、新しいコンポーネントを取り付けます。
保守タスクへのリンクについては、[30 ページ](#)の「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」を参照してください。
17. さらに診断を実行します。
[19 ページ](#)の「スイッチがある場所で追加の診断を実行する」を参照してください。

関連情報

- [16 ページ](#)の「診断プロセスを開始する」
- [19 ページ](#)の「スイッチがある場所で追加の診断を実行する」
- [22 ページ](#)の「リモートで診断を実行する」
- [25 ページ](#)の「Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する」

▼ スイッチがある場所で追加の診断を実行する

注記 - この手順では、エアダクト構成部品が取り外され、SER MGT ケーブルが接続されたままになっていることを前提にしています。その手順については、[70 ページ](#)の「エアダクト構成部品を取り外す」を参照してください。

1. このタスクで新しいトラブルシューティングセッションを開始していますか?

- はい – [16 ページの「診断プロセスを開始する」](#)に進み、そこでトラブルシューティングセッションを開始します。
 - いいえ – [ステップ 2](#)に進みます。
2. シャーシステータスのオレンジ色のアテンション LED が点灯して障害を示していますか？
- はい – [ステップ 3](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 15](#)に進みます。
3. ファンモジュールのオレンジ色のアテンション LED が点灯していますか？
- はい – [ステップ 4](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 6](#)に進みます。
4. つまみねじを完全に緩めて障害が発生したファンモジュールを取り外し、1 分待ってから、そのファンモジュールを再度取り付けてつまみねじを手できつく締めます。
5. ファンモジュールのアテンション LED はまだ点灯していますか？
- はい – [ステップ 14](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 6](#)に進みます。
6. マゼンタ色の PrizmMT ケーブルはポート 1 から 26 に接続されていますか？
- はい – [ステップ 7](#)に進みます。
 - いいえ – マゼンタ色の PrizmMT ケーブルをポート 1 から 26 に再接続してから、[ステップ 7](#)に進みます。
7. 黒色の PrizmMT ケーブルはポート 27 から 30 に接続されていますか？
- はい – [ステップ 8](#)に進みます。
 - いいえ – 黒色の PrizmMT ケーブルをポート 27 から 30 に再接続してから、[ステップ 8](#)に進みます。
8. ケーブル接続された Ethernet ポートのすべてのリンク LED が点灯していますか？
- はい – [ステップ 9](#)に進みます。

- いいえ – [ステップ 10](#) に進みます。
9. ケーブル接続された Ethernet ポートのいずれかのリンク LED がときどき点滅しますか？
- はい – [ステップ 15](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 12](#) に進みます。
10. 疑わしいポートのケーブル配線は適切なケーブルとしっかりした接続によって確実に正しく配線されていますか？
- はい – [ステップ 12](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 11](#) に進みます。
11. ケーブル配線を検査し、必要に応じて交換します。
そのあと、[ステップ 8](#) に戻ります。
12. 通信ハードウェア (NIC、ホスト、ルーター、およびスイッチ) は確実に完全に機能していますか？
- はい – スイッチ自体に障害があります。 [ステップ 14](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 13](#) に進みます。
13. 通信ハードウェアを検査し、必要に応じて交換します。
そのあと、[ステップ 8](#) に戻ります。
14. 障害が発生したコンポーネントを取り外し、新しいコンポーネントを取り付けます。
保守タスクへのリンクについては、[30 ページ](#)の「[障害が発生した項目の交換可能コンポーネント](#)」を参照してください。
15. さらに診断を実行します。
[22 ページ](#)の「[リモートで診断を実行する](#)」を参照してください。

関連情報

- [16 ページ](#)の「[診断プロセスを開始する](#)」
- [17 ページ](#)の「[スイッチがある場所で診断を実行する](#)」
- [22 ページ](#)の「[リモートで診断を実行する](#)」
- [25 ページ](#)の「[Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する](#)」

▼ リモートで診断を実行する

1. このタスクで新しいトラブルシューティングセッションを開始していますか?
 - はい – [16 ページの「診断プロセスを開始する」](#)に進み、そこでトラブルシューティングセッションを開始します。
 - いいえ – [ステップ 2](#)に進みます。
2. ネットワークまたは端末サーバーのどちらから SP にアクセスしますか?
 - ネットワーク – [ステップ 3](#)に進みます。
 - 端末サーバー (シリアルインタフェース) – [ステップ 8](#)に進みます。
3. ネットワークから SP にアクセスできますか?
[38 ページの「SP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)を参照してから、この手順に戻ります。
 - はい – [ステップ 17](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 4](#)に進みます。
4. ネットワークからスイッチに ping を実行できますか?
 - はい – [ステップ 6](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 5](#)に進みます。
5. ネットワークパラメータは確実に正しく構成されていますか?
 - はい – [ステップ 12](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 7](#)に進みます。
6. 端末サーバー (シリアルインタフェース) から、Oracle ILOM を使用してネットワーク管理インタフェースとネットワークサービスを有効にします。

```
-> set /SP/network state=enabled
-> set /SP/services/ssh state=enabled
-> set /SP/services/https servicestate=enabled
```

そのあと、[ステップ 3](#)に戻ります。
7. 端末サーバー (シリアルインタフェース) から、Oracle ILOM を使用して正しいネットワークパラメータを構成します。

39 ページの「SP にアクセスする (SER MGT ポート)」を参照してから、この手順に戻ります。

次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static
-> set /SP/network pendingipaddress=IP_address_for_SP
-> set /SP/network pendingipgateway=IP_address_for_gateway
-> set /SP/network pendingipnetmask=255.255.255.0
-> set /SP/network commitpending=true
```

そのあと、[ステップ 3](#)に戻ります。

8. 端末サーバーまたはシリアルインタフェースから SP にアクセスできますか？

39 ページの「SP にアクセスする (SER MGT ポート)」を参照してから、この手順に戻ります。

■ はい – [ステップ 17](#)に進みます。

■ いいえ – [ステップ 9](#)に進みます。

9. シリアルパラメータは確実に正しく構成されていますか？

■ はい – [ステップ 12](#)に進みます。

■ いいえ – [ステップ 10](#)に進みます。

10. 端末サーバーまたはシリアルコンソールの正しいシリアルパラメータを構成します。

- ボー – 9600
- データビット – 8
- パリティ – N
- ストップビット – 1
- フロー制御 – なし

11. ネットワークから、Oracle ILOM を使用して正しいシリアルパラメータを構成します。

38 ページの「SP にアクセスする (RJ-45 ポート)」を参照してから、この手順に戻ります。

次のように入力します。

```
-> set /SP/serial/external pendingflowcontrol=none
-> set /SP/serial/external pendingspeed=9600
-> set /SP/serial/external commitpending=true
```

そのあと、[ステップ 8](#)に戻ります。

12. ケーブル配線は適切なケーブルとしっかりした接続によって確実に正しく配線されていますか？

- はい – [ステップ 14](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 13](#) に進みます。
13. ケーブル配線を検査し、必要に応じて交換します。
そのあと、[ステップ 2](#) に戻ります。
14. 通信ハードウェア (NIC、ホスト、端末、ルーター、およびスイッチ) は確実に完全に機能していますか?
- はい – [ステップ 16](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 15](#) に進みます。
15. 通信ハードウェアを検査し、必要に応じて交換します。
そのあと、[ステップ 2](#) に戻ります。
16. スイッチの目視検査を実行します。
[17 ページの「スイッチがある場所で診断を実行する」](#)を参照してください。
17. Oracle ILOM からログファイルを表示します。
`-> show /SP/logs/event/list Class==Fault Type==Fault`
18. ログエントリで問題が識別されますか?
- はい – [ステップ 19](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 22](#) に進みます。
19. この問題はハードウェアまたはソフトウェアのどちらに関連していますか?
- ハードウェア – [ステップ 20](#) に進みます。
 - ソフトウェア – 解決方法は、このドキュメントの範囲を超えています。スイッチの『*Oracle EDR InfiniBand Switch* および仮想 I/O システム管理ガイド』およびソフトウェアのトラブルシューティングドキュメントを参照してください。必要に応じて、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。
20. 保守操作の根拠となる十分な情報が提供されていますか?
- はい – [ステップ 21](#) に進みます。
 - いいえ – [ステップ 22](#) に進みます。

21. 障害が発生したコンポーネントを取り外し、新しいコンポーネントを取り付けます。
コンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)または[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。
22. Oracle ILOM ターゲットの診断を実行します。
[25 ページの「Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する」](#)を参照してください。

関連情報

- [16 ページの「診断プロセスを開始する」](#)
- [17 ページの「スイッチがある場所で診断を実行する」](#)
- [19 ページの「スイッチがある場所で追加の診断を実行する」](#)
- [25 ページの「Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する」](#)

▼ Oracle ILOM ターゲットの診断を実行する

1. このタスクで新しいトラブルシューティングセッションを開始していますか?
 - はい – [16 ページの「診断プロセスを開始する」](#)に進み、そこでトラブルシューティングセッションを開始します。
 - いいえ – [ステップ 2](#)に進みます。
2. Oracle ILOM を使用して問題のあるコンポーネントを表示します。
`-> show /System/Open_Problems`
3. 問題のあるコンポーネントは存在しますか?
 - はい – [ステップ 11](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 4](#)に進みます。
4. Oracle ILOM を使用してサブシステムの健全性を表示します。
`-> show /System -t health`
5. 健全でないサブシステムは存在しますか?
 - はい – [ステップ 6](#)に進みます。
 - いいえ – [ステップ 7](#)に進みます。

6. 健全でない個々のコンポーネントは存在しますか？

- はい – [ステップ 11](#) に進みます。
- いいえ – [ステップ 7](#) に進みます。

7. Oracle ILOM レガシーターゲットは確実に有効になっていますか？

- はい – [ステップ 9](#) に進みます。
- いいえ – [ステップ 8](#) に進みます。

8. Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にします。

```
-> set /SP/cli legacy_targets=enabled
```

9. 疑わしいコンポーネントのセンサーを調査します。

[54 ページ](#)の「特定のコンポーネントのステータスを表示する」を参照してから、この手順に戻ります。レガシーターゲットについては、これらのテーブルを使用します。

レガシーターゲットのタイプ	リンク
アラーム状態および FRUID	56 ページ の「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」
消費電力	58 ページ の「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」
電圧	59 ページ の「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」
温度	60 ページ の「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」
ファン速度	61 ページ の「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」
LED 状態	62 ページ の「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」

10. 表示されたいずれかの値が正常動作の範囲外であったか、あるいはアラームまたは障害を示していましたか？

- はい – [ステップ 11](#) に進みます。
- いいえ – 引き続きの診断は、このドキュメントの範囲を超えています。
ソフトウェアのドキュメントを参照するか、または Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

11. コンポーネントの Oracle ILOM パスまたはコンポーネント名を使用して、どのコンポーネントを保守するかを判定します。

コンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページ](#)の「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」および [30 ページ](#)の「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」を参照してください。

関連情報

- [16 ページの「診断プロセスを開始する」](#)
- [17 ページの「スイッチがある場所で診断を実行する」](#)
- [19 ページの「スイッチがある場所で追加の診断を実行する」](#)
- [22 ページの「リモートで診断を実行する」](#)

障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別

これらのトピックでは、ターゲットおよび障害が発生したコンポーネントをその保守タスクにマップします。

- [27 ページの「Oracle ILOM /HOST および /SP ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [28 ページの「Oracle ILOM /System ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)

関連情報

- [15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」](#)
- [32 ページの「診断ツール」](#)
- [32 ページの「トラブルシューティング \(LED\)」](#)
- [38 ページの「SP へのアクセス」](#)
- [43 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /SP ターゲット\)」](#)
- [47 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /System ターゲット\)」](#)
- [52 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM レガシーターゲット\)」](#)

Oracle ILOM /HOST および /SP ターゲットの交換可能コンポーネント

Oracle ILOM ターゲット	コンポーネント	リンク
/HOST とすべてのサブターゲット	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SP とすべてのサブターゲット	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」

Oracle ILOM ターゲット	コンポーネント	リンク
/SP/clock	バッテリー	109 ページの「バッテリーの保守」

関連情報

- [28 ページの「Oracle ILOM /System ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)

Oracle ILOM /system ターゲットの交換可能コンポーネント

Oracle ILOM ターゲット	コンポーネント	リンク
/System	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/System/Cooling	ファンモジュール	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_0	ファンモジュール 0	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_1	ファンモジュール 0	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_2	ファンモジュール 1	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_3	ファンモジュール 1	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_4	ファンモジュール 2	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_5	ファンモジュール 2	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_6	ファンモジュール 3	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Cooling/Fans/Fan_7	ファンモジュール 3	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/System/Firmware	ファームウェア	Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド
/System/Firmware/Other_Firmware/Firmware_x	ファームウェア	Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド
/System/Log	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/System/Networking	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/System/Networking/Switches/Switch_x	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/System/Power	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」

Oracle ILOM ターゲット	コンポーネント	リンク
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_0	電源装置 0	131 ページの「電源装置の保守」
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_1	電源装置 1	131 ページの「電源装置の保守」

関連情報

- [27 ページの「Oracle ILOM /HOST および /SP ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)

Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント

Oracle ILOM ターゲット	コンポーネント	リンク
/SYS	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/COMe	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/ETHSWITCH0	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/FMX	ファンモジュール x	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/SYS/FMx/FANy	ファンモジュール x	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/SYS/FMx/FANy/TACH	ファンモジュール x	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/SYS/FMx/PRSNT	ファンモジュール x	121 ページの「ファンモジュールの保守」
/SYS/IBSWITCH0	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/LOCATE	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/T_AMB	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/T_HCA	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/T_IBSWITCH	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/T_OUT	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+1V0	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+1V2	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+1V5	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+1V8	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+2V5	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+3V3	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+0V85_HCA	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+1V05_HCA	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」

Oracle ILOM ターゲット	コンポーネント	リンク
/SYS/MB/V_+0V85_IBSW	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+1V05_IBSW	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_+3V3_MBOMA	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/MB/V_VBAT	バッテリー	109 ページの「バッテリーの保守」
/SYS/OK	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/PSx	電源装置 x	131 ページの「電源装置の保守」
/SYS/PSx/INPUT_POWER	電源コード	Oracle InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド
/SYS/PSx/I_IN	電源装置 x	131 ページの「電源装置の保守」
/SYS/PSx/I_OUT	電源装置 x	131 ページの「電源装置の保守」
/SYS/PSx/OUTPUT_POWER	電源装置 x	131 ページの「電源装置の保守」
/SYS/PSx/PRSNT	電源装置 x	131 ページの「電源装置の保守」
/SYS/PSx/PWR0K	電源装置 x	131 ページの「電源装置の保守」
/SYS/PSx/V_IN	電源コード	Oracle InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド
/SYS/PSx/V_OUT	電源装置 x	131 ページの「電源装置の保守」
/SYS/SERVICE	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/SP	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/SP/OK	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/SP/V_+1V0	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/SP/V_+1V5	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/SP/V_+1V8	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
/SYS/SP/V_+3V3	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」

関連情報

- [27 ページの「Oracle ILOM /HOST および /SP ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [28 ページの「Oracle ILOM /System ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)

障害が発生した項目の交換可能コンポーネント

障害が発生した項目	コンポーネント	リンク
バッテリー	バッテリー	109 ページの「バッテリーの保守」
バッテリー電圧	バッテリー	109 ページの「バッテリーの保守」
ケーブル	ケーブル	83 ページの「データケーブルの保守」
シャーシ LED	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」

障害が発生した項目	コンポーネント	リンク
日付	バッテリー	109 ページの「バッテリーの保守」
Ethernet スイッチチップ	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
ファンモジュール	ファンモジュール	121 ページの「ファンモジュールの保守」
ファンモジュールのアテンション LED	ファンモジュール	121 ページの「ファンモジュールの保守」
ファンモジュールのファン速度	ファンモジュール	121 ページの「ファンモジュールの保守」
ファンモジュールの存在	ファンモジュール	121 ページの「ファンモジュールの保守」
IB スイッチチップ	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
リンク LED	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
	ケーブル	83 ページの「データケーブルの保守」
メインボード	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
メインボードの LED	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
メインボードの温度	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
メインボードの電圧	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
PrizmMT ケーブル	ケーブル	83 ページの「データケーブルの保守」
消費電力	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
	電源コード	Oracle InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド
	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
電源装置	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
電源装置のアテンション LED	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
電源装置の電流	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
電源装置のファン	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
電源装置の出力電圧	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
電源装置の存在	電源装置	131 ページの「電源装置の保守」
RJ-45 ケーブル	ケーブル	83 ページの「データケーブルの保守」
SFP+ ケーブル	ケーブル	83 ページの「データケーブルの保守」
SP	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
SP LED	スイッチ	141 ページの「スイッチの交換」
時間	バッテリー	109 ページの「バッテリーの保守」

関連情報

- [27 ページの「Oracle ILOM /HOST および /SP ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [28 ページの「Oracle ILOM /System ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)
- [29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)

診断ツール

ツール	リンク
ステータス LED – シャーシおよびコンポーネントの状況または状態を示します。 ■ シャーシ ■ ファンモジュール ■ 電源装置 ■ SP	32 ページの「トラブルシューティング (LED)」
Oracle ILOM /SP ターゲット – Oracle ILOM のためのサービス、セッション、および構成パラメータに関する情報を提供します。	43 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM /SP ターゲット)」
Oracle ILOM ログ – スイッチハードウェアで発生したイベントのアカウントを提供します。	44 ページの「Oracle ILOM ログエントリを表示する」
Oracle ILOM/System ターゲット – スイッチのハードウェアに関する情報を提供します。	47 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM /System ターゲット)」
Oracle ILOM レガシーターゲット – スイッチに関する詳細なコンポーネントおよび環境情報を提供します。	52 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM レガシーターゲット)」

関連情報

- [15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」](#)
- [27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」](#)
- [32 ページの「診断ツール」](#)
- [32 ページの「トラブルシューティング \(LED\)」](#)
- [38 ページの「SP へのアクセス」](#)
- [43 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /SP ターゲット\)」](#)
- [47 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /System ターゲット\)」](#)
- [52 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM レガシーターゲット\)」](#)

トラブルシューティング (LED)

これらのトピックでは、スイッチの状態を目視で点検できます。

- [33 ページの「LED を検査する」](#)
- [34 ページの「フロントパネルの LED」](#)
- [34 ページの「SFP+ リンク LED」](#)
- [35 ページの「RJ-45 リンク LED」](#)

- [36 ページの「シャーシステータス LED」](#)
- [37 ページの「コンポーネント LED」](#)

関連情報

- [15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」](#)
- [27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」](#)
- [32 ページの「診断ツール」](#)
- [38 ページの「SP へのアクセス」](#)
- [43 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /SP ターゲット\)」](#)
- [47 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /System ターゲット\)」](#)
- [52 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM レガシーターゲット\)」](#)

▼ LED を検査する

1. スwitchの場所で、各 LED の状態を観察して記録します。
2. 観察した内容をステータスの説明と比較します。

次を参照してください。

- [34 ページの「フロントパネルの LED」](#)
- [34 ページの「SFP+ リンク LED」](#)
- [35 ページの「RJ-45 リンク LED」](#)
- [36 ページの「シャーシステータス LED」](#)
- [37 ページの「コンポーネント LED」](#)

3. 提供された情報が保守操作の十分な根拠となる場合は、そのコンポーネントに対して保守を実行します。

保守タスクへのリンクについては、[30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。

関連情報

- [34 ページの「フロントパネルの LED」](#)
- [34 ページの「SFP+ リンク LED」](#)
- [35 ページの「RJ-45 リンク LED」](#)
- [36 ページの「シャーシステータス LED」](#)
- [37 ページの「コンポーネント LED」](#)

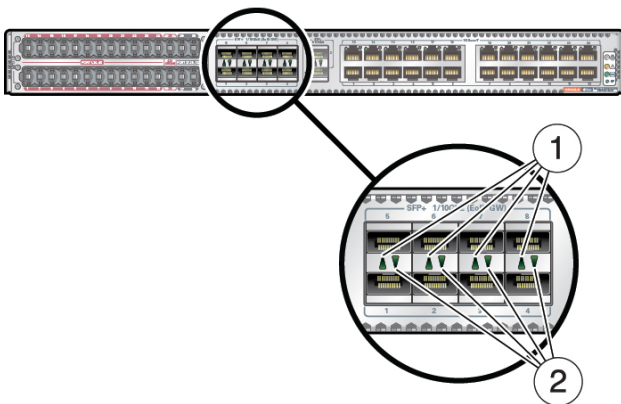
フロントパネルの LED

スイッチのフロントパネルには、電源装置 LED とファンモジュール LED 以外のほかの LED は存在しません。37 ページの「コンポーネント LED」を参照してください。

関連情報

- 33 ページの「LED を検査する」
- 34 ページの「SFP+ リンク LED」
- 35 ページの「RJ-45 リンク LED」
- 36 ページの「シャーシステータス LED」
- 37 ページの「コンポーネント LED」

SFP+ リンク LED



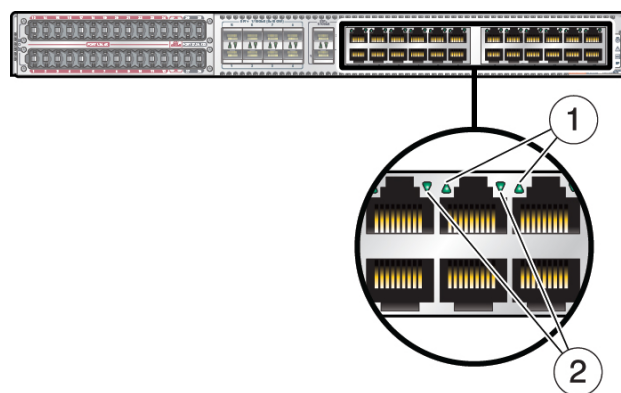
番号	LED	説明
1	SFP+ リンク LED (ペアの左、緑色)	SFP+ コネクタの上側の列のこれらの状態を示します。 ■ 点灯 – リンクが確立され、稼働しています。 ■ 点滅 – リンク上でアクティビティーが発生しています。 ■ 消灯 – どのリンクも確立されていないか、またはリンクが停止しています。
2	SFP+ リンク LED (ペアの右、緑色)	SFP+ コネクタの下側の列のこれらの状態を示します。

番号	LED	説明
		■ 点灯 – リンクが確立され、稼働しています。 ■ 点滅 – リンク上でアクティビティーが発生しています。 ■ 消灯 – どのリンクも確立されていないか、またはリンクが停止しています。

関連情報

- [33 ページの「LED を検査する」](#)
- [34 ページの「フロントパネルの LED」](#)
- [35 ページの「RJ-45 リンク LED」](#)
- [36 ページの「シャシステータス LED」](#)
- [37 ページの「コンポーネント LED」](#)

RJ-45 リンク LED



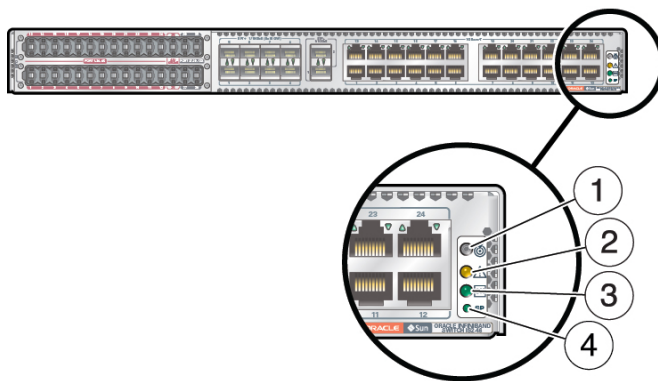
番号	LED	説明
1	RJ-45 リンク LED (コネクタの左、緑色)	RJ-45 コネクタの上側の列のこれらの状態を示します。 ■ 点灯 – リンクが確立され、稼働しています。 ■ 点滅 – リンク上でアクティビティーが発生しています。 ■ 消灯 – どのリンクも確立されていないか、またはリンクが停止しています。
2	RJ-45 リンク LED (コネクタの右、緑色)	RJ-45 コネクタの下側の列のこれらの状態を示します。 ■ 点灯 – リンクが確立され、稼働しています。 ■ 点滅 – リンク上でアクティビティーが発生しています。

番号	LED	説明
		■ 消灯 – どのリンクも確立されていないか、またはリンクが停止しています。

関連情報

- 33 ページの「LED を検査する」
- 34 ページの「フロントパネルの LED」
- 34 ページの「SFP+ リンク LED」
- 36 ページの「シャーシステータス LED」
- 37 ページの「コンポーネント LED」

シャーシステータス LED



番号	LED	説明
1	位置特定 LED (上部、白色)	これらの状況を示します。 ■ 速い点滅 – スイッチが自身を識別しています。位置特定 LED を点灯するには、Oracle ILOM CLI で次のように入力します。 set /SYS/LOCATE value=Fast_Blink ■ 消灯 – スイッチが自身を識別していません。位置特定 LED を消灯するには、Oracle ILOM CLI で次のように入力します。 set /SYS/LOCATE value=Off
2	保守アクション要求 LED (中央、オレンジ色)	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – 保守が必要です。Oracle ILOM は、この表示の原因となった障害または故障を検出できます。

番号	LED	説明
		Oracle ILOM /System/Open_Problems ターゲットは、このインジケータが点灯する原因となったすべての障害に関する詳細情報を提供します。 一部の障害状態では、保守要求 LED に加えて、個々のコンポーネント障害の LED が点灯します。
		■ 消灯 – スイッチはその正常な状態で動作しています。障害はありません。
3	システム OK LED (中央、緑色)	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – スイッチは電源が投入され、その正常な動作状態で動作しています。保守アクションは必要ありません。 ■ 消灯 – スイッチはその正常な状態で動作していません。スイッチの電源が入っていない可能性があります。SP がブート中である可能性があります。
4	SP LED (下部、緑色)	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – SP は電源が投入され、その正常な動作状態で動作しています。保守アクションは必要ありません。 ■ ゆっくり点滅 – SP がブートしています。 ■ 消灯 – SP はその正常な状態で動作していません。電源が入っていないか、または SP に障害が発生しています。

関連情報

- [33 ページの「LED を検査する」](#)
- [34 ページの「フロントパネルの LED」](#)
- [34 ページの「SFP+ リンク LED」](#)
- [35 ページの「RJ-45 リンク LED」](#)
- [37 ページの「コンポーネント LED」](#)

コンポーネント LED

コンポーネント	リンク
電源装置	132 ページの「電源装置 LED」
ファンモジュール	122 ページの「ファンモジュール LED」

関連情報

- [33 ページの「LED を検査する」](#)
- [34 ページの「フロントパネルの LED」](#)
- [34 ページの「SFP+ リンク LED」](#)
- [35 ページの「RJ-45 リンク LED」](#)
- [36 ページの「シャーシステータス LED」](#)

SP へのアクセス

これらのトピックでは、スイッチシャーシの管理のために SP にアクセスする方法について説明します。

- [38 ページの「SP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)
- [39 ページの「SP にアクセスする \(SER MGT ポート\)」](#)
- [40 ページの「SCP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)
- [40 ページの「ネットワーク管理を構成して有効にする \(SER MGT ポート\)」](#)

関連情報

- [15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」](#)
- [27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」](#)
- [32 ページの「診断ツール」](#)
- [32 ページの「トラブルシューティング \(LED\)」](#)
- [43 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /SP ターゲット\)」](#)
- [47 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /System ターゲット\)」](#)
- [52 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM レガシーターゲット\)」](#)

▼ SP にアクセスする (RJ-45 ポート)

1. 管理ネットワーク経由で SP に接続されているネットワーク端末デバイスにアクセスします。
2. SSH セッションを使用して、Oracle ILOM インタフェースにログインします。

```
% ssh user@IP_address
```

ここでは:

- `user` は、SP を管理するユーザー名です。デフォルトのユーザーは `root` です。
- `IP_address` は、SP の IP アドレスまたはホスト名です。

3. プロンプトで、ユーザーのパスワードを入力します。

デフォルトのパスワードは `changeme` です。

Oracle ILOM CLI プロンプトが表示され、SP を管理できるようになります。

4. トラブルシューティング操作の一部としてこのタスクを実行した場合は、トラブルシューティングプロセスに戻ります。

22 ページの「リモートで診断を実行する」を参照してください。

関連情報

- 39 ページの「SP にアクセスする (SER MGT ポート)」
- 40 ページの「SCP にアクセスする (RJ-45 ポート)」
- 40 ページの「ネットワーク管理を構成して有効にする (SER MGT ポート)」

▼ SP にアクセスする (SER MGT ポート)

1. SER MGT ポートに接続されている端末サーバーまたはシリアルインタフェースにアクセスします。
2. シリアルデバイスが正しいパラメータで構成されていることを確認します。
 - ボー – 9600
 - データビット – 8
 - パリティ – N
 - ストップビット – 1
 - フロー制御 – なし

3. シリアルデバイスで、Return キーまたは Enter キーを何回か押して、接続を同期させます。

```
hostname login:
```

ここで、*hostname* は SP のホスト名です。

4. SP を管理するユーザー名とそのパスワードを使用して Oracle ILOM インタフェースにログインします。

デフォルトのユーザー名は root であり、パスワードは changeme です。

CLI プロンプトが表示され、SP を管理できるようになります。

5. 次の手順を確認します。
 - トラブルシューティング操作の一部としてこのタスクを実行した場合は、トラブルシューティングプロセスに戻ります。
22 ページの「リモートで診断を実行する」を参照してください。
 - このタスクを交換用スイッチの構成の一部として実行した場合は、その手順に戻ります。
163 ページの「交換用スイッチを構成する」を参照してください。

関連情報

- [38 ページの「SP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)
- [40 ページの「SCP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)
- [40 ページの「ネットワーク管理を構成して有効にする \(SER MGT ポート\)」](#)

▼ SCP にアクセスする (RJ-45 ポート)

1. 管理ネットワークに接続されているホストから、Web ブラウザを起動します。
2. **Oracle Fabric Manager** にログインします。

`https://SCP_IP_address:8443/xms`

ここで、`SCP_IP_address` は [40 ページの「ネットワーク管理を構成して有効にする \(SER MGT ポート\)」](#) で構成した SCP の IP アドレスです。

Oracle Fabric Manager のログインページが表示されます。

3. **Oracle Fabric Manager** 管理者のユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名は `root`、パスワードは `changeme` です。
4. このタスクを交換用スイッチの構成の一部として実行した場合は、その手順に戻ります。
[163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#) を参照してください。

関連情報

- [38 ページの「SP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)
- [39 ページの「SP にアクセスする \(SER MGT ポート\)」](#)
- [40 ページの「ネットワーク管理を構成して有効にする \(SER MGT ポート\)」](#)

▼ ネットワーク管理を構成して有効にする (SER MGT ポート)

注記 - 状況によっては、RJ-45 ポートのネットワーク管理インタフェースからこのタスクを実行できる場合があります。このタスクの完了時に接続が切断されるため、管理を継続するには、SP に再度アクセスする必要があります。

1. **SER MGT ポートから Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[39 ページの「SP にアクセスする \(SER MGT ポート\)」](#) を参照してください。

2. SP ネットワーク管理パラメータを構成します。

```
-> set /SP/network property=value property=value ...
```

ここでは:

- *property* は構成するネットワークのパラメータです。
- *value* は、構成される *property* の値です。

これらのプロパティがサポートされています。

- *pendingipdiscovery-value* は構成する IP 検出の方法です (static または dhcp)。

注記 - この値が dhcp である場合は、DHCP サーバーが SP にどのように IP アドレスとホスト名を割り当てるかを知っている必要があります。

- *pendingipaddress-value* は構成する SP の IP アドレスです。DHCP には必要ありません。
- *pendingipgateway-value* は、管理ネットワークのルーティングゲートウェイの IP アドレスです。DHCP には必要ありません。
- *pendingipnetmask-value* は、管理ネットワークのネットマスクです。DHCP には必要ありません。

注記 - 1 つのコマンド行で、1 つのプロパティからすべてのプロパティまでを構成できます。

3. IPv4 による SP ネットワーク管理を有効にします。

```
-> set /SP/network state=ipv4-only
```

4. SP へのセキュア接続を有効にします。

- a. CLI インタフェースと SSL の場合は、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/ssh state=enabled
```

- b. Web インタフェースと HTTPS の場合は、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/https servicestate=enabled
```

5. SP ネットワーク管理の構成をコミットします。

```
-> set /SP/network commitpending=true
```

新しい構成パラメータがただちに有効になります。

6. ホストコンソールを起動します。

```
-> start /HOST/console
```

```
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type ESC (
```

7. **Enter キーを押します。**

```
Oracle Linux Server release 6.6
Kernel 4.0.4-15.el6uek.x86_64 on an x86_64
hostname login:
```

8. **root ユーザーとして SCP にログインします。**

```
hostname login: root
Password:password
Last login: Fri May 25 09:51:36 on ttyS0
[root@hostname ~]#
```

デフォルトの *password* は *changeme* です。

9. **SCP IP アドレスを設定します。**

```
[root@hostname ~]# nm3tool ipaddress SCP_IP_address[dhcp|i]lom
```

ここで、*SCP_IP_address* は SCP に割り当てられる IP アドレスです。あるいは、DHCP または Oracle ILOM による IP アドレスの割り当てを構成できます。静的 IP アドレスを指定する場合は、管理ネットワークゲートウェイのネットマスクと IP アドレスも指定する必要があります。例:

```
[root@hostname ~]# nm3tool ipaddress 123.45.67.90
Enter netmask: 255.255.255.0
Enter default gateway: 123.45.67.1
Restart network now? (Y/n)
```

10. **ネットワークを再起動して新しい値を使用します。**

```
Restart network now? (Y/n)Y
Shutting down interface eth0: [ OK ]
Shutting down interface eth1: [ OK ]
Shutting down loopback interface: [ OK ]
Bringing up loopback interface: [ OK ]
Bringing up interface eth0:
Determining IP information for eth0... done.
[ OK ]
Bringing up interface eth1: Determining if ip address 169.254.2.1 is already in use for
device eth1...
[ OK ]
```

```
[root@hostname ~]#
```

11. **(オプション) ホスト名を設定します。**

新しいホスト名を指定します。例:

```
[root@hostname ~]# nm3tool hostname hostname
```

ここで、*hostname* は SCP のホスト名です。例:

```
[root@hostname ~]# nm3tool hostname hostwiththemost
[root@hostname ~]#
```

12. **変更を適用します。**

```
[root@hostname ~]# nm3tool apply
Setting network configuration from XML
[root@hostname ~]#
```

13. 次の手順を確認します。

- **トラブルシューティング操作の一部としてこのタスクを実行した場合は、トラブルシューティングプロセスに戻ります。**
[22 ページの「リモートで診断を実行する」](#) を参照してください。
- **このタスクを交換用スイッチの構成の一部として実行した場合は、その手順に戻ります。**
[163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#) を参照してください。

関連情報

- [38 ページの「SP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)
- [39 ページの「SP にアクセスする \(SER MGT ポート\)」](#)
- [40 ページの「SCP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)

トラブルシューティング (Oracle ILOM /SP ターゲット)

これらのトピックではログを表示し、ネットワーク管理パラメータをチェックし、ユーザーセッションを表示し、さらにファームウェアバージョンを確認します。

- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリを表示する」](#)
- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」](#)
- [45 ページの「ネットワーク管理の構成プロパティを表示する」](#)
- [46 ページの「ユーザーセッション情報を表示する」](#)
- [47 ページの「SP ファームウェアのバージョンを表示する」](#)

関連情報

- [15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」](#)
- [27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」](#)
- [32 ページの「診断ツール」](#)
- [32 ページの「トラブルシューティング \(LED\)」](#)
- [38 ページの「SP へのアクセス」](#)
- [47 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM /System ターゲット\)」](#)
- [52 ページの「トラブルシューティング \(Oracle ILOM レガシーターゲット\)」](#)

▼ Oracle ILOM ログエントリを表示する

1. Oracle ILOM CLI にアクセスします。

38 ページの「[SP へのアクセス](#)」を参照してください。

2. Oracle ILOM イベントログを表示します。

```
-> show /SP/logs/event/list Class==class Type==type
```

ここで、*class* と *type* は 44 ページの「[Oracle ILOM ログエントリのフィルタ](#)」にある表から選択されます。

たとえば、障害に関連するログエントリを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/logs/event/list Class==Fault Type==Fault
Event
ID      Date/Time                Class    Type      Severity
-----
1741    Tue Mar  6 20:13:05 2012  Fault    Fault     critical
        Fault detected at time = Tue Mar  6 20:13:05 2012. The suspect component:
        /SYS/PS1 has fault.chassis.power.ext-fail with probability=100. Refer to
        ...
->
```

この例では、電源装置 1 に障害が発生しています。障害に関する詳細情報の URL が提供されています。

関連情報

- 44 ページの「[Oracle ILOM ログエントリのフィルタ](#)」
- 45 ページの「[ネットワーク管理の構成プロパティを表示する](#)」
- 46 ページの「[ユーザーセッション情報を表示する](#)」
- 47 ページの「[SP ファームウェアのバージョンを表示する](#)」

Oracle ILOM ログエントリのフィルタ

Oracle ILOM ログを表示する場合は、*Class* パラメータと *Type* パラメータの組み合わせを使用して、出力を特定のクラスとタイプのエントリにフィルタ処理できます。44 ページの「[Oracle ILOM ログエントリを表示する](#)」を参照してください。この表は、それらの組み合わせと表示されるエントリについて説明しています。

パラメータ	表示されるエントリ
Class==Audit Type==Log	構成が変更されるコマンド。説明には、ユーザー、コマンド、コマンドパラメータ、および成功または失敗が含まれます。
Class==IPMI Type==Log	IPMI システムイベントログに記録されるイベントはすべて、管理ログにも記録されます。

パラメータ	表示されるエントリ
Class==Chassis Type==State	コンポーネントインベントリおよび一般的なスイッチ状態への変更。
Class==Chassis Type==Action	スイッチシャーシのシャットダウンイベント、コンポーネントのホット挿入およびホット取り外し。
Class==Fault Type==Fault	障害管理の障害。説明では、障害が検出された時間と疑わしいコンポーネントが提供されます。
Class==Fault Type==Repair	障害管理の修復。説明では、コンポーネント名が提供されます。

この出力は、次の 5 つの値のうちのいずれかを持つ **Severity** パラメータを使用してさらにフィルタ処理できます。

- Debug
- Down
- Critical
- Major
- Minor

たとえば、スイッチインベントリへのマイナーな変更を示すログエントリのみを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/logs/event/list Class==Chassis Type==State Severity==Minor
```

関連情報

- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリを表示する」](#)
- [45 ページの「ネットワーク管理の構成プロパティを表示する」](#)
- [46 ページの「ユーザーセッション情報を表示する」](#)
- [47 ページの「SP ファームウェアのバージョンを表示する」](#)

▼ ネットワーク管理の構成プロパティを表示する

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. **SP がネットワーク経由で通信するために構成されたパラメータを表示します。**

```
-> show -d properties /SP/network
/SP/network
Properties:
commitpending = (Cannot show property)
dhcp_clientid = none
dhcp_server_ip = none
ipaddress = 10.153.113.85
ipdiscovery = static
```

```
ipgateway = 10.153.113.1
ipnetmask = 255.255.255.0
.
.
.
state = ipv4-only
vland_id = (none)
->
```

関連情報

- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリを表示する」](#)
- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」](#)
- [46 ページの「ユーザーセッション情報を表示する」](#)
- [47 ページの「SP ファームウェアのバージョンを表示する」](#)

▼ ユーザーセッション情報を表示する

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。

2. **ユーザーセッション番号を表示します。**

```
-> show -d targets /SP/sessions
/SP/sessions
Targets:
4 (current)
->
```

この例では、ユーザーセッションは番号 4 の 1 つしかありません。

3. **特定のセッションに関する情報を表示します。**

```
-> show -d properties /SP/sessions/x
```

ここで、*x* はセッション番号です。例:

```
-> show -d properties /SP/sessions/4
/SP/sessions/4
Properties:
username = root
role = aucro
starttime = Wed Sep 16 20:15:36 2015
type = shell
mode = normal
->
```

関連情報

- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリを表示する」](#)
- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」](#)
- [45 ページの「ネットワーク管理の構成プロパティーを表示する」](#)

- [47 ページの「SP ファームウェアのバージョンを表示する」](#)

▼ SP ファームウェアのバージョンを表示する

外部リソースを参照する場合は、バグ修正またはアップグレードのためのファームウェアバージョンを知っていると役立つことがあります。

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. **SP ファームウェアのバージョンとビルド時間を表示します。**

```
-> version /SP
SP firmware 3.2.0.0
SP firmware build number: 102282
SP firmware date: Fri Aug 28 13:41:21 CEST 2015
SP filesystem version: 0.2.10
->
```

関連情報

- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリを表示する」](#)
- [44 ページの「Oracle ILOM ログエントリのフィルタ」](#)
- [45 ページの「ネットワーク管理の構成プロパティを表示する」](#)
- [46 ページの「ユーザーセッション情報を表示する」](#)

トラブルシューティング (Oracle ILOM /System ターゲット)

これらのトピックでは、さまざまなシステムおよびコンポーネントの健全性状態を表示します。

- [48 ページの「問題のあるコンポーネントを表示する」](#)
- [49 ページの「未解決の問題の障害」](#)
- [50 ページの「コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する」](#)
- [51 ページの「Oracle ILOM ターゲットの健全性状態」](#)
- [52 ページの「アクティブな消費電力を表示する」](#)

関連情報

- [15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」](#)

- 27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」
- 32 ページの「診断ツール」
- 32 ページの「トラブルシューティング (LED)」
- 38 ページの「SP へのアクセス」
- 43 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM /SP ターゲット)」
- 52 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM レガシーターゲット)」

▼ 問題のあるコンポーネントを表示する

1. Oracle ILOM CLI にアクセスします。

38 ページの「SP へのアクセス」を参照してください。

2. 問題のあるコンポーネントを表示します。

```
-> show /System/Open_Problems
Open Problems (0)
Date/Time          Subsystems          Component
-----
Thu Dec 17 05:00:01 2015 System          MB (Motherboard)
  fault.chassis.battery.fail (Probability:100, UUID:76a2179a-51bd-c836-a7f1-af62953577fa,
  Resource:/SYS/MB, Part
  Number:7092577, Serial Number:AK00329231, Reference Document:http://support.oracle.com/
  msg/---)
->
```

この例では、単語 `fault.chassis` に続くテキストによって識別されているように、バックアップバッテリーに問題があります。

3. この出力を 49 ページの「未解決の問題の障害」にある例と比較します。
4. 次の手順を確認します。

- 出力で識別されているコンポーネントを交換します。

保守タスクへのリンクについては、29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」および 30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」を参照してください。

- さらにトラブルシューティングを実行します。

50 ページの「コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する」および 54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」を参照してください。

関連情報

- 49 ページの「未解決の問題の障害」

- [50 ページの「コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する」](#)
- [51 ページの「Oracle ILOM ターゲットの健全性状態」](#)
- [52 ページの「アクティブな消費電力を表示する」](#)

未解決の問題の障害

/System/Open_Problems ターゲットの出力で、`fault.chassis.` で始まるテキストの文字列は、障害が発生したコンポーネントを識別します。さらに、`Resource` に続くテキストは、障害が発生したコンポーネントの Oracle ILOM ターゲットです。この表は、さまざまなコンポーネント障害の出力例を示しています。障害が発生したコンポーネントを識別したあと、保守タスクへのリンクについて [29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#) および [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#) を参照してください。

障害が発生したコンポーネント	/System/Open_Problems の出力
周囲温度	<pre>Date/Time Subsystems Component ----- ----- Thu Dec 17 05:11:35 2015 System MB (Motherboard) fault.chassis. env.temp.over-fail (Probability:100, UUID:4c4bdfa1-f7d5-c7a7-e59e-f9a8ce4fab21, Resource:/SYS/MB, Part Number:7092577, Serial Number:BS00329231, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)</pre>
バッテリー	<pre>Date/Time Subsystems Component ----- ----- Thu Dec 17 05:00:01 2015 System MB (Motherboard) fault.chassis. battery.fail (Probability:100, UUID:76a2179a-51bd-c836-a7f1-af62953577fa, Resource:/SYS/MB, Part Number:7092577, Serial Number:BS00329231, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)</pre>
ファンモジュール	<pre>Date/Time Subsystems Component ----- ----- Thu Dec 17 05:18:44 2015 System FMx (Fan Module) fault.chassis. device.fan.fail (Probability:100, UUID:0ebf1655-8700-c90e-fa53-ea6c3b2b25a0, Resource:/SYS/FMx, Part Number:N/A, Serial Number:N/A, Reference Document:http:// support.oracle.com/msg/---)</pre>
メインボードの温度	<pre>Date/Time Subsystems Component ----- ----- Thu Dec 17 05:04:16 2015 System MB (Motherboard) fault.chassis.temp. shutdown (Probability:50, UUID:01bacc0f-986e-e346-94aa-84e41a1c1595, Resource:/ SYS/MB, Part Number:7092577, Serial Number:BS00329231, Reference Document:http:// support.oracle.com/msg/---)</pre>
メインボードの電圧	<pre>Date/Time Subsystems Component ----- ----- Thu Dec 17 05:13:26 2015 System SP (Service Processor) fault. chassis.voltage.fail (Probability:100, UUID:0a408985-6011-ccd7-c3a1-e01c7254ea87, Resource:/SYS/SP, Part Number:7096151, Serial Number:BS9089M+15306P00M0, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)</pre>
電源装置	<pre>Date/Time Subsystems Component ----- ----- Thu Dec 17 05:17:11 2015 Power PSx (Power Supply 1) fault.chassis. device.psu.fail (Probability:100, UUID:b516a939-23c2-ee8b-e997-d915ca03d044, Resource:/SYS/PSx, Part Number:7065505-01, Serial Number:BS2517, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)</pre>

関連情報

- [48 ページの「問題のあるコンポーネントを表示する」](#)
- [50 ページの「コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する」](#)
- [51 ページの「Oracle ILOM ターゲットの健全性状態」](#)
- [52 ページの「アクティブな消費電力を表示する」](#)

▼ コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する

1. Oracle ILOM CLI にアクセスします。
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. スイッチコンポーネントの健全性を表示します。

```
-> show /System -t health
Target                                     | Property | Value
-----|-----|-----
/System                                  | health   | OK
/System/Power                           | health   | OK
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_0 | health   | OK
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_1 | health   | OK
/System/Cooling                          | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_0               | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_1               | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_2               | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_3               | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_4               | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_5               | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_6               | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_7               | health   | OK
/System/Networking                       | health   | OK
/System/Networking/Switches/Switch_0     | health   | OK
/System/Networking/Switches/Switch_1     | health   | OK
->
```

3. この出力で、**value** 列の健全性状態を識別します。
[51 ページの「Oracle ILOM ターゲットの健全性状態」](#)を参照してください。
この表を健全でないコンポーネントの識別に役立ててください。

ターゲット	コンポーネント
/System	スイッチ
/System/Cooling	ファン要素
/System/Networking	スイッチチップ
/System/Power	電源装置

4. 次の手順を確認します。

- さらにトラブルシューティングを実行します。
54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」を参照してください。
- コンポーネントを交換します。
保守タスクへのリンクについては、28 ページの「Oracle ILOM /System ターゲットの交換可能コンポーネント」または 30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」を参照してください。

関連情報

- 48 ページの「問題のあるコンポーネントを表示する」
- 49 ページの「未解決の問題の障害」
- 51 ページの「Oracle ILOM ターゲットの健全性状態」
- 52 ページの「アクティブな消費電力を表示する」

Oracle ILOM ターゲットの健全性状態

この表を使用して、Oracle ILOM /System ターゲットの health プロパティで表示される健全性状態を明確にしてください。

健全性状態	説明
OK	スイッチまたはハードウェアコンポーネントが完全に機能しています。
Not Available	Oracle ILOM は、このハードウェアコンポーネントの健全性ステータスを表示できません。
Service Required	Oracle ILOM に HMP のインストールが必要になる場合があります。Oracle HMP ドキュメントライブラリ (http://docs.oracle.com/cd/E20451_01/) を参照してください。 Oracle ILOM は、問題を解決するには保守アクションが必要になる、コンポーネントに関する問題を検出しました。 この健全性ステータスがシステムレベルで表示されている場合は、/System/Open_Problems ターゲットを表示してください。48 ページの「問題のあるコンポーネントを表示する」を参照してください。この健全性ステータスが「未解決の問題」の表に表示されている場合は、その表に示されている URL で詳細を参照してください。

関連情報

- 48 ページの「問題のあるコンポーネントを表示する」
- 49 ページの「未解決の問題の障害」
- 50 ページの「コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する」

- [52 ページの「アクティブな消費電力を表示する」](#)

▼ アクティブな消費電力を表示する

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. **消費されている電力をリアルタイムで表示します。**

```
-> show /System/Power actual_power_consumption
/System/Power
Properties:
  actual_power_consumption = 188 watts
->
```

電力はワット数で表示されます。

関連情報

- [48 ページの「問題のあるコンポーネントを表示する」](#)
- [49 ページの「未解決の問題の障害」](#)
- [50 ページの「コンポーネントおよびシステムの一般的な健全性を表示する」](#)
- [51 ページの「Oracle ILOM ターゲットの健全性状態」](#)

トラブルシューティング (Oracle ILOM レガシーターゲット)

これらのトピックでは、コンポーネントパラメータの測定された値を表示する方法について説明します。

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)

- 63 ページの「リセット可能なターゲット」

関連情報

- 15 ページの「スイッチのトラブルシューティング」
- 27 ページの「障害が発生したターゲットのコンポーネントの識別」
- 32 ページの「診断ツール」
- 32 ページの「トラブルシューティング (LED)」
- 38 ページの「SP へのアクセス」
- 43 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM /SP ターゲット)」
- 47 ページの「トラブルシューティング (Oracle ILOM /System ターゲット)」

▼ Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする

Oracle ILOM レガシーターゲットは、このタスクが実行されるまで使用できないか、または機能しません。

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**

38 ページの「SP へのアクセス」を参照してください。

2. **Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にします。**

```
-> set /SP/cli legacy_targets=enabled
Set 'legacy_targets' to 'enabled'
->
```

3. **これで、Oracle ILOM レガシーターゲットで診断を実行できます。**

54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」を参照してください。

関連情報

- 54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」
- 55 ページの「障害を手動でクリアする」
- 56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」
- 57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」
- 58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」
- 59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」
- 60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」
- 61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」
- 62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」

- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

▼ 特定のコンポーネントのステータスを表示する

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. まだ行っていない場合は、**Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にします。**
[53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)を参照してください。
3. **コンポーネントステータスのタイプごとに、適切なコマンドを入力します。**

- **障害状態の場合は、次のように入力します。**

```
-> show target fault_state
```

ここで、*target* は [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)にある表の値です。OK の障害状態は、障害がないことを示します。Faulted の障害状態は、障害が存在することを示します。

- **FRUID の場合は、次のように入力します。**

```
-> show target -d properties
```

ここで、FRUID を表示できる *target* は [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)にある表の値です。

- **アラーム状態の場合は、次のように入力します。**

```
-> show target alarm_status
```

ここで、*target* は [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)にある表の値です。cleared のアラーム状態は、アラームがないことを示します。state asserted のアラーム状態は、アラームが存在することを示します。

- **コンポーネントの電源、電圧、温度、ファン速度、または LED 状態の場合は、次のように入力します。**

```
-> show target value
```

ここで、*target* は次の各セクションにある表の値です。

- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)

- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
 - [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
4. コマンドの出力が障害を示しているか、または正常な動作パラメータの範囲外の値を表示している場合は、対応する表によって示されているコンポーネントを交換します。

そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)または [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

▼ 障害を手動でクリアする

障害は、SP の Oracle ILOM またはネイティブ OS が検出できます。ネイティブ OS は、検出した障害を Oracle ILOM に通信します。

Oracle ILOM が障害およびそのあとのコンポーネント交換を検出した場合、Oracle ILOM はその障害を自動的にクリアします。ただし、ネイティブ OS が障害を検出した場合は、解決したあとに Oracle ILOM からその障害を手動でクリアしなければならないことがあります。

既知の正常なコンポーネントへの交換操作のあとも障害が解決しない場合は、この手順を使用してその障害をクリアします。

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. **コンポーネントをリセットして障害を手動でクリアします。**

```
-> set target clear_fault_action=true
```

ここで、*target* は障害が発生したコンポーネントの Oracle ILOM ターゲットです。ターゲットのリストについては、[63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)を参照してください。

たとえば、電源装置 0 での障害をリセットしてクリアするには、次のように入力します。

```
-> set /SYS/PS0 clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/PS0 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
->
```

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット

この表は、障害状態にあるか、または FRUID 情報が存在する可能性のあるコンポーネントの一覧を示しています。そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)または [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。

障害が発生したセンサー	Oracle ILOM ターゲット	交換されるコンポーネント
ファンモジュール <i>x</i> の障害	/SYS/FM <i>x</i>	ファンモジュール <i>x</i>
ファンモジュール <i>x</i> のファン <i>y</i> の障害	/SYS/FM <i>x</i> /FAN <i>y</i>	ファンモジュール <i>x</i>
メインボードの障害および FRUID	/SYS/MB	スイッチ
電源装置 <i>x</i> の障害および FRUID	/SYS/PS <i>x</i>	電源装置 <i>x</i>
SP の障害および FRUID	/SYS/SP	スイッチ
システム障害および FRUID	/SYS	スイッチ

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット

この表は、アラーム状態にある可能性のあるコンポーネントの一覧を示しています。そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)または[30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。

アラーム状態にあるセンサー	Oracle ILOM ターゲット	交換されるコンポーネント
排気温度	/SYS/MB/T_OUT	スイッチ
ファンモジュール <i>x</i> のファン <i>y</i> の速度	/SYS/FM <i>x</i> /FAN <i>y</i> /TACH	ファンモジュール <i>x</i>
ファンモジュール <i>x</i> の存在	/SYS/FM <i>x</i> /PRSNT	ファンモジュール <i>x</i>
HCA の温度	/SYS/MB/T_HCA	スイッチ
IB スイッチチップの温度	/SYS/MB/T_IBSWITCH	スイッチ
吸気温度	/SYS/MB/T_AMB	スイッチ
メインボードの障害および FRUID	/SYS/MB	スイッチ
メインボード 1.0 VDC	/SYS/MB/V_+1V0	スイッチ
メインボード 1.2 VDC	/SYS/MB/V_+1V2	スイッチ
メインボード 1.8 VDC	/SYS/MB/V_+1V5	スイッチ
メインボード 1.8 VDC	/SYS/MB/V_+1V8	スイッチ
メインボード 2.5 VDC	/SYS/MB/V_+2V5	スイッチ
メインボード 3.3 VDC	/SYS/MB/V_+3V3	スイッチ
メインボード HCA 0.85 VDC	/SYS/MB/V_+0V85_HCA	スイッチ
メインボード HCA 1.05 VDC	/SYS/MB/V_+1V05_HCA	スイッチ
メインボード IB スイッチチップ 0.85 VDC	/SYS/MB/V_+0V85_IBSW	スイッチ
メインボード IB スイッチチップ 1.05 VDC	/SYS/MB/V_+1V05_IBSW	スイッチ

アラーム状態にあるセンサー	Oracle ILOM ターゲット	交換されるコンポーネント
メインボード MBOM 3.3 VDC	/SYS/MB/V_+3V3_MBOMA	スイッチ
メインボードスタンバイ 3.3 VDC	/SYS/MB/V_+3V3_STDBY	スイッチ
MBOM 温度	/SYS/MB/T_MBOMx	スイッチ
電源装置 x の障害および FRUID	/SYS/PSx	電源装置 x
電源装置 x の入力電流	/SYS/PSx/I_IN	電源装置 x
電源装置 x の消費された入力電力	/SYS/PSx/INPUT_POWER	電源装置 x
電源装置 x の入力電圧	/SYS/PSx/V_IN	電源装置 x
電源装置 x の OK 状態	/SYS/PSx/PWROK	電源装置 x
電源装置 x の出力電流	/SYS/PSx/I_OUT	電源装置 x
電源装置 x の供給された出力電力	/SYS/PSx/OUTPUT_POWER	電源装置 x
電源装置 x の出力電圧	/SYS/PSx/V_OUT	電源装置 x
電源装置 x の存在	/SYS/PSx/PRSNT	電源装置 x
RTC バックアップバッテリー	/SYS/MB/V_VBAT	バッテリー
SP 1.0 VDC	/SYS/SP/V_+1V0	スイッチ
SP 1.5 VDC	/SYS/SP/V_+1V5	スイッチ
SP 1.8 VDC	/SYS/SP/V_+1V8	スイッチ
SP 3.3 VDC	/SYS/SP/V_+3V3	スイッチ

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット

この表は、消費電力センサーの一覧を示しています。過剰な値や無視できる値は、障害が発生したコンポーネントを示している可能性があります。そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)または [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。

電力パラメータ	Oracle ILOM ターゲット	交換されるコンポーネント
電源装置 0 の消費された入力電力	/SYS/PS0/INPUT_POWER	電源装置 0
電源装置 0 の供給された出力電力	/SYS/PS0/OUTPUT_POWER	電源装置 0
電源装置 1 の消費された入力電力	/SYS/PS1/INPUT_POWER	電源装置 1
電源装置 1 の供給された出力電力	/SYS/PS1/OUTPUT_POWER	電源装置 1

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット

この表は、電圧センサーの一覧を示しています。範囲外の値は、障害が発生したコンポーネントを示している可能性があります。そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#) または [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#) を参照してください。

電圧センサー	Oracle ILOM ターゲット	value の範囲	交換されるコンポーネント
PS 0 への線間電圧	/SYS/PS0/V_IN	100 - 252 V	電源または電源コード
PS 1 への線間電圧	/SYS/PS1/V_IN	100 - 252 V	電源または電源コード
メインボード 1.0 VDC	/SYS/MB/V_+1V0	0.931 - 1.058 V	スイッチ
メインボード 1.2 VDC	/SYS/MB/V_+1V2	1.127 - 1.274 V	スイッチ
メインボード 1.8 VDC	/SYS/MB/V_+1V5	1.352 - 1.646 V	スイッチ
メインボード 1.8 VDC	/SYS/MB/V_+1V8	1.686 - 1.911 V	スイッチ
メインボード 2.5 VDC	/SYS/MB/V_+2V5	2.359 - 2.652 V	スイッチ
メインボード 3.3 VDC	/SYS/MB/V_+3V3	3.120 - 3.490 V	スイッチ
メインボード HCA 0.85 VDC	/SYS/MB/V_+0V85_HCA	0.823 - 0.931 V	スイッチ
メインボード HCA 1.05 VDC	/SYS/MB/V_+1V05_HCA	1.000 - 1.127 V	スイッチ

電圧センサー	Oracle ILOM ターゲット	value の範囲	交換されるコンポーネント
メインボード IB スイッチチップ 0.85 VDC	/SYS/MB/V_+0V85_IBSW	0.823 - 0.931 V	スイッチ
メインボード IB スイッチチップ 1.05 VDC	/SYS/MB/V_+1V05_IBSW	1.000 - 1.127 V	スイッチ
メインボード MBOM 3.3 VDC	/SYS/MB/V_+3V3_MBOMA	3.120 - 3.490 V	スイッチ
メインボードスタンバイ 3.3 VDC	/SYS/MB/V_+3V3_STDBY	3.120 - 3.490 V	スイッチ
RTC バックアップバッテリー	/SYS/MB/V_VBAT	> 2.548 V	バッテリー
SP 1.0 VDC	/SYS/SP/V_+1V0	0.872 - 1.117 V	スイッチ
SP 1.5 VDC	/SYS/SP/V_+1V5	1.352 - 1.646 V	スイッチ
SP 1.8 VDC	/SYS/SP/V_+1V8	1.578 - 2.009 V	スイッチ
SP 3.3 VDC	/SYS/SP/V_+3V3	2.944 - 3.685 V	スイッチ
PS 0 から供給されている電圧	/SYS/PS0/V_OUT	10 - 14 V	電源装置 0
PS 1 から供給されている電圧	/SYS/PS1/V_OUT	10 - 14 V	電源装置 1

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

温度の Oracle ILOM レガシーターゲット

この表は、温度センサーの一覧を示しています。範囲外の値は、障害が発生したコンポーネントを示している可能性があります。そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#) または [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#) を参照してください。

温度センサー	Oracle ILOM ターゲット	value の範囲	交換されるコンポーネント
排気温度	/SYS/MB/T_OUT	0 - 65°C	スイッチ
HCA の温度	/SYS/MB/T_HCA	0 - 100°C	スイッチ

温度センサー	Oracle ILOM ターゲット	value の範囲	交換されるコンポーネント
IB スイッチチップの温度	/SYS/MB/T_IBSWITCH	0 - 100°C	スイッチ
吸気温度	/SYS/MB/T_AMB	0 - 40°C	スイッチ
MBOM x 温度	/SYS/MB/T_MBOMx	0 - 70°C	スイッチ

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

ファン速度の Oracle ILOM レガシーターゲット

この表は、速度センサーの一覧を示しています。範囲外の値は、障害が発生したコンポーネントを示している可能性があります。そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#) または [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#) を参照してください。

速度センサー	Oracle ILOM ターゲット	value の範囲	交換されるコンポーネント
ファンモジュール 0 のファン 0 の速度	/SYS/FM0/FAN0/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 0
ファンモジュール 0 のファン 1 の速度	/SYS/FM0/FAN1/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 0
ファンモジュール 1 のファン 0 の速度	/SYS/FM1/FAN0/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 1
ファンモジュール 1 のファン 1 の速度	/SYS/FM1/FAN1/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 1
ファンモジュール 2 のファン 0 の速度	/SYS/FM2/FAN0/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 2
ファンモジュール 2 のファン 1 の速度	/SYS/FM2/FAN1/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 2

速度センサー	Oracle ILOM ターゲット	value の範囲	交換されるコンポーネント
ファンモジュール 3 のファン 0 の速度	/SYS/FM3/FAN0/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 3
ファンモジュール 3 のファン 1 の速度	/SYS/FM3/FAN1/TACH	6000 - 24000 RPM	ファンモジュール 3

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)
- [54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」](#)
- [55 ページの「障害を手動でクリアする」](#)
- [56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット」](#)
- [63 ページの「リセット可能なターゲット」](#)

LED 状態の Oracle ILOM レガシーターゲット

この表は、LED の value プロパティが障害状態を示している可能性のあるコンポーネントの一覧を示しています。そのコンポーネントの保守タスクへのリンクについては、[29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#) または [30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」](#) を参照してください。

コンポーネント LED	Oracle ILOM ターゲット	交換されるコンポーネント
アテンション LED	/SYS/SERVICE	スイッチ
ファンモジュールのアテンション LED	/SYS/FMx/SERVICE	ファンモジュール x
位置特定 LED	/SYS/LOCATE	スイッチ
OK LED	/SYS/OK	スイッチ
SP LED	/SYS/SP/OK	スイッチ

関連情報

- [53 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットを有効にする」](#)

- 54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」
- 55 ページの「障害を手動でクリアする」
- 56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 63 ページの「リセット可能なターゲット」

リセット可能なターゲット

この表は、手動のリセット機能を使用して `clear_fault_action` プロパティでリセット可能な Oracle ILOM タラゲットと関連コンポーネントの一覧を示しています。この表は、55 ページの「障害を手動でクリアする」のタスクに使用してください。

ターゲット	コンポーネント
/SYS	スイッチ
/SYS/MB	メインボード
/SYS/FMx	ファンモジュール x (x は 0 - 3)
/SYS/FMx/FANy	モジュール x 内に取り付けられたファンユニット y (y は 0 または 1 のどちらか、x は 0 - 3)
/SYS/PSx	電源装置 x (x は 0 または 1 のどちらか)
/SYS/SP	SP

関連情報

- 53 ページの「Oracle ILOM レガシータラゲットを有効にする」
- 54 ページの「特定のコンポーネントのステータスを表示する」
- 55 ページの「障害を手動でクリアする」
- 56 ページの「障害状態および FRUID の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 57 ページの「アラーム状態の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 58 ページの「消費電力の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 59 ページの「電圧の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 60 ページの「温度の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 61 ページの「ファン速度の Oracle ILOM レガシータラゲット」
- 62 ページの「LED 状態の Oracle ILOM レガシータラゲット」

保守の準備

これらのトピックでは、保守のためにスイッチを準備する方法について説明します。

手順	説明	リンク
1.	安全と取り扱いに関する情報を確認します。	66 ページの「安全に関する情報」
2.	保守のためのツールを収集します。	67 ページの「保守ツール」
3.	Oracle ILOM を使用してスイッチのシリアル番号を読み取ります。	68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る (Oracle ILOM)」
4.	保守するスイッチを識別します。	69 ページの「スイッチを特定する」
5.	コンポーネントの保守情報を特定します。	30 ページの「障害が発生した項目の交換可能コンポーネント」
6.	静電気防止対策を実施します。 これで、PrizmMT、SFP+、および RJ-45 ケーブルを保守できます。	70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」 83 ページの「データケーブルの保守」
7.	エアダクト構成部品を取り外します。 注記 - これで、シリアル番号を物理的に読み取ることができます。 これで、これらのコンポーネントを保守できます。	70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」 109 ページの「バッテリーの保守」 121 ページの「ファンモジュールの保守」
	■ バッテリー ■ ファンモジュール	
8.	スナップ留め具を取り外します。	74 ページの「スナップ留め具を取り外す」
9.	電源装置の電源を切断します。	77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」 78 ページの「電源装置の電源を切断する」 131 ページの「電源装置の保守」 141 ページの「スイッチの交換」
	これで、これらのコンポーネントを保守できます。 ■ 電源装置 ■ スイッチ	

関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)
- [15 ページの「障害の検出と管理」](#)
- [83 ページの「データケーブルの保守」](#)

- [109 ページの「バッテリーの保守」](#)
- [121 ページの「ファンモジュールの保守」](#)
- [131 ページの「電源装置の保守」](#)
- [141 ページの「スイッチの交換」](#)
- [155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」](#)

安全に関する情報

安全を確保するために、装置を設置する際はこれらの安全上の注意事項を守ってください。

- 装置上およびスイッチに同梱のドキュメントに記載されているすべての注意事項および指示に従ってください。
- 装置上およびスイッチの安全とコンプライアンスに関するガイドに記載されているすべての注意事項および指示に従ってください。
- 使用している電源の電圧や周波数が、装置の電気定格表示と一致していることを確認してください。
- ここで説明する、静電放電に対する安全対策に従ってください。

安全に関する記号

このドキュメントで使用される記号とその意味は、次のとおりです。



注意 - 人的傷害や装置の故障の危険性があります。人的傷害および装置の故障を防ぐため、指示に従ってください。



注意 - **表面は高温です**。触れないでください。表面は高温なため、触れると人的傷害が発生する可能性があります。



注意 - **高電圧が存在します**。感電や怪我を防ぐため、指示に従ってください。

静電放電の対策

ESD に弱い一部のデバイスには特別な取り扱いが必要です。



注意 - 回路基板には、静電気に非常に弱い電子部品が組み込まれています。衣服または作業環境で発生する通常量の静電気によって、これらのボード上にある部品が損傷を受けることがあります。部品のコネクタエッジには触れないでください。

静電気防止用リストストラップの使用

電源装置やファンモジュールなどのコンポーネントを取り扱う場合は、静電気防止用リストストラップを着用し、静電気防止用マットを使用してください。スイッチコンポーネントの保守または取り外しを行う場合は、静電気防止用ストラップを手首に着用し、シャーシの金属部分に取り付けます。この措置を行うことによって、作業者とスイッチの間の電位が等しくなります。

静電気防止用マット

ESD に弱いコンポーネントを静電気防止用マットの上に置きます。これらのものを静電気防止用マットとして使用できます。

- 交換部品の梱包に使用されている静電気防止袋
- ESD マット
- 使い捨て ESD マット (一部の交換部品に同梱)

関連情報

- [67 ページの「保守ツール」](#)
- [68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る \(Oracle ILOM\)」](#)
- [69 ページの「スイッチを特定する」](#)
- [70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」](#)
- [70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)
- [74 ページの「スナップ留め具を取り外す」](#)
- [77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」](#)
- [78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)

保守ツール

これらのツールは、ほとんどの保守操作に必要になります。

- 静電気防止用リストストラップ

- 静電気防止用マット
- プラスのねじ回し (Phillips の 1 番)
- プラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- ペーパークリップ
- PrizmMT フェルールクリーナ - US Conec パーツ番号 16899

関連情報

- [66 ページの「安全に関する情報」](#)
- [68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る \(Oracle ILOM\)」](#)
- [69 ページの「スイッチを特定する」](#)
- [70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」](#)
- [70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)
- [74 ページの「スナップ留め具を取り外す」](#)
- [77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」](#)
- [78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)

▼ スwitchのシリアル番号を読み取る (Oracle ILOM)

スイッチに関する技術サポートが必要な場合は、シャーシのシリアル番号の提供が求められます。シャーシのシリアル番号は、スイッチの前面の、左側の電源装置の左にある引き出し式のストリップから読み取ることができます。さらに、SER MGT モジュール上には RFID タグがあります。

ストリップまたは RFID タグにアクセスするには、エアダクト構成部品を取り外す必要があります。プラスチック製のストリップまたは RFID タグからシリアル番号を読み取る方法については、[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)を参照してください。

ストリップまたは RFID タグを読み取りにくい場合は、Oracle ILOM を使用してシャーシのシリアル番号を取得できます。

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. **シリアル番号を表示します。**

```
-> show /SYS product_serial_number

/SYS
Properties:
  product_serial_number = 1133BDN082
->
```


関連情報

- [66 ページの「安全に関する情報」](#)
- [67 ページの「保守ツール」](#)
- [69 ページの「スイッチを特定する」](#)
- [70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」](#)
- [70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)
- [74 ページの「スナップ留め具を取り外す」](#)
- [77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」](#)
- [78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)

▼ スイッチを特定する

位置特定 LED を使用すると、スイッチの位置を正確に特定できます。このタスクは、1 つの特定のスイッチをその他の多数のラックコンポーネントから識別する必要があります。役立ちます。

注記 - ほかの Oracle 製品とは異なり、位置特定 LED はスイッチの背面だけにあり、ボタン機能はありません。位置特定 LED は、Oracle ILOM から制御します。

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**

[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。

2. **位置特定 LED を点滅するように設定します。**

```
-> set /SYS/LOCATE value=Fast_Blink
```

白色の位置特定 LED が点滅します。

3. **位置特定 LED の点滅によるスイッチの保守が終了したら、この LED を消灯します。**

```
-> set /SYS/LOCATE value=off
```

関連情報

- [66 ページの「安全に関する情報」](#)
- [67 ページの「保守ツール」](#)
- [68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る \(Oracle ILOM\)」](#)
- [70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」](#)
- [70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)
- [74 ページの「スナップ留め具を取り外す」](#)
- [77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」](#)
- [78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)

▼ ESD による損傷を防ぐ

シャーシ内部に組み込まれたコンポーネントの多くは、静電放電で損傷することがあります。これらのコンポーネントを損傷から保護するために、シャーシを開けて保守を行う前に次の手順を実行してください。66 ページの「安全に関する情報」を参照してください。

1. **取り外し、取り付け、または交換プロセス中に部品を置いておくための、静電気防止面を準備します。**
プリント回路基板など、ESD に弱いコンポーネントは静電気防止用マットの上に置いてください。
2. **静電気防止用リストストラップを着用します。**
スイッチコンポーネントの保守または取り外しを行う場合は、静電気防止用ストラップを手首に着用し、シャーシの金属部分に取り付けます。
3. **次のタスクを確認します。**
 - データケーブルを保守している場合は、91 ページの「データケーブルを取り外す」を参照してください。
 - ほかのいずれかのコンポーネントを保守している場合は、70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」を参照してください。

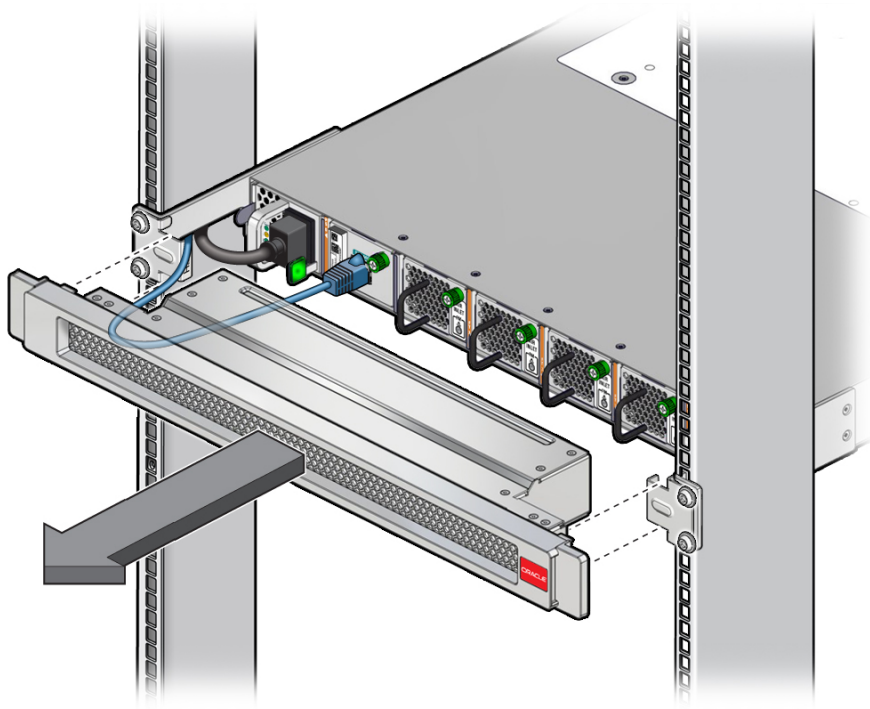
関連情報

- 66 ページの「安全に関する情報」
- 67 ページの「保守ツール」
- 68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る (Oracle ILOM)」
- 69 ページの「スイッチを特定する」
- 70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」
- 74 ページの「スナップ留め具を取り外す」
- 77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」
- 78 ページの「電源装置の電源を切断する」

▼ エアダクト構成部品を取り外す

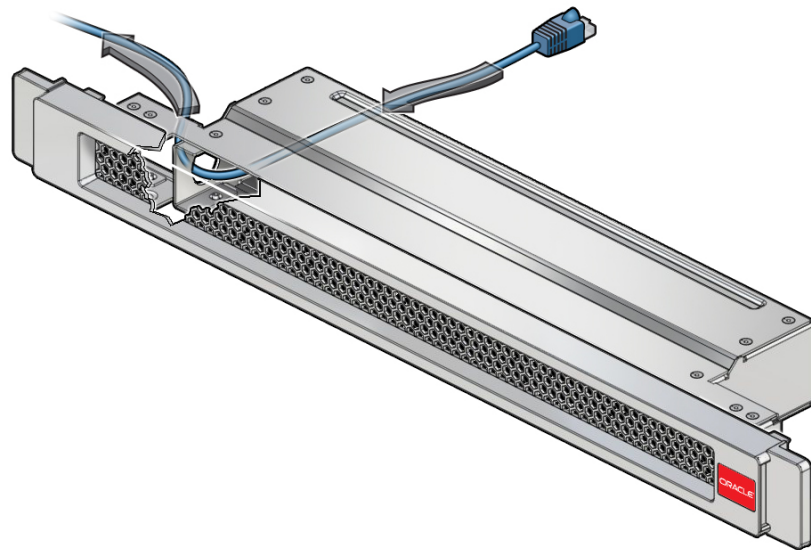
1. ラックの前面ドアが取り付けられている場合は、それを開きます。

2. エアダクト構成部品の左端と右端をつかみます。



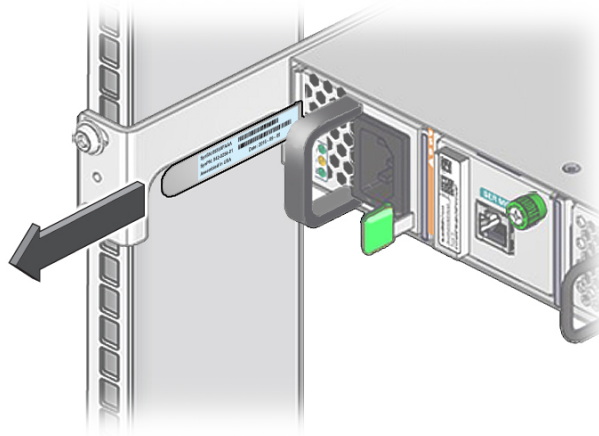
3. エアダクト構成部品をラックからまっすぐ引き出します。
4. 次の手順を確認します。
 - SER MGT 接続を使用しない場合は、エアダクト構成部品を脇に置きます。
 - SER MGT の常時接続がある場合は、次のようにします。
 - a. SER MGT ポートから SER MGT ケーブルを切り離します。

- b. **SER MGT** ケーブルをエアダクト構成部品を通してそのケーブルが解放されるまで戻します。



- c. エアダクト構成部品を脇に置きます。
5. (オプション) プラスチック製のストリップからシャーシのシリアル番号を読み取ります。

- a. 左側の電源装置の左にあるプラスチック製のストリップを引き出します。



- b. シリアル番号を読み取ります。
 - c. ストリップをスライドさせてシャーシ内に戻します。
 - d. スイッチに対してそれ以上の保守を実行しない場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。
[168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)を参照してください。
6. (オプション) RFID タグからシャーシのシリアル番号を読み取ります。
 - a. RFID 読み取りセンサーを SMM 上にある RFID タグの横に置きます。
 - b. シリアル番号を読み取ります。
 - c. スイッチに対してそれ以上の保守を実行しない場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。
[168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)を参照してください。
 7. 次のタスクを確認します。
 - バッテリーを取り外す
[110 ページの「バッテリーを取り外す」](#)を参照してください。
 - ファンモジュールを取り外す

125 ページの「ファンモジュールを取り外す」を参照してください。

- 電源装置を取り外すか、またはスイッチを取り外している場合は、まず 74 ページの「スナップ留め具を取り外す」を参照してください。

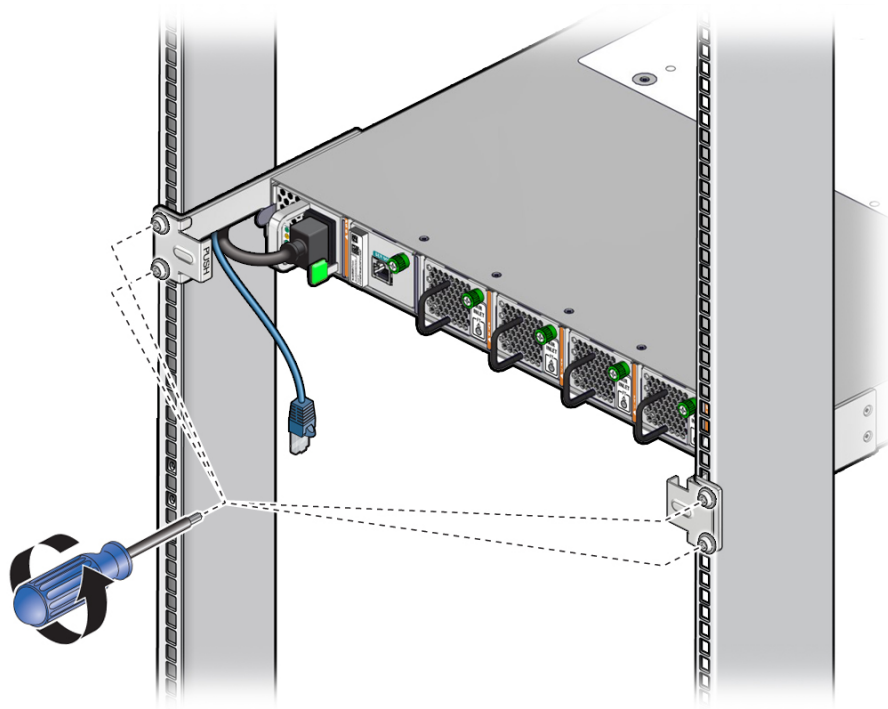
関連情報

- 66 ページの「安全に関する情報」
- 67 ページの「保守ツール」
- 68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る (Oracle ILOM)」
- 69 ページの「スイッチを特定する」
- 70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」
- 74 ページの「スナップ留め具を取り外す」
- 77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」
- 78 ページの「電源装置の電源を切断する」

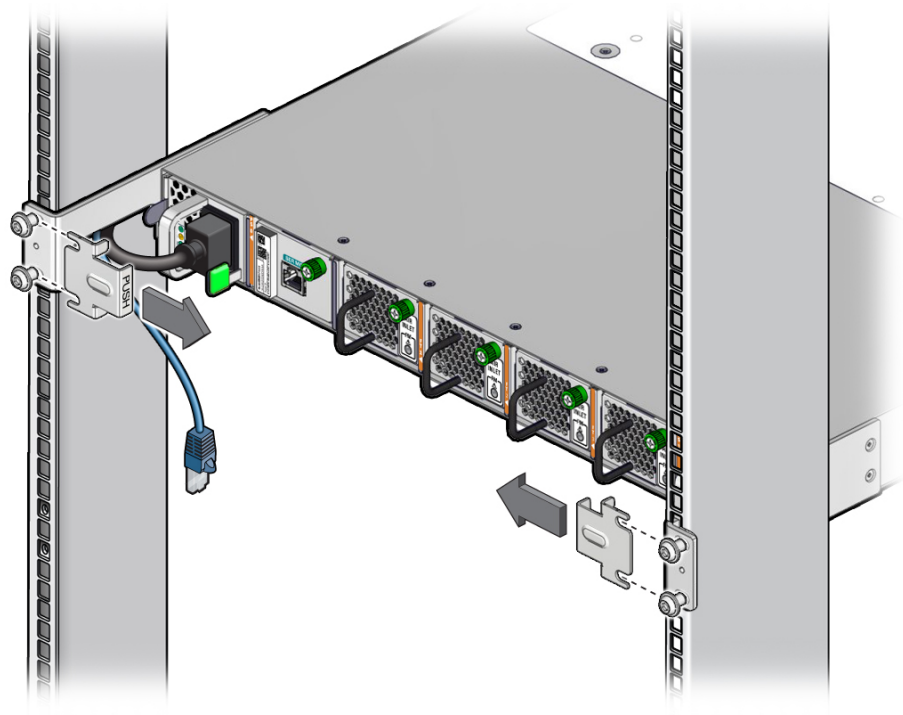
▼ スナップ留め具を取り外す

1. 次の手順を確認します。
 - 電源装置を取り外している場合は、その電源装置の前のスナップ留め具に対して次の手順を実行します。
 - スwitchを取り外している場合は、どちらかのスナップ留め具に対して次の手順を実行します。
2. プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用して、スナップ留め具を固定している 2 つのねじを 1 回転させて緩めます。

注記 - これらのねじは取り外さず、1 回転させて緩めるだけにしてください。



3. スナップ留め具をスライドさせて外し、脇に置きます。



4. 次の手順を確認します。

- 電源装置を取り外している場合は、電源装置の電源を切断します。
[78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)を参照してください。
- スイッチを取り外している場合は、もう一方のスナップ留め具に対して[ステップ 2](#)および[ステップ 3](#)を繰り返します。

5. スイッチの電源を切断するための準備をします。

[77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」](#)を参照してください。

関連情報

- [66 ページの「安全に関する情報」](#)
- [67 ページの「保守ツール」](#)
- [68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る \(Oracle ILOM\)」](#)

- 69 ページの「スイッチを特定する」
- 70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」
- 70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」
- 77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」
- 78 ページの「電源装置の電源を切断する」

▼ スwitchの電源を切断するための準備をする

このタスクは、スイッチの交換のためにスイッチの電源を切断する前に実行します。

注記 - このタスクの手順は、実行するべき操作を一般化したものです。これらのステップを実行する方法に関するより詳細な指示については、『*Oracle EDR InfiniBand Switch* および仮想 I/O システム管理ガイド』、『*Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド*』、および『*Oracle Fabric OS 1.0 管理ガイド*』を参照してください。

1. 影響を受けるユーザーにスイッチがシャットダウンされることを通知します。
2. 取り外すスイッチで SCP にアクセスします。
40 ページの「SCP にアクセスする (RJ-45 ポート)」を参照してください。
3. 取り外すスイッチにマスターサブネットマネージャーが構成されている場合は、スタンバイサブネットマネージャーへのハンドオーバーを開始します。
『*Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド*』を参照してください。ハンドオーバーがすべて完了するまで待ちます。
4. 取り外すスイッチにサブネットマネージャーが構成されている場合は、優先度をいちばん下に設定します。
『*Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド*』を参照してください。
5. 取り外すスイッチのスイッチ構成のバックアップを作成します。
 - a. スイッチで、**Oracle Fabric Manager** 構成のバックアップを作成します。
『*Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド*』を参照してください。
 - b. スイッチで、**Oracle Fabric OS** 構成のバックアップを作成します。
『*Oracle Fabric OS 1.0 管理ガイド*』を参照してください。
 - c. **SP** にアクセスします。
38 ページの「SP にアクセスする (RJ-45 ポート)」を参照してください。

- d. SEFOS 構成を Oracle ILOM に書き込み、Oracle ILOM 構成のバックアップを作成します。

これにより、SEFOS 構成がバックアップされます。『Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド』を参照してください。

- e. バックアップファイルを安全な場所に転送します。

6. スイッチの電源を切断します。

78 ページの「電源装置の電源を切断する」を参照してください。

関連情報

- 66 ページの「安全に関する情報」
- 67 ページの「保守ツール」
- 68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る (Oracle ILOM)」
- 69 ページの「スイッチを特定する」
- 70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」
- 70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」
- 74 ページの「スナップ留め具を取り外す」
- 78 ページの「電源装置の電源を切断する」

▼ 電源装置の電源を切断する

注記 - 両方の電源装置の電源を切断すると、スイッチの電源が切断されます。

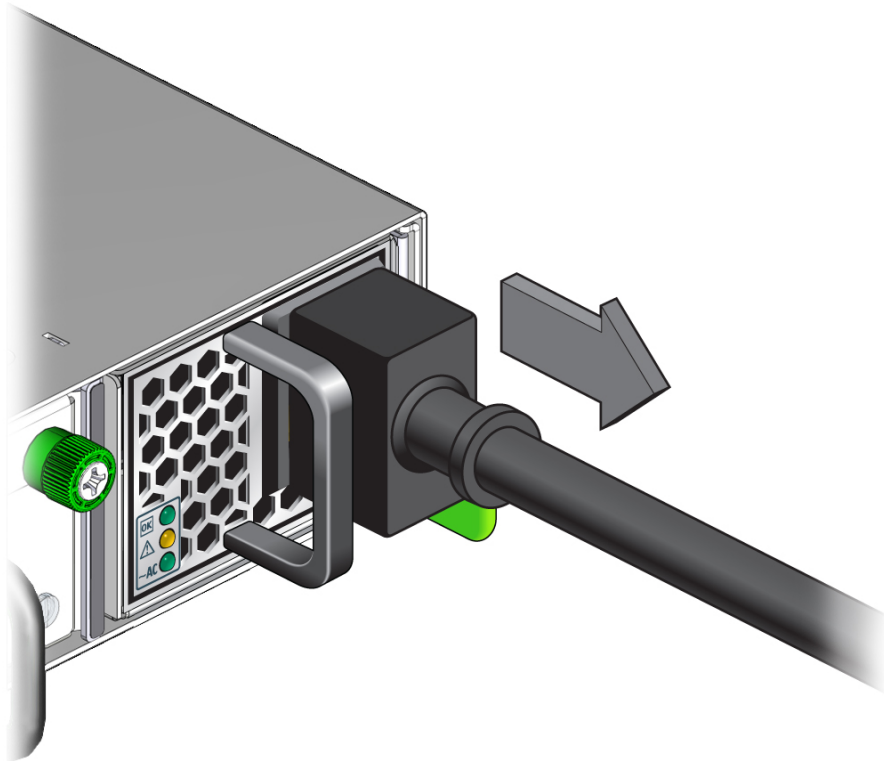
1. 最初の手順を確認します。

- 電源装置を取り外している場合は、取り外す電源装置とその電源コードを特定します。

注記 - 電源装置に障害が発生した場合は、そのアテンション LED が点灯します。

- スイッチの電源を切断している場合は、どちらかの電源コードを選択します。

2. 電源装置から電源コードを取り外します。



電源コードは、ゆっくり揺り動かして取り外します。



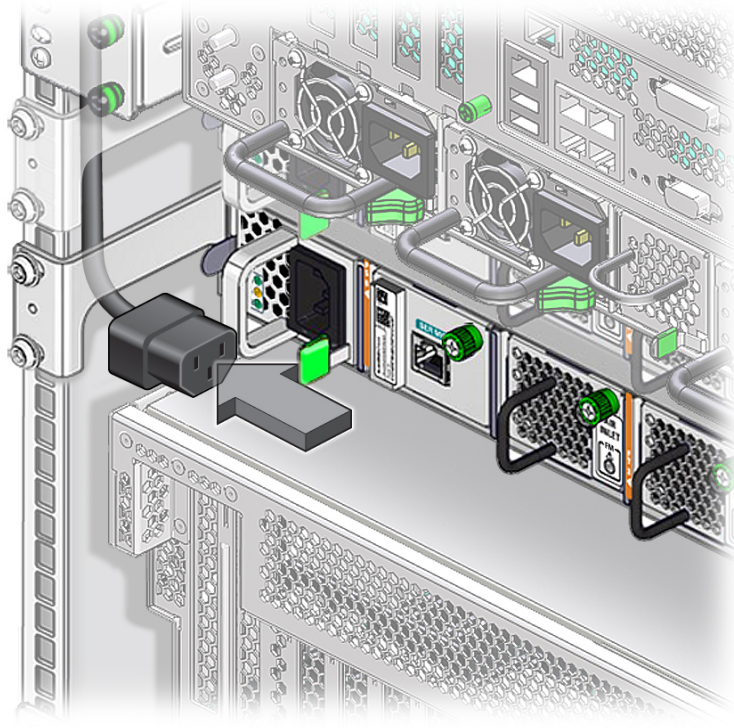
注意 - 電源装置からコードを強く引っ張ると、スナップ留め具が手に当たることがあります (取り付けられている場合)。

電源装置の電源が完全に切断されます。

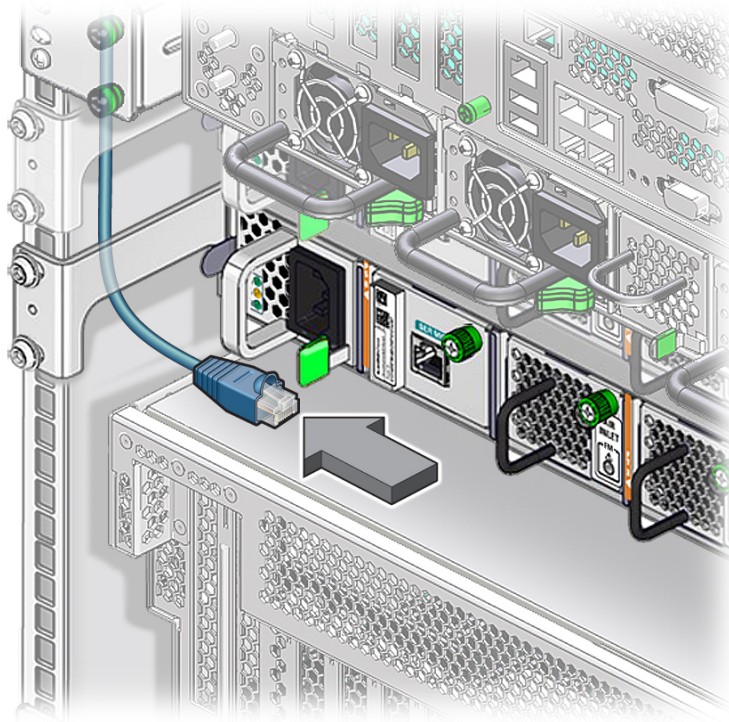
3. 次の手順を確認します。

- スイッチ構成のために電源装置の電源を切断している場合は、**ステップ 6**に進みます。
- 電源装置またはスイッチを取り外すために電源装置の電源を切断している場合は、**ステップ 4**に進みます。

4. 電源コードを長い前面固定部品の開口部を通して戻します。



5. 電源コードとともに SER MGT ケーブルも開口部を通っている場合は、SER MGT ケーブルを開口部を通して戻します。



6. 次の手順を確認します。
 - 電源装置を取り外すためにその電源を切断した場合は、ここでそれを行います。
[135 ページの「電源装置を取り外す」](#)を参照してください。
 - スイッチの電源を切断するために電源装置の電源を切断した場合は、[ステップ 2](#)から繰り返してもう一方の電源装置の電源を切断し、スイッチの電源を切断します。
7. 次の手順を確認します。
 - スイッチを取り外している場合は、スイッチからデータケーブルを切り離します。
[91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)を参照してください。
 - スイッチを構成している場合は、データケーブルをスイッチに接続します。

[100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)を参照してください。

関連情報

- [66 ページの「安全に関する情報」](#)
- [67 ページの「保守ツール」](#)
- [68 ページの「スイッチのシリアル番号を読み取る \(Oracle ILOM\)」](#)
- [69 ページの「スイッチを特定する」](#)
- [70 ページの「ESD による損傷を防ぐ」](#)
- [70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)
- [74 ページの「スナップ留め具を取り外す」](#)
- [77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」](#)

データケーブルの保守

データケーブルは、高速の Ethernet ネットワークおよび IB ファブリック通信のためのコンジットを提供します。データケーブルは、スイッチの背面全体にわたって配置されています。PrizmMT ケーブルは左側に、SFP+ ケーブルは中央に、RJ-45 ケーブルは右側にあります。[11 ページの「コンポーネントの識別」](#)を参照してください。

説明	リンク
3 つのケーブルの種類について理解します。	84 ページの「データケーブルの種類の識別」
障害のあるデータケーブルを交換します。	87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」
	91 ページの「データケーブルを取り外す」
	98 ページの「(オプション) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」
	100 ページの「データケーブルを取り付ける」
	106 ページの「データケーブルを検証する」
別のコンポーネントの保守操作の一部として、データケーブルを取り外します。	91 ページの「データケーブルを取り外す」
別のコンポーネントの保守操作の一部として、データケーブルを取り付けます。	100 ページの「データケーブルを取り付ける」
	106 ページの「(オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」
データケーブルを追加します。	98 ページの「(オプション) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」
	100 ページの「データケーブルを取り付ける」
	106 ページの「(オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」
	106 ページの「データケーブルを検証する」
既存のデータケーブルの数を減らします。	91 ページの「データケーブルを取り外す」
障害のあるデータケーブルを識別します。	87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」
	15 ページの「障害の検出と管理」

関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)
- [15 ページの「障害の検出と管理」](#)
- [65 ページの「保守の準備」](#)
- [109 ページの「バッテリーの保守」](#)
- [121 ページの「ファンモジュールの保守」](#)
- [131 ページの「電源装置の保守」](#)
- [141 ページの「スイッチの交換」](#)
- [155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」](#)

データケーブルの種類の識別

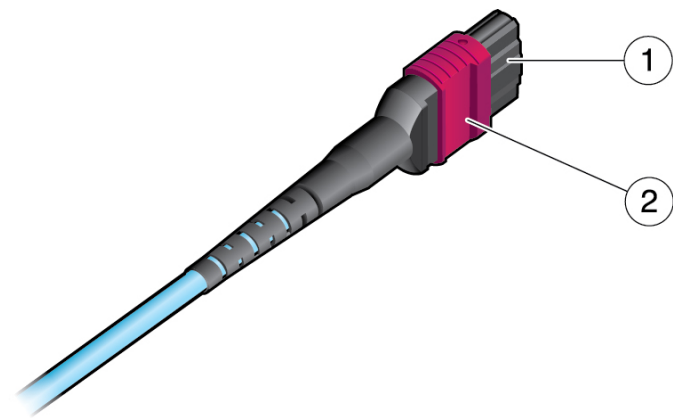
これらのトピックでは、スイッチのデータケーブルについて説明します。

- [85 ページの「PrizmMT ケーブル」](#)
- [86 ページの「SFP+ ケーブルトランシーバ」](#)
- [86 ページの「RJ-45 ケーブル」](#)

関連情報

- [87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」](#)
- [91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)
- [98 ページの「\(オプション\) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」](#)
- [100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)
- [106 ページの「データケーブルを検証する」](#)
- [106 ページの「\(オプション\) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」](#)

PrizmMT ケーブル



番号	説明
1	PrizmMT フェルール
2	マゼンタ色のハウジング (4x テクノロジ) 黒色のハウジング (12x テクノロジ)

この表は、サポートされるケーブルの販売パーツ番号の一覧を示しています。

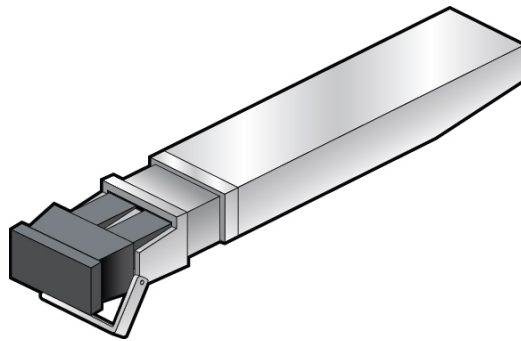
長さ	12x PrizmMT	4x PrizmMT	4x PrizmMT から 4x 標準 MT
1m	7111615	7111595	7111607
2m	7111616	7111596	7111608
3m	7111617	7111598	7111609
5m	7111618	7111599	7111610
10m	7111642	7111600	7111611
20m	7111644	7111601	7111612
50m	7111646	7111603	7111613
70m	7111647	7111605	7111614

関連情報

- [86 ページの「SFP+ ケーブルトランシーバ」](#)

- [86 ページの「RJ-45 ケーブル」](#)

SFP+ ケーブルトランシーバ



この表は、サポートされるトランシーバの販売パーツ番号の一覧を示しています。

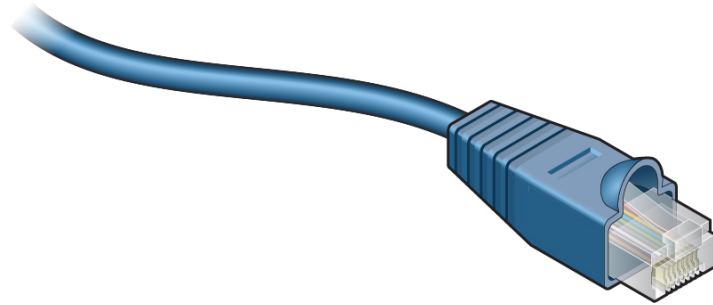
パーツ番号	テクノロジー
7111909	SFP+ 10GBASE-T アダプタ (トランシーバ)

関連情報

- [85 ページの「PrizmMT ケーブル」](#)
- [86 ページの「RJ-45 ケーブル」](#)

RJ-45 ケーブル

RJ-45 ケーブルは、カテゴリ 6、6e、または 7 仕様のものにすべきです。



関連情報

- [85 ページの「PrizmMT ケーブル」](#)
- [86 ページの「SFP+ ケーブルトランシーバ」](#)

▼ 障害のあるデータケーブルを特定する

データケーブルを交換する前に、どのデータケーブルに障害があるかを判定する必要があります。

1. 最初の手順を確認します。
 - スイッチがある場所にいる場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
 - スイッチから離れた場所にいる場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
2. スイッチの背面で、SFP+ および RJ-45 コネクタのリンク LED を確認します。

既知の機能しているホストに接続されている各ケーブルのリンク LED が点灯しているべきです。[34 ページの「SFP+ リンク LED」](#) および [35 ページの「RJ-45 リンク LED」](#) を参照してください。

 - データケーブルのリンク LED が消灯している場合は、そのケーブルを交換します。
[91 ページの「データケーブルを取り外す」](#) を参照してください。
 - ケーブルに障害があるかどうかを判定できない場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
3. Oracle ILOM CLI にアクセスします。
[38 ページの「SP へのアクセス」](#) を参照してください。

4. Ethernet 接続を確認します。

a. EMS コンソールを起動します。

```
-> start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
Are you sure you want to start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
(y/n)? y
Management Switch for Oracle InfiniBand Switch IS2-46
SEFOS login:
```

b. SEFOS にログインします。

```
SEFOS login: root
Password: password
SEFOS#
```

デフォルトのパスワードは admin123 です。

c. Ethernet ポートの状態を表示します。

```
SEFOS# show interfaces status
```

Port	Status	Duplex	Speed	Negotiation	Capability
Gi0/1	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/2	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/3	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/4	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/5	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/6	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/7	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
...					
Gi0/13	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
...					
Gi0/23	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/23	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/25	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/26	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Ex0/1	not connected	Full	10 Gbps	No-Negotiation	Auto-MDIX on
Ex0/2	not connected	Full	10 Gbps	No-Negotiation	Auto-MDIX on

```
SEFOS#
```

この出力で、Port は背面パネルにあるポートです。ポート Gi0/25 および Gi0/26 は、スイッチアーキテクチャーの内部用です。ポート Ex0/1 および Ex0/2 は 2 つの SFP+ アップリンクポートです。Status はポートの状態です。Duplex、Speed、および Negotiation はリンクのパラメータです。Capability は自動クロスオーバー機能がオンであるかどうかを示しています。

d. 既知の接続されたポートのステータスが connected 以外である場合は、そのポートに接続されているケーブルを交換します。

[91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)を参照してください。

e. EMS コンソールを終了します。

```
SEFOS# exit
Connection closed by foreign host
```

```

Entering character mode
Escape character is '^'.
start: The session with /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli has ended.
->

```

5. IB およびゲートウェイの接続を確認します。

a. ホストを起動します。

```

-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y

Serial console started. To stop, type ESC (

```

b. Enter を押します。

```
[user@hostname ~]#
```

ここでは:

- `user` は現在のユーザー名です。
- `hostname` は SCP のホスト名です。

c. パスワード `admin` を使用してユーザー `admin` に切り替えます。

```

[user@hostname ~]# su admin
Welcome to IBOS Controller
Copyright (c) 2012-2015 Oracle Corp. All rights reserved.
Enter "help" for information on available commands.
Enter the command "show system copyright" for licensing information
admin@hostname[OFOS]

```

注記 - このドキュメントではこれ以降、`admin@hostname[OFOS]` プロンプトを簡単に `[OFOS]` で置き換えています。

これが OFOS へのはじめてのアクセスである場合は、OFOS 構成ウィザードが起動されることがあります。この状態が発生した場合は、『*Oracle InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド*』の OFOS 構成ウィザードの実行に関する項を参照してください。

d. ゲートウェイのポートの状態を表示します。

```

[OFOS] show ioports

```

name	type	state	descr	v-resources
0/1	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0
0/2	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0
0/3	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0
0/4	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0
0/5	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0
0/6	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0
0/7	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0
0/8	gWEthernet10GbPort	up/indeterminate		0

```

8 records displayed
[OFOS]

```

この出力で、**name** は背面パネルにあるポート番号です。**state** はローカルポート/ピアポートの状態です。**descr** はピアポートのノード記述子です。**v-resources** は、そのポートでサポートされている VLAN および VNIC の数です。

e. IB ポートの状態を表示します。

```
[OFOS] show infiniband-port
name          state          mode_state      guid
-----
0/1           up/down        switching       0
0/2           up/down        switching       0
0/3           up/down        switching       0
0/4           up/down        switching       0
.
.
.
0/27          up/down        switching       0
0/28          up/down        switching       0
0/29          up/down        switching       0
0/30          up/down        switching       0
30 records displayed
[OFOS]
```

この出力で、**name** は背面パネルにあるポート番号です。**state** はローカルポート/ピアポートの状態です。**mode_state** はリンクの状態です。**guid** はピアポートの GUID です。

f. これらのコマンドの出力でポートが **down** 状態にあると識別されている場合や、リンク **mode_state** が **switching** 以外である場合は、そのポートに接続されているケーブルを交換します。

[91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)を参照してください。

g. ホストコンソールを終了します。

exit と入力して Enter キーを押し、Esc キーを押して (と入力します。

```
[OFOS] exit
[root@nsn156-168 ~]#
Serial console stopped.
->
```

6. データケーブルに障害があるかどうかを判定できない場合は、さらに情報を探します。

[15 ページの「障害の検出と管理」](#)を参照してください。

関連情報

- [84 ページの「データケーブルの種類の識別」](#)
- [91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)
- [98 ページの「\(オプション\) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」](#)
- [100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)
- [106 ページの「データケーブルを検証する」](#)

- 106 ページの「(オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェールールをク
リーニングする」

▼ データケーブルを取り外す

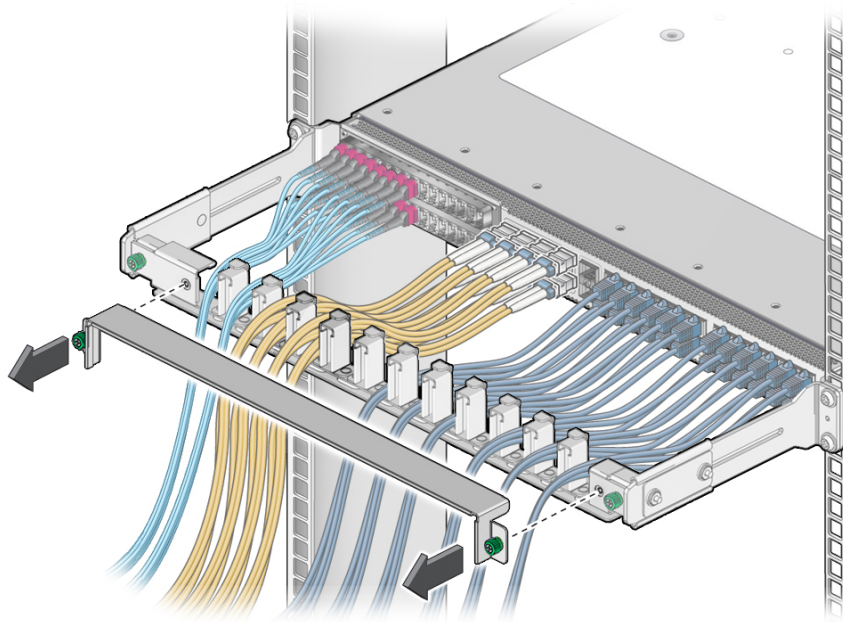
1 つのデータケーブルの取り外しは、ホットスワップ操作です。スイッチの交換の一部としてすべてのデータケーブルを取り外している場合は、そのスイッチの電源を切断する必要があります。

このタスクでは、ケーブルを交換できるように、スイッチからそのケーブルを取り外す方法について説明します。スイッチの交換のためにすべてのケーブルを取り外している場合は、スイッチの左側からケーブルの取り外しを開始し、右の方へと作業を進めます。

注記 - この手順は、IB と Ethernet の両方のデータケーブルに対して有効です。

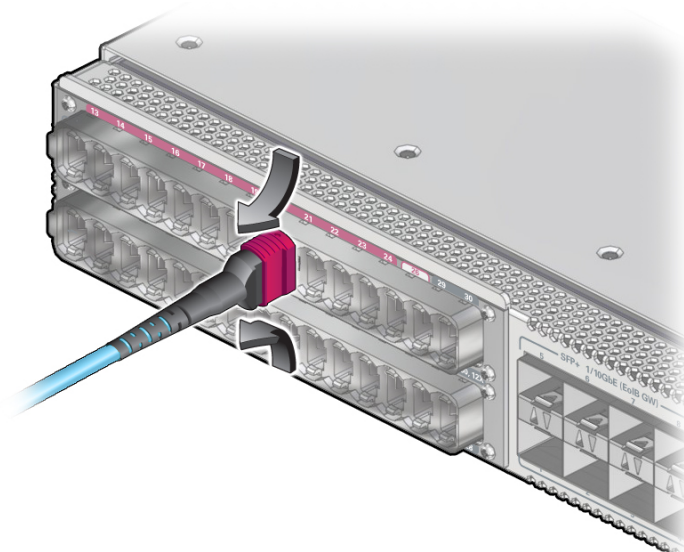
1. どのデータケーブルを取り外すかを判定します。
87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」を参照してください。
2. 次の手順を確認します。
 - 保守の準備ができていない場合は、ここでそれを行う必要があります。
65 ページの「保守の準備」を参照してください。
 - これらの前提条件のタスクを完了している場合は、**ステップ 3**に進みます。

3. つまみねじを緩め、CMB のカバーを取り外します。



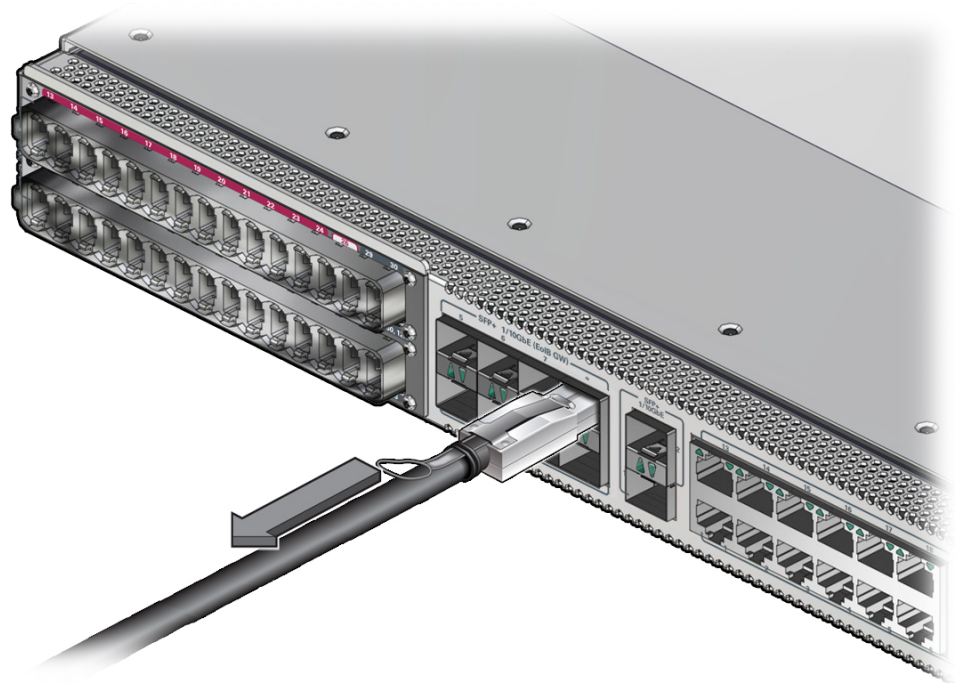
4. 取り外すケーブルを特定します。
5. (オプション) 必要に応じて、そのケーブルにラベルを付けて、それに対応するポート、そのピア、またはその両方が識別されるようにします。
6. 次の手順を確認します。
スイッチの交換のためにすべてのケーブルを取り外している場合は、PrizmMT ケーブルから始めます。
 - PrizmMT ケーブルを取り外している場合は、[ステップ 7](#)に進みます。
 - 一体型の銅コア SFP+ ケーブルを取り外している場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
 - 組み立てられた光ファイバ SFP+ ケーブルを取り外している場合は、[ステップ 9](#)に進みます。
 - RJ-45 ケーブルを取り外している場合は、[ステップ 10](#)に進みます。
7. PrizmMT ケーブルを取り外します。

- a. **PrizmMT ケーブルコネクタのハウジングを親指と人差し指でつまみます。**
このハウジングは、マゼンタ色または黒色のどちらかです。



- b. 力を加えたまま、**PrizmMT コネクタ**をソケットからまっすぐ引き出します。
 - c. **ステップ 11**に進みます。
8. 一体型の銅コア **SFP+** ケーブルを取り外します。
 - a. ケーブルコネクタをつかんでその重さを支え、取り外す力を加えます。
 - b. ケーブルコネクタを引くと同時に、リトラクタストラップを引きます。

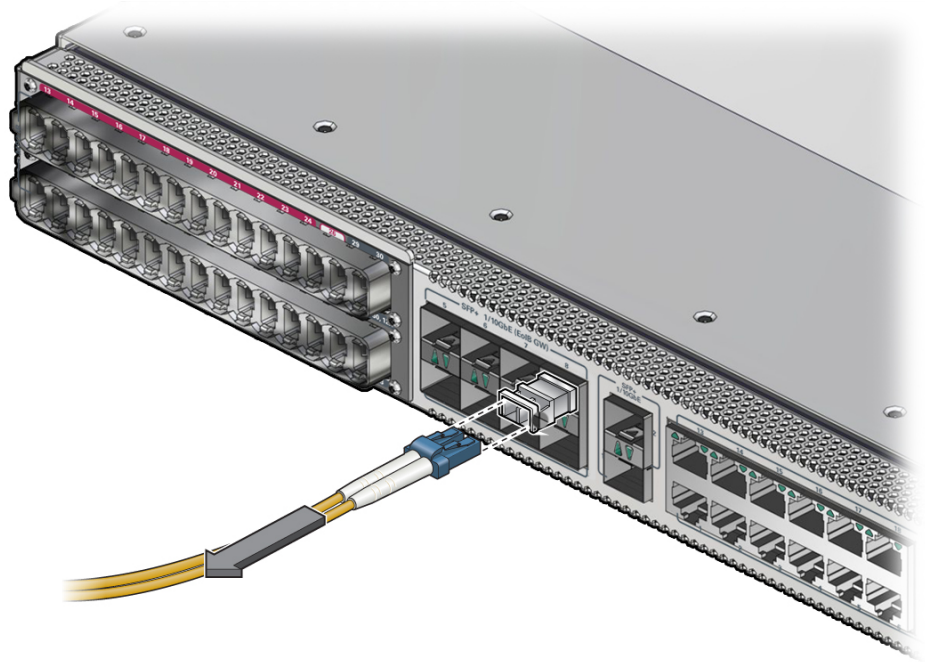
ケーブルコネクタが解放されます。



c. **ステップ 11**に進みます。

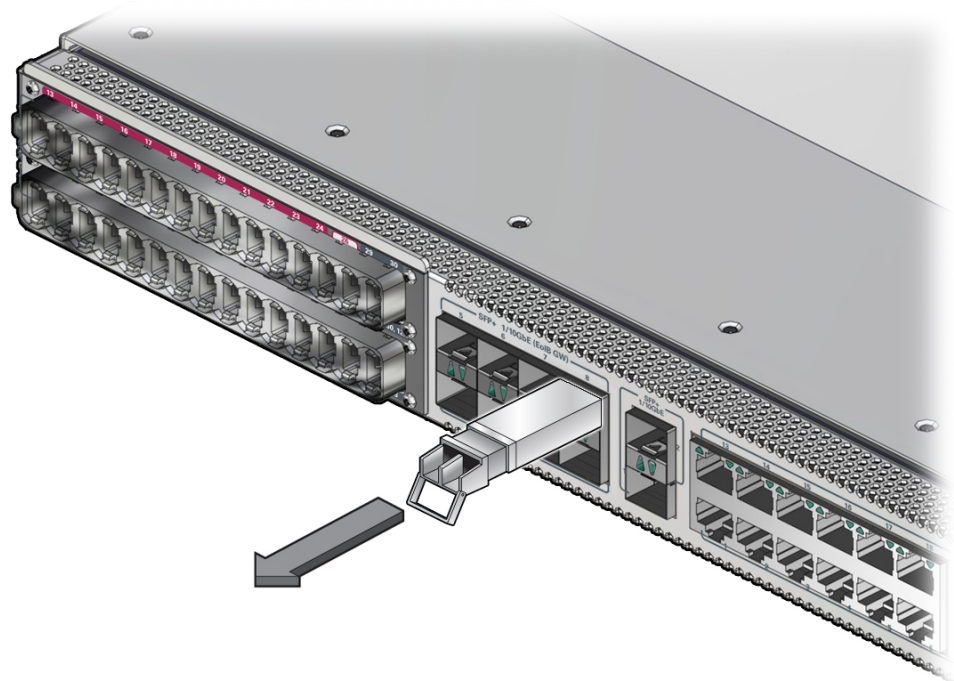
9. 組み立てられた光ファイバ SFP+ ケーブルを取り外します。

- a. LC コネクタのリリース爪を押して、引き戻します。



LC コネクタと光ファイバケーブルがトランシーバから解放されます。

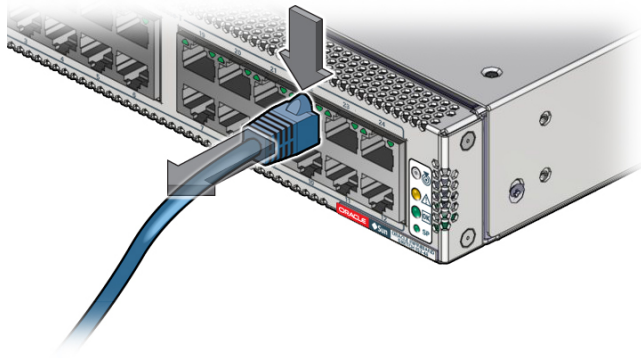
- b. SFP+ トランシーバのラッチを解放し、そのラッチを引いてトランシーバを取り外します。



トランシーバが解放されます。

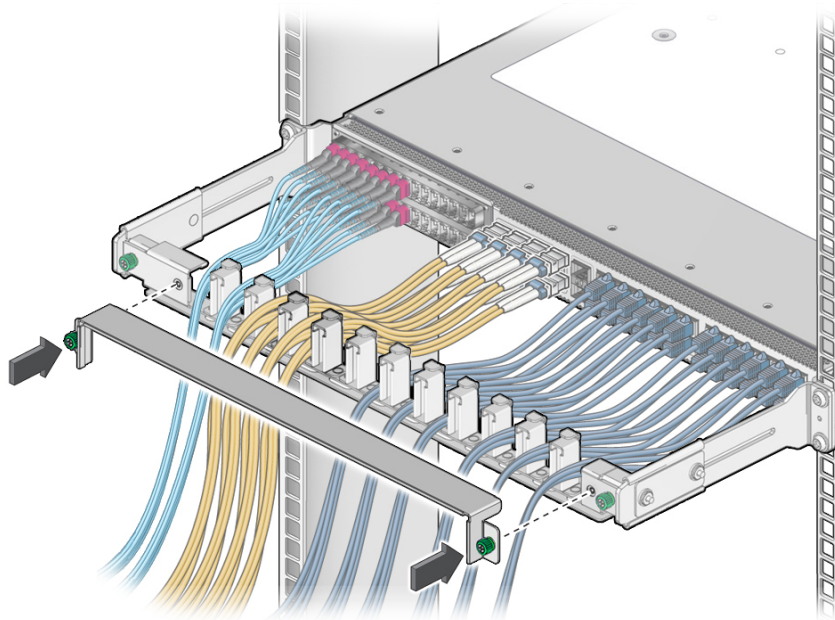
- c. トランシーバを脇に置きます。
 - d. **ステップ 11** に進みます。
10. RJ-45 ケーブルを取り外します。
- a. RJ-45 コネクタの上部と下部を親指と人差し指でつまみます。

親指か人差し指のどちらかを使ってリリース爪を押し込みます。



- b. RJ-45 コネクタをソケットからまっすぐ引き出します。
11. ケーブルを CMB から注意深く外します。
12. 可能であれば、ケーブルの端にキャップを付けます。
13. 取り外すすべての追加のケーブルに対して、[ステップ 4](#) および [ステップ 12](#) を繰り返します。
14. 次の手順を確認します。
 - 交換操作の一部としてデータケーブルを取り外した場合は、ケーブルのもう一方の端を切り離し、新しいデータケーブルを取り付けます。
[100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)を参照してください。
 - スイッチの取り外しタスクのためにすべてのデータケーブルを取り外した場合は、ここでそれを行います。
[145 ページの「スイッチを取り外す」](#)を参照してください。
 - データケーブルを交換していない場合は、[ステップ 15](#)に進みます。
15. PrizmMT ケーブルを取り外した場合は、そのソケットにフィラープラグを取り付けます。

16. CMB のカバーを取り付け、つまみねじを締めます。



関連情報

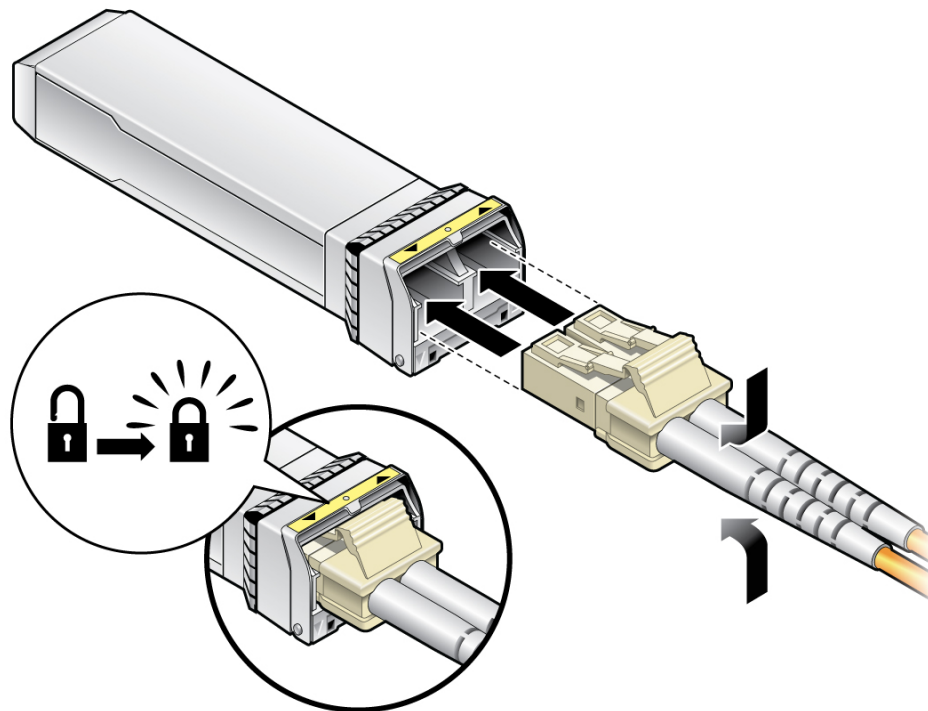
- 84 ページの「データケーブルの種類の識別」
- 87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」
- 98 ページの「(オプション) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」
- 100 ページの「データケーブルを取り付ける」
- 106 ページの「データケーブルを検証する」
- 106 ページの「(オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」

▼ (オプション) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる

光 SFP+ ケーブルが組み立てられていない場合は、スイッチに接続する前にケーブルを組み立てる必要があります。

注記 - 組み立てる前に、光ファイバケーブルの両端およびトランシーバのソケットがきれいで、光学的にクリアである必要があります。そうするように指示されるまで、光ファイバケーブルの保護キャップまたはトランシーバのプラグを取り外さないでください。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[83 ページの「データケーブルの保守」](#)を参照してください。
2. SFP+ 光トランシーバおよびファイバ光ケーブルを梱包から取り出します。
3. SFP+ 光トランシーバからプラグを抜きます。
4. 光ファイバケーブルの LC コネクタからキャップを取り外します。
5. LC コネクタのシャフトを持ち、SFP+ 光トランシーバのソケットに LC コネクタを挿入します。



注記 - LC コネクタと SFP+ ソケットは正しく接合されるようにロックされます。

6. カチッと音がするまでコネクタをトランシーバに押し込みます。
7. ケーブルのもう一方の端に対して、[ステップ 3](#) から [ステップ 6](#) を繰り返します。
8. 取り付けるすべての追加の光ファイバ SFP+ ケーブルに対して、[ステップ 2](#) から [ステップ 7](#) を繰り返します。
9. ケーブルを取り付けるか、またはそのタスクに戻ります。
[100 ページ](#)の「データケーブルを取り付ける」を参照してください。

関連情報

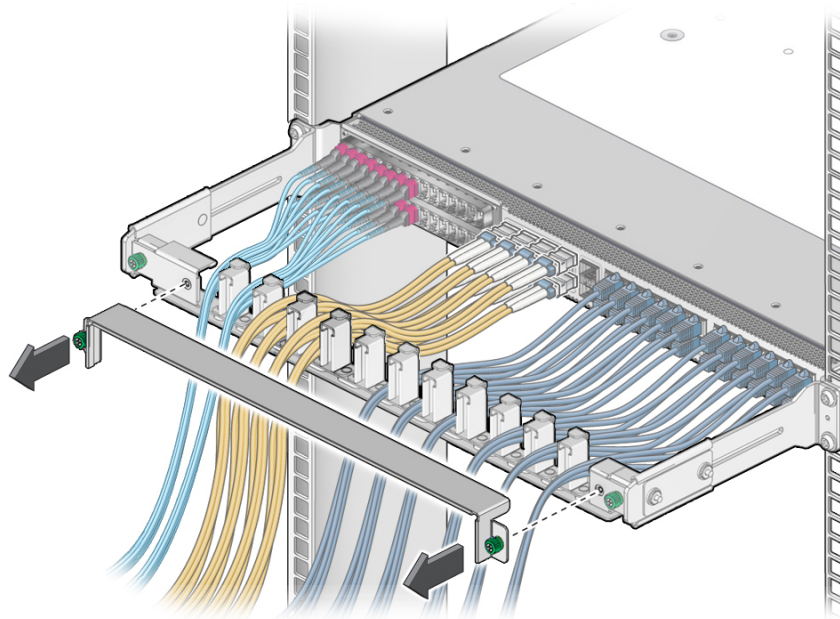
- [84 ページ](#)の「データケーブルの種類の識別」
- [87 ページ](#)の「障害のあるデータケーブルを特定する」
- [91 ページ](#)の「データケーブルを取り外す」
- [100 ページ](#)の「データケーブルを取り付ける」
- [106 ページ](#)の「データケーブルを検証する」
- [106 ページ](#)の「(オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」

▼ データケーブルを取り付ける

1 つのデータケーブルの取り付けは、ホットスワップ操作です。すべてのデータケーブルを一度に取り付けている場合は、スイッチを電源が切断された状態にするべきです。

1. 最初の手順を確認します。
 - データケーブルを交換している場合は、まず障害のあるデータケーブルまたは廃止されたデータケーブルを取り外してから、このタスクの[ステップ 3](#)に戻ります。
[91 ページ](#)の「データケーブルを取り外す」を参照してください。
 - 交換用ケーブルを取り付けている場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
 - データケーブルを追加している場合は、[65 ページ](#)の「保守の準備」を参照してから、[ステップ 2](#)に進みます。

- スイッチの設置タスクの一部としてデータケーブルを取り付けている場合は、[ステップ 6](#)に進みます。
2. まだ行っていない場合は、つまみねじを緩め、CMB のカバーを取り外します。



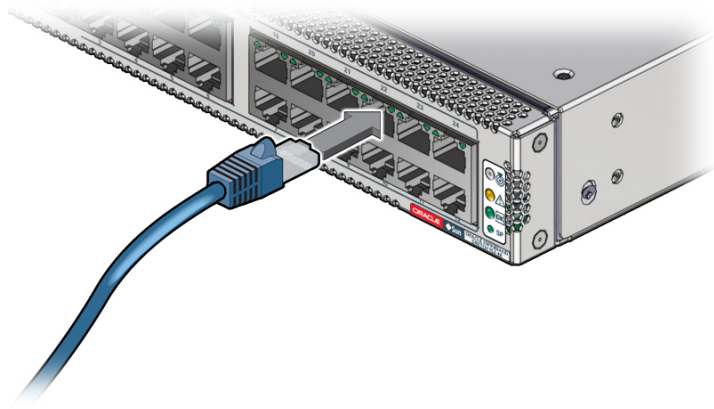
3. 組み立てが必要な光ファイバ SFP+ ケーブルを取り付けている場合は、ここでそのケーブルを組み立てます。
[98 ページの「\(オプション\) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」](#)を参照してください。
4. 交換用ケーブルをリモートの場所に接続し、それをスイッチにルーティングします。
『Oracle InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド』のデータケーブルの配線に関する項を参照してください。
5. ケーブルをスイッチまで持ってきて、その保護キャップを取り外します (取り付けられている場合)。
6. 次の手順を確認します。
スイッチの交換の一部としてすべてのケーブルを取り付けている場合は、RJ-45 ケーブルから始めます。

- RJ-45 ケーブルを取り付けている場合は、[ステップ 7](#)に進みます。
- SFP+ ケーブルを取り付けている場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
- PrizmMT ケーブルを取り付けている場合は、[ステップ 9](#)に進みます。

7. RJ-45 ケーブルを取り付けます。

- a. RJ-45 コネクタを取り付け先のソケットの位置に合わせます。

コネクタの爪がソケットの上側の列では上になり、ソケットの下側の列では下になるようにします。



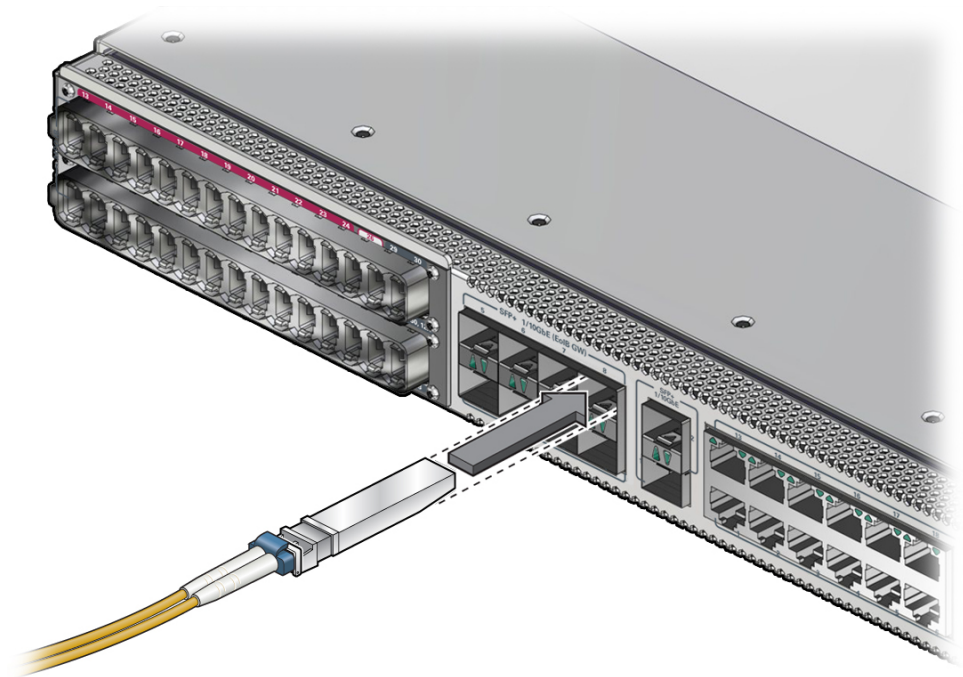
- b. カチッと音がするまで、RJ-45 コネクタをソケットにしっかり押し込みます。

- c. [ステップ 10](#)に進みます。

8. SFP+ ケーブルを取り付けます。

- a. SFP+ コネクタを取り付け先のソケットの位置に合わせます。

コネクタの製品ラベルがソケットの上側の列では上になり、ソケットの下側の列では下になるようにします。



b. コネクタをゆっくり挿入し、戻らなくなるを感じるまで押し続けます。

c. **ステップ 10** に進みます。

9. **PrizmMT ケーブルを取り付けます。**

注記 - 1 から 26 のラベルが付けられている PrizmMT ソケットは、マゼンタ色のハウジングの 4x PrizmMT ケーブル用です。27 から 30 のラベルが付けられている PrizmMT ソケットは、黒色のハウジングの 12x PrizmMT ケーブル用です。

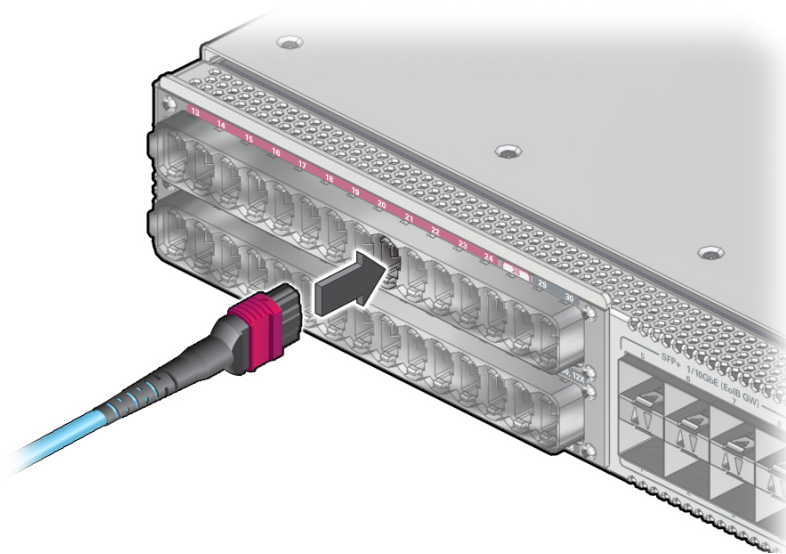
a. ケーブルを取り付ける **PrizmMT** ソケットからフィラープラグ (取り付けられている場合) を取り外し、ソケットを目視で点検します。

ソケットはきれいで、汚れまたはゴミが付いていないようにします。ソケットが汚れている場合はきれいにします。[106 ページの「\(オプション\) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルルをクリーニングする」](#)を参照してください。

- b. ケーブルのコネクタから保護キャップを取り外して、コネクタを目視で点検します。

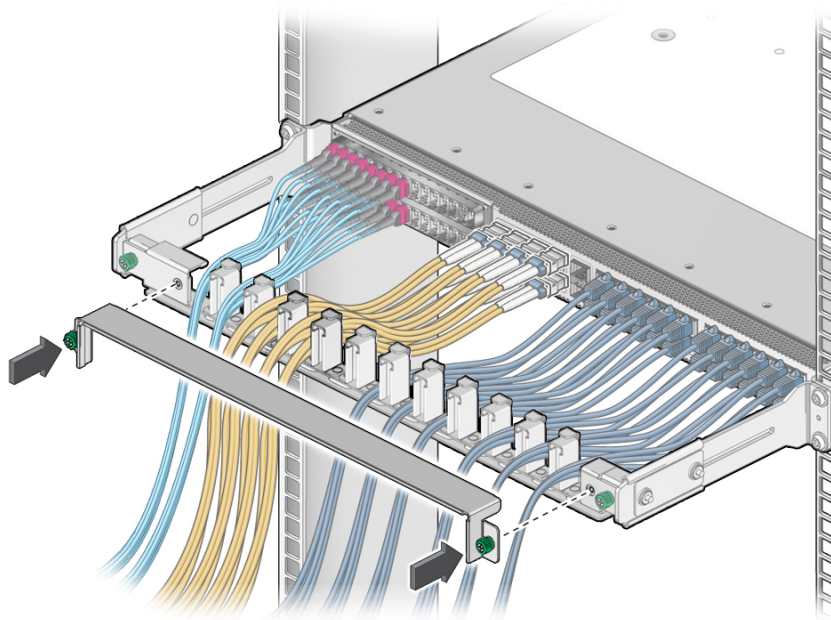
コネクタはきれいで、汚れまたはゴミが付いていないようにします。コネクタが汚れている場合はきれいにします。[106 ページの「\(オプション\) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」](#)を参照してください。

- c. 接続する位置に PrizmMT コネクタを合わせます。



- d. コネクタが戻らなくなるを感じるまで、ソケットに PrizmMT コネクタをしっかり押し込みます。
10. ケーブルを CMB 内に通します。
11. スイッチ構成の一部としてデータケーブルを取り付けた場合は、そのタスクに戻ります。
[163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#)を参照してください。
12. 取り付けるすべての追加のケーブルに対して、[ステップ 3](#) から [ステップ 10](#) を繰り返します。

13. CMB のカバーを取り付け、つまみねじを締めます。



14. 次の手順を確認します。

- 交換操作の一部としてデータケーブルを取り付けた場合は、[ステップ 15](#)に進みます。
- スイッチの設置タスクの一部としてすべてのデータケーブルを取り付けた場合は、スイッチ構成に戻ります。
[163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#)を参照してください。
- 新しいデータケーブルを取り付けた場合は、[ステップ 15](#)に進みます。

15. データケーブルを検証します。

[106 ページの「データケーブルを検証する」](#)を参照してください。

関連情報

- [84 ページの「データケーブルの種類の識別」](#)
- [87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」](#)
- [91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)
- [98 ページの「\(オプション\) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」](#)

- 106 ページの「データケーブルを検証する」
- 106 ページの「(オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」

▼ データケーブルを検証する

データケーブルを取り付けたあと、その機能を検証できます。

1. データケーブルに障害があるとは見なされなくなっていることを検証します。
87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」を参照してから、このタスクに戻ります。
2. 既知の正常な交換用データケーブルが引き続き障害があると識別される場合は、ケーブルの接続をスイッチからリモートでチェックします。
サポートとして 15 ページの「障害の検出と管理」を参照してください。

関連情報

- 84 ページの「データケーブルの種類の識別」
- 87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」
- 91 ページの「データケーブルを取り外す」
- 98 ページの「(オプション) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」
- 100 ページの「データケーブルを取り付ける」
- 106 ページの「(オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする」

▼ (オプション) PrizmMT ソケットまたはコネクタフェルールをクリーニングする

この手順は、PrizmMT ケーブルを取り付ける場合に実行します。

1. 最初の手順を確認します。
 - ソケットをクリーニングしている場合は、**ステップ 2**に進みます。
 - コネクタをクリーニングしている場合は、**ステップ 9**に進みます。
2. PrizmMT クリーナの端からアダプタを取り外します。
3. クリーナの先端をソケットに挿入します。

4. クリーナをソケット内で何回か往復させて、クリーニングクロスを内側に送ります。
5. ソケットからクリーナを取り外し、きれいになったことを確認します。
6. ファイバがまだ汚れている場合は、[ステップ 3](#)から繰り返します。
7. PrizmMT クリーナの端にアダプタを取り付けます。
8. [100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)に戻ります。
9. PrizmMT クリーナの端にあるアダプタのふたを開きます。
10. アダプタにコネクタを挿入します。
11. コネクタをアダプタに対して押し込むことにより、クリーナを何回か往復させて、クリーニングクロスを送ります。
12. アダプタからコネクタを取り外し、きれいになったことを確認します。
13. ファイバがまだ汚れている場合は、[ステップ 10](#)から繰り返します。
14. PrizmMT クリーナの端にあるアダプタのふたを閉じます。
15. [100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)に戻ります。

関連情報

- [84 ページの「データケーブルの種類の識別」](#)
- [87 ページの「障害のあるデータケーブルを特定する」](#)
- [91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)
- [98 ページの「\(オプション\) 光ファイバ SFP+ ケーブルを組み立てる」](#)
- [100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)
- [106 ページの「データケーブルを検証する」](#)

バッテリーの保守

バッテリーは、スイッチの時間と日付を提供するリアルタイムクロックへの一定の電圧を維持します。バッテリーは、フロントパネルの左側の、PS 0 の横にある SMM の内部にあります。[11 ページの「コンポーネントの識別」](#)を参照してください。

説明	リンク
障害のあるバッテリーを交換します。	109 ページの「バッテリーに障害があるかどうかを判定する」 70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」 110 ページの「バッテリーを取り外す」 115 ページの「バッテリーを取り付ける」 119 ページの「バッテリーを検証する」 168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
バッテリーに障害があるかどうかを判定します。	109 ページの「バッテリーに障害があるかどうかを判定する」 15 ページの「障害の検出と管理」

関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)
- [15 ページの「障害の検出と管理」](#)
- [65 ページの「保守の準備」](#)
- [83 ページの「データケーブルの保守」](#)
- [121 ページの「ファンモジュールの保守」](#)
- [131 ページの「電源装置の保守」](#)
- [141 ページの「スイッチの交換」](#)
- [155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」](#)

▼ バッテリーに障害があるかどうかを判定する

バッテリーを交換する前に、それに障害があるかどうかを判定する必要があります。

1. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
2. **バッテリーが問題になっているかどうかを判定します。**

```
-> show /System/Open_Problems
Open Problems (1)
Date/Time          Subsystems          Component
-----
Thu Dec 17 05:00:01 2015  System              MB (Motherboard)
fault.chassis.battery.fail (Probability:100, UUID:76a2179a-51bd-c836-a7f1-af62953577fa, Resource:/SYS/MB,
Part
Number:7092577, Serial Number:AK00329231, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)
->
```

- 出力に単語 **battery** と **Oracle ILOM ターゲット /SYS/MB** が表示されている場合は、そのバッテリーを交換します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#) から開始します。
- 出力で別のコンポーネントが識別されている場合は、そのコンポーネントを保守します。
[49 ページの「未解決の問題の障害」](#) および [29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#) を参照してください。

3. **バッテリーに障害が発生しているかどうかを判定します。**

```
-> show /SYS/MB/V_VBAT alarm_status
/SYS/MB/V_VBAT
Properties:
alarm_status = state_asserted
->
```

アラームステータスが **cleared** 以外である場合は、そのバッテリーを交換します。[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#) から開始します。

4. **バッテリーに障害があるかどうかを判定できない場合は、さらに情報を探します。**
[15 ページの「障害の検出と管理」](#)を参照してください。

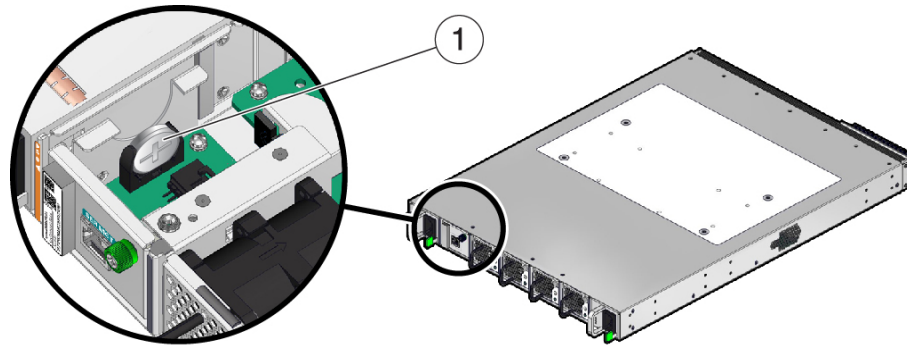
関連情報

- [110 ページの「バッテリーを取り外す」](#)
- [115 ページの「バッテリーを取り付ける」](#)
- [119 ページの「バッテリーを検証する」](#)

▼ バッテリーを取り外す

バッテリーの取り外しは、ホットスワップ操作です。バッテリーを取り外す前にスイッチの電源を切断する必要はありません。

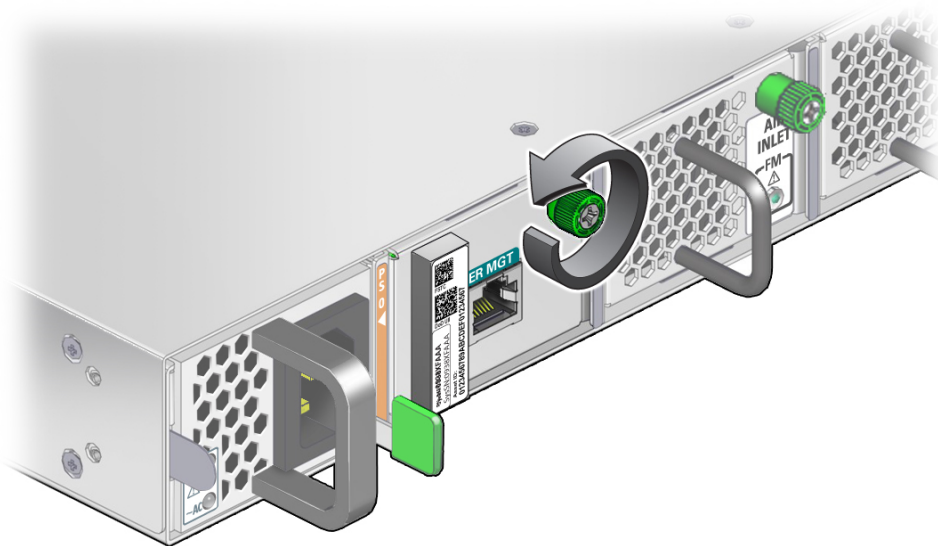
バッテリーは、SMM の内部にあります。



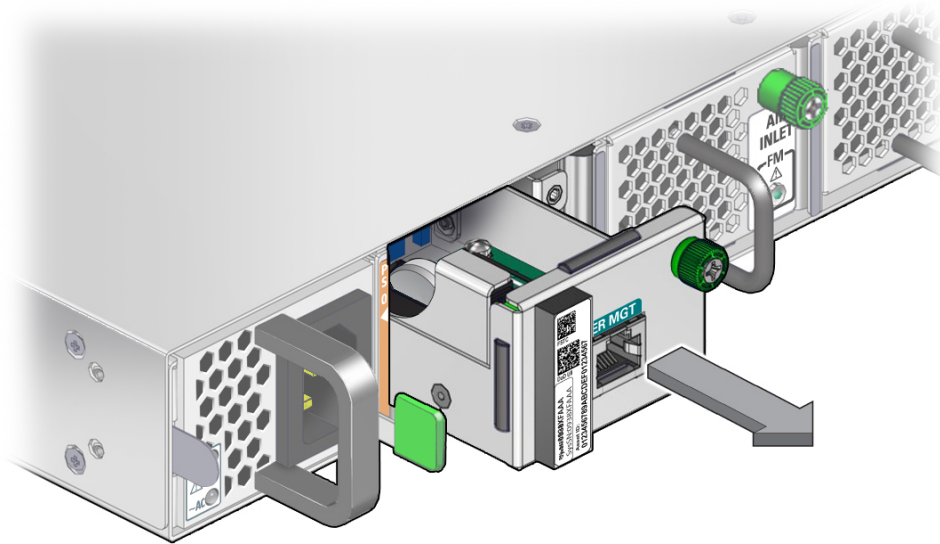
番号	説明
1	バッテリー

1. 最初の手順を確認します。
 - 保守の準備ができていない場合は、ここでそれを行う必要があります。
[65 ページの「保守の準備」](#)を参照してください。
 - これらの前提条件のタスクを完了している場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
2. まだ行なっていない場合は、エアダクト構成部品と SER MGT ケーブル (接続されている場合) を取り外します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)を参照してください。

3. SMM の右側にある脱落防止機構付きつまみねじを完全に緩めます。

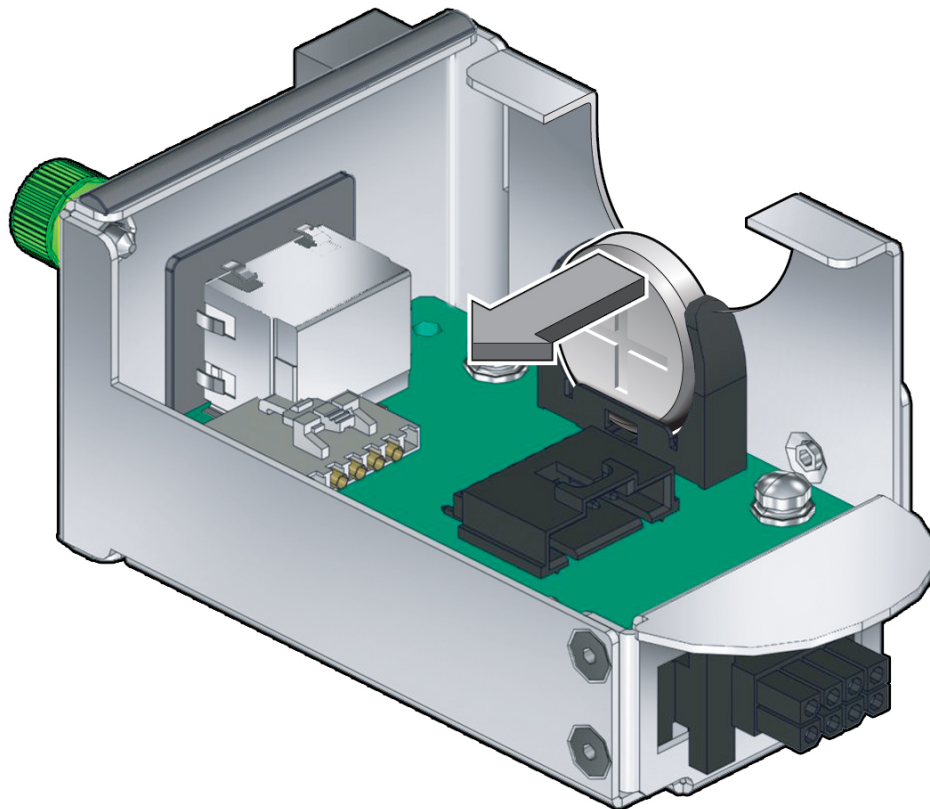


4. つまみねじをつかみ、SMM をまっすぐ引き出します。



5. SMM を静電気防止用マットの上に置きます。

6. **SER MGT** ポートを向こう側に向けた状態で、バッテリーを左側に押してホルダーから取り出します。



7. バッテリーを適切に廃棄します。
8. 新しいバッテリーを取り付けます。
[115 ページの「バッテリーを取り付ける」](#)を参照してください。

関連情報

- [109 ページの「バッテリーに障害があるかどうかを判定する」](#)
- [115 ページの「バッテリーを取り付ける」](#)
- [119 ページの「バッテリーを検証する」](#)

▼ バッテリーを取り付ける

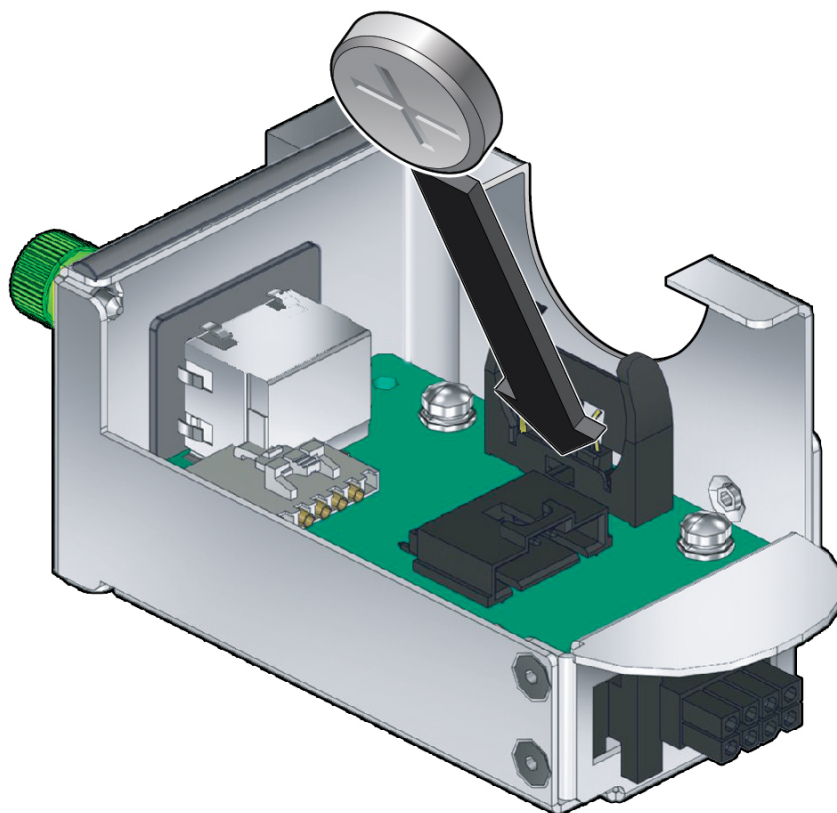
バッテリーの取り付けは、ホットスワップ操作です。バッテリーを取り付ける前にスイッチの電源を切断する必要はありません。



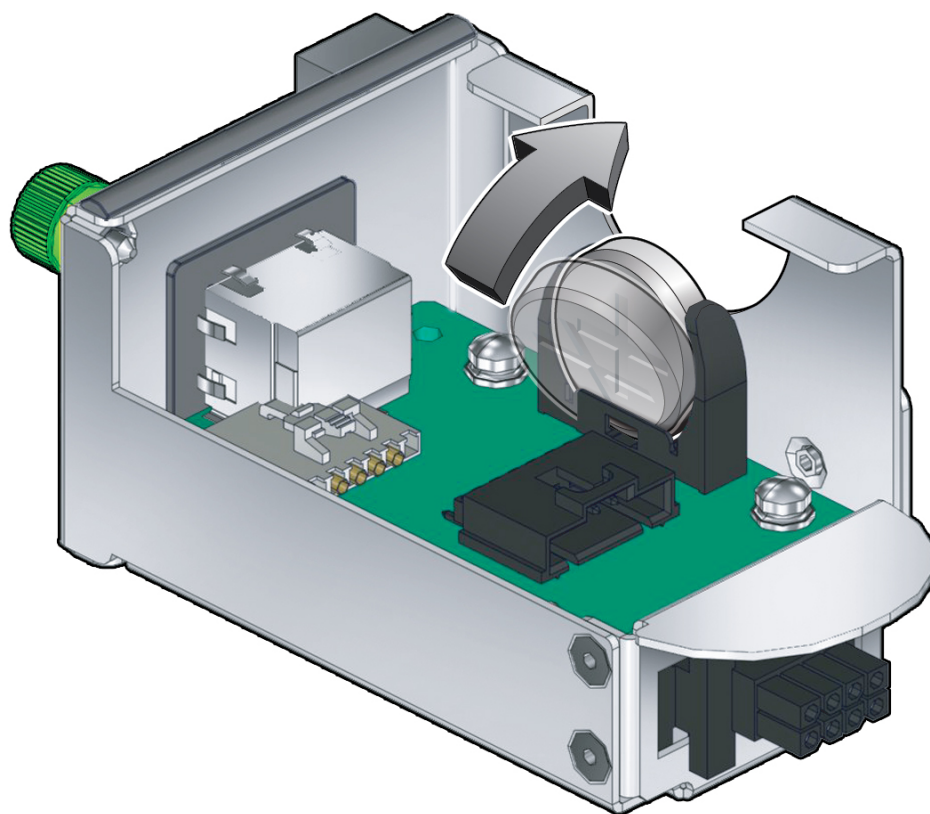
注意 - 左側の電源装置 (PS 0) の横にあるスロットは SMM 専用です。このスロットにファンモジュールを挿入したり、ファンモジュールのスロットに SMM を挿入したりすると、そのモジュールとスイッチの両方が破損します。

1. バッテリーを交換している場合は、まず障害のあるバッテリーを取り外してから、このタスクの[ステップ 2](#)に戻ります。
110 ページの「[バッテリーを取り外す](#)」を参照してください。
2. 新しいバッテリーをそのパッケージングから取り外し、取り付け先のホルダーの位置に合わせます。

SER MGT ポートを向こう側に向けた状態で、バッテリーのプラス側を斜め下に向け、それが左側になるように合わせます。

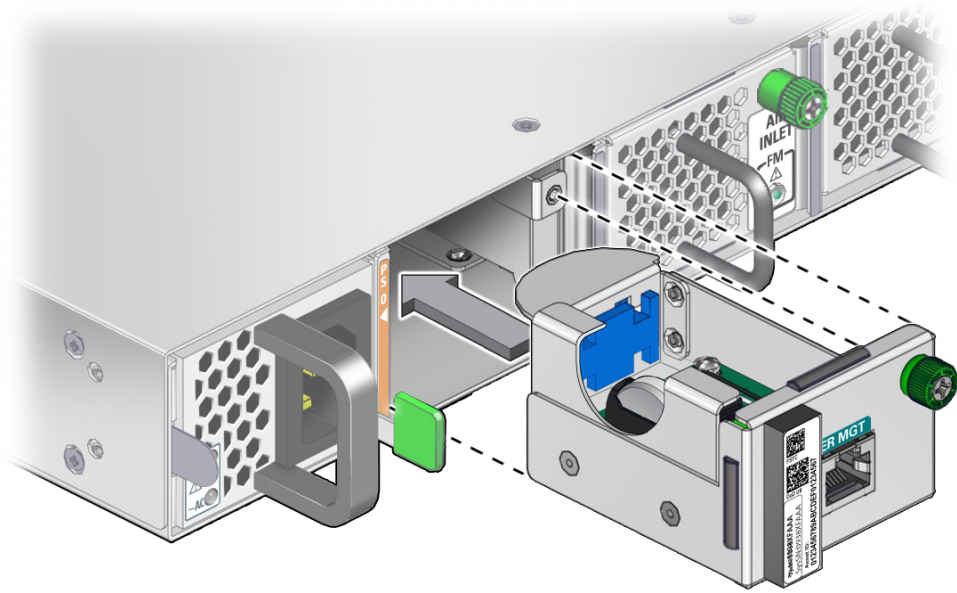


3. バッテリーの端をホルダーに挿入してから、それを右の方に回してまっすぐにします。



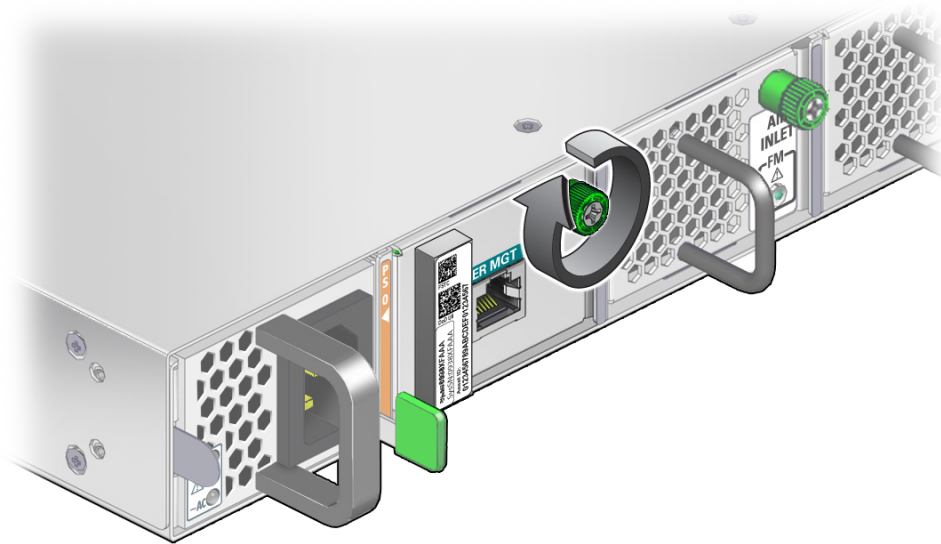
カチッと音がしてバッテリーが固定されます。

4. つまみねじが右側にある状態で、SMM をスイッチシャーシの開口部の位置に合わせます。



5. SMM が止まるまで、SMM をシャーシ内にしっかりスライドさせます。

6. 脱落防止機構付きつまみねじを締めて、SMM をスイッチシャーシ内に固定します。



7. バッテリーを検証します。
119 ページの「バッテリーを検証する」を参照してください。

関連情報

- 109 ページの「バッテリーに障害があるかどうかを判定する」
- 110 ページの「バッテリーを取り外す」
- 119 ページの「バッテリーを検証する」

▼ バッテリーを検証する

バッテリーを取り付けたあと、その機能を検証できます。

1. バッテリーに障害があるとは見なされなくなっていることを検証します。
109 ページの「バッテリーに障害があるかどうかを判定する」を参照してから、このタスクに戻ります。
2. バッテリー電圧を確認します。

```
-> show /SYS/MB/V_VBAT value
```

```
/SYS/MB/V_VBAT
Properties:
  value = 3.027 Volts
->
```

バッテリー電圧は、2.548 V を超えている必要があります。

3. 必要に応じて、日付と時間を設定します。

```
-> set /SP/clock datetime=MMDDhhmmYYYY
```

ここで、*MMDDhhmmYYYY* は 2 桁の月、日付、時間、分と 4 桁の年です。たとえば、日付と時間を 2016 年 1 月 20 日の朝 6:24 に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock datetime=012006242016
Set 'datetime' to '012006242016'
-> show /SP/clock datetime
/SP/clock
Properties:
  datetime = Wed Jan 20 06:24:01 2016
->
```

4. 次のタスクを確認します。

- **SER MGT の常時接続がある場合は、SER MGT ケーブルを接続します。**
160 ページの「[SER MGT ケーブルの接続](#)」を参照してください。
- **SER MGT 接続がない場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。**
168 ページの「[エアダクト構成部品の取り付け](#)」を参照してください。

関連情報

- 109 ページの「[バッテリーに障害があるかどうかを判定する](#)」
- 110 ページの「[バッテリーを取り外す](#)」
- 115 ページの「[バッテリーを取り付ける](#)」

ファンモジュールの保守

ファンモジュールには、可変速度の冗長ファンユニットが2つ含まれています。4つのファンモジュールが、スイッチシャーシの前面全体にわたって配置されています。[11 ページの「コンポーネントの識別」](#)を参照してください。

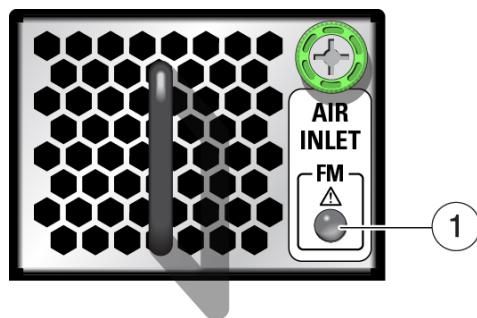
説明	リンク
障害のあるファンモジュールを交換します。	122 ページの「障害のあるファンモジュールを特定する」
	122 ページの「ファンモジュール LED」
	70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」
	125 ページの「ファンモジュールを取り外す」
	126 ページの「ファンモジュールを取り付ける」
	129 ページの「ファンモジュールを検証する」
障害のあるファンモジュールを識別します。	168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
	122 ページの「ファンモジュール LED」
	122 ページの「障害のあるファンモジュールを特定する」
	15 ページの「障害の検出と管理」

関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)
- [15 ページの「障害の検出と管理」](#)
- [65 ページの「保守の準備」](#)
- [83 ページの「データケーブルの保守」](#)
- [109 ページの「バッテリーの保守」](#)
- [131 ページの「電源装置の保守」](#)
- [141 ページの「スイッチの交換」](#)
- [155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」](#)

ファンモジュール LED

各ファンモジュールのステータスは、オレンジ色のアテンション LED によって表されます。LED は前面の右下の、緑色のねじの下にあります。[34 ページの「フロントパネルの LED」](#)を参照してください。この図と表は、ファンモジュール LED の機能について説明しています。これらの情報は、[122 ページの「障害のあるファンモジュールを特定する」](#)のタスクに使用してください。



番号	アイコン	名前	色	状態および意味
1		アテンション 保守要求	オレンジ色	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – 障害が検出されました。 ■ 消灯 – 障害は検出されていません。

関連情報

- [122 ページの「障害のあるファンモジュールを特定する」](#)
- [125 ページの「ファンモジュールを取り外す」](#)
- [126 ページの「ファンモジュールを取り付ける」](#)
- [129 ページの「ファンモジュールを検証する」](#)

▼ 障害のあるファンモジュールを特定する

ファンモジュールを交換する前に、どのファンモジュールに障害があるかを判定する必要があります。

1. 最初の手順を確認します。

- スイッチがある場所にいる場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
 - スイッチから離れた場所にいる場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
2. 保守アクション要求 LED が点灯しているかどうかを確認します。
[36 ページの「シャーンステータス LED」](#)を参照してください。
 3. ファンモジュールのアテンション LED を目視で点検して、点灯しているものがあるかどうかを確認します。
[122 ページの「ファンモジュール LED」](#)を参照してください。

注記 - LED が点灯している場合は、エアダクト構成部品を通して確認できます。

- ファンモジュールに障害がある場合は、それを交換します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)から開始します。
 - ファンモジュールに障害があるかどうかを判定できない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
4. Oracle ILOM CLI にアクセスします。
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
 5. ファンモジュールが問題になっているかどうかを判定します。

```
-> show /System/Open_Problems
Open Problems (1)
Date/Time           Subsystems           Component
-----
Thu Dec 17 05:18:44 2015 System              FMx (Fan Module)
  fault.chassis.device.fan.fail (Probability:100, UUID:0ebf1655-8700-c90e-fa53-ea6c3b2b25a0, Resource:/SYS/
  FMx, Part
  Number:N/A, Serial Number:N/A, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)
->
```

ここで、x は 0 - 3 です。

- 出力に単語 fan と Oracle ILOM ターゲット /SYS/FM_x が表示されている場合は、そのファンモジュールを交換します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)から開始します。
- 出力で別のコンポーネントが識別されている場合は、そのコンポーネントを保守します。
[49 ページの「未解決の問題の障害」](#) および [29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。

6. 冷却装置の健全性ステータスを表示します。

```
-> show /System/Cooling -t health
Target | Property | Value
-----+-----+-----
/System/Cooling | health | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_0 | health | Service Required
/System/Cooling/Fans/Fan_1 | health | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_2 | health | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_3 | health | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_4 | health | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_5 | health | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_6 | health | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_7 | health | OK
->
```

いずれかのファンの健全性の値が OK 以外である場合は、そのファンモジュールを交換します。どのファンモジュールを交換するかを判定するには、[28 ページの「Oracle ILOM /System ターゲットの交換可能コンポーネント」](#)を参照してください。そのあと、[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)から開始します。

7. Oracle ILOM インタフェース内で、ファンモジュールの障害状態を表示します。

```
-> show /SYS -t fault_state
Target | Property | Value
-----+-----+-----
/SYS | fault_state | OK
/SYS/FM0 | fault_state | Faulted
/SYS/FM0/FAN0 | fault_state | Faulted
/SYS/FM0/FAN1 | fault_state | OK
/SYS/FM1 | fault_state | OK
/SYS/FM1/FAN0 | fault_state | OK
/SYS/FM1/FAN1 | fault_state | OK
/SYS/FM2 | fault_state | OK
/SYS/FM2/FAN0 | fault_state | OK
/SYS/FM2/FAN1 | fault_state | OK
/SYS/FM3 | fault_state | OK
/SYS/FM3/FAN0 | fault_state | OK
/SYS/FM3/FAN1 | fault_state | OK
.
.
.
->
```

この出力の中の /SYS/FM で始まる行を探します。

ファンモジュールの障害状態が OK 以外である場合は、そのファンモジュールを交換します。[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)から開始します。

8. ファンモジュールに障害があるかどうかを判定できない場合は、さらに情報を探します。

[15 ページの「障害の検出と管理」](#)を参照してください。

関連情報

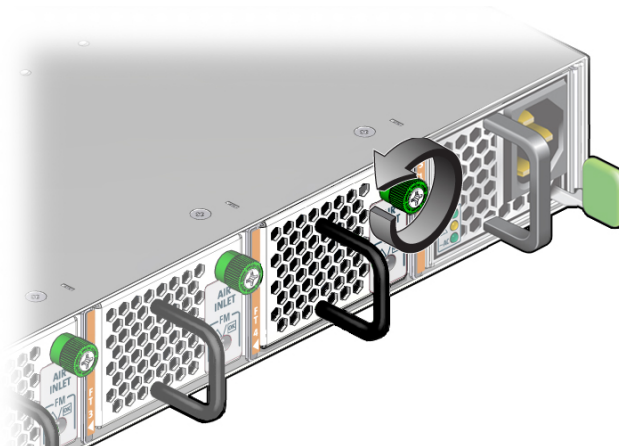
- [122 ページの「ファンモジュール LED」](#)
- [125 ページの「ファンモジュールを取り外す」](#)
- [126 ページの「ファンモジュールを取り付ける」](#)

- 129 ページの「ファンモジュールを検証する」

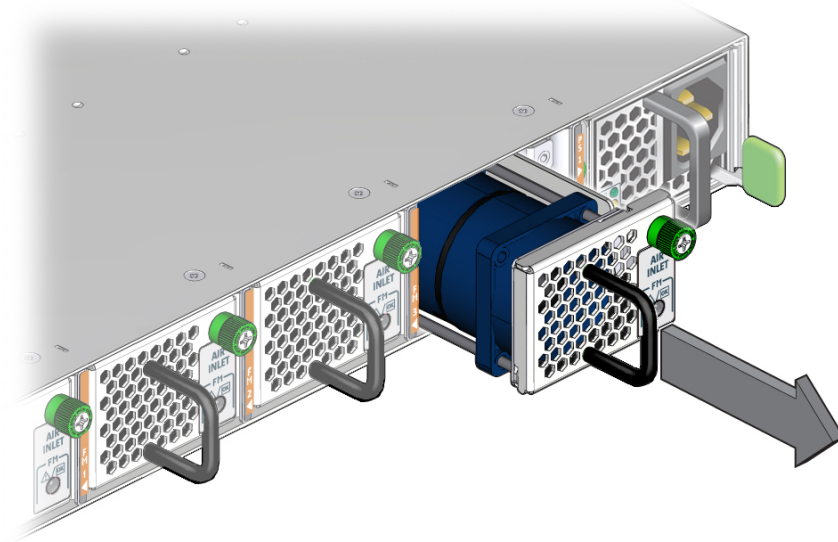
▼ ファンモジュールを取り外す

ファンモジュールの取り外しは、ホットスワップ操作です。ファンモジュールを取り外す前にスイッチの電源を切断する必要はありません。

1. どのファンモジュールを取り外すかを判定します。
122 ページの「障害のあるファンモジュールを特定する」を参照してください。
2. 次の手順を確認します。
 - 保守の準備ができていない場合は、ここでそれを行う必要があります。
65 ページの「保守の準備」を参照してください。
 - これらの前提条件のタスクを完了している場合は、**ステップ 3**に進みます。
3. まだ行なっていない場合は、エアダクト構成部品と SER MGT ケーブル (接続されている場合) を取り外します。
70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」を参照してください。
4. ファンモジュールの右側にある脱落防止機構付きつまみねじを緩めます。



5. ハンドルをつかみ、ファンモジュールをまっすぐ引き出します。



6. ファンモジュールを脇に置きます。
7. 新しいファンモジュールを取り付けます。
[126 ページの「ファンモジュールを取り付ける」](#)を参照してください。

関連情報

- [122 ページの「ファンモジュール LED」](#)
- [122 ページの「障害のあるファンモジュールを特定する」](#)
- [126 ページの「ファンモジュールを取り付ける」](#)
- [129 ページの「ファンモジュールを検証する」](#)

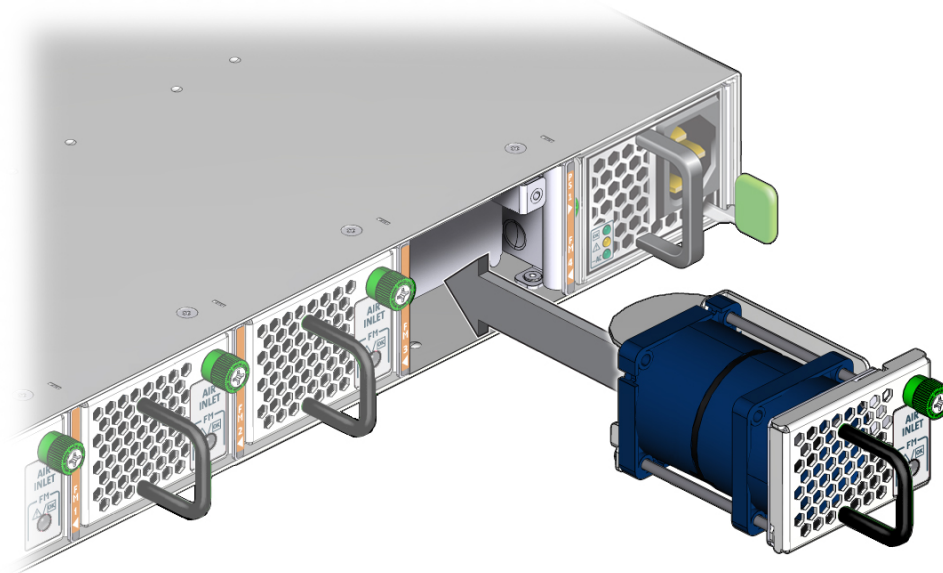
▼ ファンモジュールを取り付ける

ファンモジュールの取り付けは、ホットスワップ操作です。ファンモジュールを取り付ける前にスイッチの電源を切断する必要はありません。

1. ファンモジュールを交換している場合は、まず障害のあるファンモジュールまたは廃止されたファンモジュールを取り外してから、このタスクの[ステップ 2](#)に戻ります。

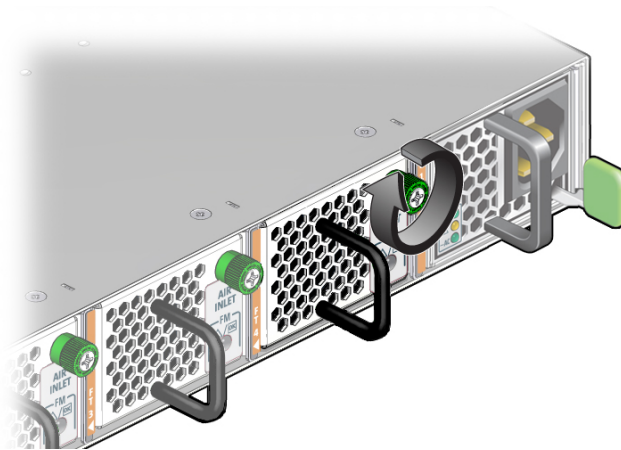
125 ページの「ファンモジュールを取り外す」を参照してください。

2. つまみねじが右側にある状態で、ファンモジュールをスイッチシャーシの開口部の位置に合わせます。



3. ファンモジュールが止まるまで、ファンモジュールをシャーシ内にしっかりスライドさせます。
ファンモジュールの電源がただちに入ります。

4. 脱落防止機構付きつまみねじを締めて、ファンモジュールをスイッチシャーシ内に固定します。



5. ファンモジュールのアテンション LED が消灯していることを確認します。
 - アテンション LED がまだ点灯している場合は、[129 ページの「ファンモジュールを検証する」](#)を参照してください。
 - アテンション LED が消灯している場合は、[ステップ 6](#)に進みます。
6. 次のタスクを確認します。
 - SER MGT の常時接続がある場合は、SER MGT ケーブルを接続します。[160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)を参照してください。
 - SER MGT 接続がない場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。[168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)を参照してください。

関連情報

- [122 ページの「ファンモジュール LED」](#)
- [122 ページの「障害のあるファンモジュールを特定する」](#)
- [125 ページの「ファンモジュールを取り外す」](#)
- [129 ページの「ファンモジュールを検証する」](#)

▼ ファンモジュールを検証する

ファンモジュールを取り付けたあと、その機能を検証できます。

1. Oracle ILOM CLI から、ファンモジュールをリセットします。

```
-> set /SYS/FMx clear_fault_action=true
```

ここで、x は 0 - 3 です。たとえば、ファンモジュール FM1 をリセットするには、次のように入力します。

```
-> set /SYS/FM1 clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/FM1 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
->
```

2. ファンモジュールに障害があるとは見なされなくなっていることを検証します。

122 ページの「[障害のあるファンモジュールを特定する](#)」を参照してから、このタスクに戻ります。

3. ファン速度を確認します。

```
-> show /SYS/FMx/FANy/TACH value
```

ここで、x は 0 - 3 であり、y は 0 または 1 です。たとえば、ファンモジュール FM1 の内部にある FAN1 のファン速度をチェックするには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/FM1/FAN1/TACH value
/SYS/FM1/FAN1/TACH
Properties:
  value = 21040 rpm
->
```

ファン速度は、6000 - 24000 RPM の範囲にあるべきです。

4. 次のタスクを確認します。

■ SER MGT の常時接続がある場合は、SER MGT ケーブルを接続します。

160 ページの「[SER MGT ケーブルの接続](#)」を参照してください。

■ SER MGT 接続がない場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。

168 ページの「[エアダクト構成部品の取り付け](#)」を参照してください。

関連情報

- 122 ページの「[ファンモジュール LED](#)」
- 122 ページの「[障害のあるファンモジュールを特定する](#)」
- 125 ページの「[ファンモジュールを取り外す](#)」
- 126 ページの「[ファンモジュールを取り付ける](#)」

電源装置の保守

電源装置は、スイッチの電源を投入するために必要な 12 VDC を供給します。電源装置は、フロントパネルの左側と右側にあります。[11 ページの「コンポーネントの識別」](#)を参照してください。

説明	リンク
障害のある電源装置を交換します。	133 ページの「障害のある電源装置を特定する」
	132 ページの「電源装置 LED」
	70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」
	74 ページの「スナップ留め具を取り外す」
	78 ページの「電源装置の電源を切断する」
	135 ページの「電源装置を取り外す」
	137 ページの「電源装置を取り付ける」
	156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」
	159 ページの「電源装置の電源を投入する」
	139 ページの「電源装置を検証する」
障害のある電源装置を識別します。	166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」
	168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
	132 ページの「電源装置 LED」
	133 ページの「障害のある電源装置を特定する」
	15 ページの「障害の検出と管理」

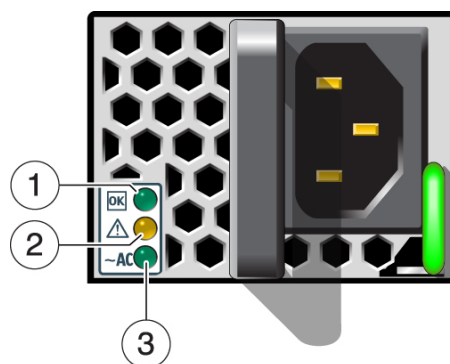
関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)
- [15 ページの「障害の検出と管理」](#)
- [65 ページの「保守の準備」](#)
- [83 ページの「データケーブルの保守」](#)

- 109 ページの「バッテリーの保守」
- 121 ページの「ファンモジュールの保守」
- 141 ページの「スイッチの交換」
- 155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」

電源装置 LED

各電源装置のステータスは、同じ 3 つの LED によって表されます。これらの LED は、前面の左下隅にあります。34 ページの「フロントパネルの LED」を参照してください。この図と表は、電源装置 LED の機能について説明しています。これらの情報は、133 ページの「障害のある電源装置を特定する」のタスクに使用してください。



番号	アイコン	位置	名前	色	状態および意味
1		上部	OK	緑色	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – 電源装置が障害なく機能しています。 ■ 消灯 – 電源装置は電源が切断されているか、または初期化中です。あるいは、出力電力がありません。
2		中央	アテンション 保守要求	オレンジ色	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – 障害が検出されました。 ■ 消灯 – 障害は検出されていません。
3		下部	AC	緑色	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – 入力電力が存在し、良好です。 ■ 消灯 – 入力電力が存在しません。

関連情報

- [133 ページの「障害のある電源装置を特定する」](#)
- [135 ページの「電源装置を取り外す」](#)
- [137 ページの「電源装置を取り付ける」](#)
- [139 ページの「電源装置を検証する」](#)

▼ 障害のある電源装置を特定する

電源装置を交換する前に、どの電源装置に障害があるかを判定する必要があります。

1. 最初の手順を確認します。
 - スイッチがある場所にいる場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
 - スイッチから離れた場所にいる場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
 2. 保守アクション要求 LED が点灯しているかどうかを確認します。
[36 ページの「シャーステータス LED」](#)を参照してください。
 3. 電源装置 LED を目視で点検して、どの LED が点灯しているかどうかを確認します。
[132 ページの「電源装置 LED」](#)を参照してください。
-
- 注記 - LED が点灯している場合は、エアダクト構成部品を通して確認できます。
-
- 電源装置に障害がある場合は、それを交換します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)から開始します。
 - 電源装置に障害があるかどうかを判定できない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。
4. Oracle ILOM CLI にアクセスします。
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
 5. 電源装置が問題になっているかどうかを判定します。

```
-> show /System/Open_Problems
Open Problems (1)
Date/Time           Subsystems           Component
-----
Thu Dec 17 05:17:11 2015  Power               PSx (Power Supply 1)
  fault.chassis.device.psu.fail (Probability:100, UUID:b516a939-23c2-ee8b-e997-d915ca03d044, Resource:/SYS/
  PSx, Part
```

Number:7065505-01, Serial Number:C92517, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)
->

ここで、x は 0 または 1 です。

- 出力に psu と Oracle ILOM ターゲット /SYS/PS_x が表示されている場合は、その電源装置を交換します。

70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」から開始します。

- 出力で別のコンポーネントが識別されている場合は、そのコンポーネントを保守します。

49 ページの「未解決の問題の障害」および 29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」を参照してください。

6. 電源システムの健全性ステータスを表示します。

```
-> show /System/power -t health
Target                                     | Property | Value
-----+-----+-----
/System/Power                             | health   | OK
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_0 | health   | OK
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_1 | health   | Service Required
->
```

いずれかの電源装置の健全性の値が OK 以外である場合は、その電源装置を交換します。70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」から開始します。

7. Oracle ILOM インタフェース内で、電源装置の障害状態を表示します。

```
-> show /SYS -t fault_state
Target | Property | Value
-----+-----+-----
/SYS   | fault_state | OK
.
.
.
/SYS/PS0 | fault_state | OK
/SYS/PS1 | fault_state | Faulted
/SYS/SP  | fault_state | OK
->
```

この出力の中の /SYS/PS で始まる行を探します。

いずれかの電源装置の障害状態の値が ok 以外である場合は、その電源装置を交換します。70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」から開始します。

8. 電源装置に障害があるかどうかを判定できない場合は、さらに情報を探します。

15 ページの「障害の検出と管理」を参照してください。

関連情報

- 132 ページの「電源装置 LED」
- 135 ページの「電源装置を取り外す」

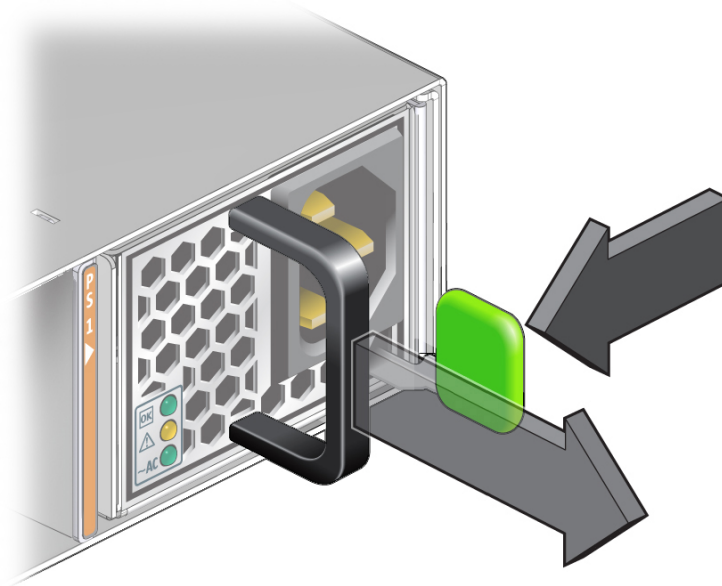
- [137 ページの「電源装置を取り付ける」](#)
- [139 ページの「電源装置を検証する」](#)

▼ 電源装置を取り外す

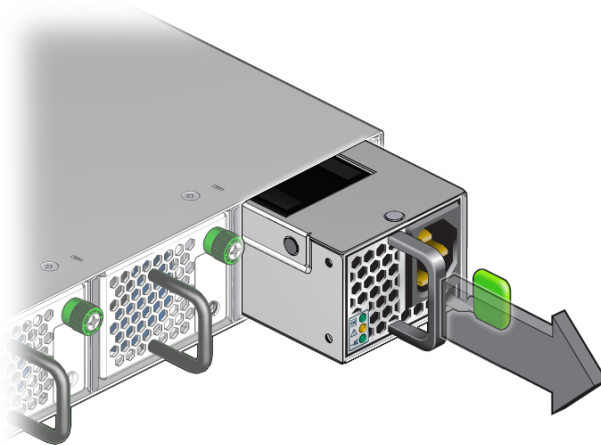
電源装置の取り外しは、ホットスワップ操作です。電源装置を取り外す前にスイッチの電源を切断する必要はありません。

1. どの電源装置を取り外すかを判定します。
[133 ページの「障害のある電源装置を特定する」](#)を参照してください。
2. 次の手順を確認します。
 - 保守の準備ができていない場合は、ここでそれを行う必要があります。
[65 ページの「保守の準備」](#)を参照してください。
 - これらの前提条件のタスクを完了している場合は、[ステップ 6](#)に進みます。
3. まだ行なっていない場合は、エアダクト構成部品と SER MGT ケーブル (接続されている場合) を取り外します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)を参照してください。
4. まだ行なっていない場合は、スナップ留め具を取り外します。
[74 ページの「スナップ留め具を取り外す」](#)を参照してください。
5. まだ行なっていない場合は、電源装置の電源を切断します。
[78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)を参照してください。

6. リリース爪を左に押したまま、電源装置のハンドルを引きます。



7. さらに電源装置のハンドルを引いて、電源装置をシャーシから取り外します。



8. 電源装置を脇に置きます。
9. 新しい電源装置を取り付けます。
[137 ページの「電源装置を取り付ける」](#)を参照してください。

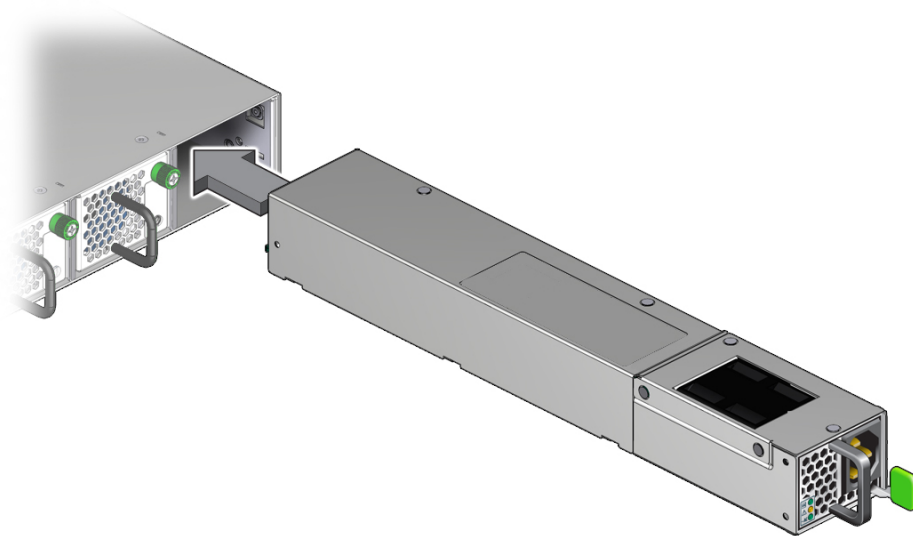
関連情報

- [132 ページの「電源装置 LED」](#)
- [133 ページの「障害のある電源装置を特定する」](#)
- [137 ページの「電源装置を取り付ける」](#)
- [139 ページの「電源装置を検証する」](#)

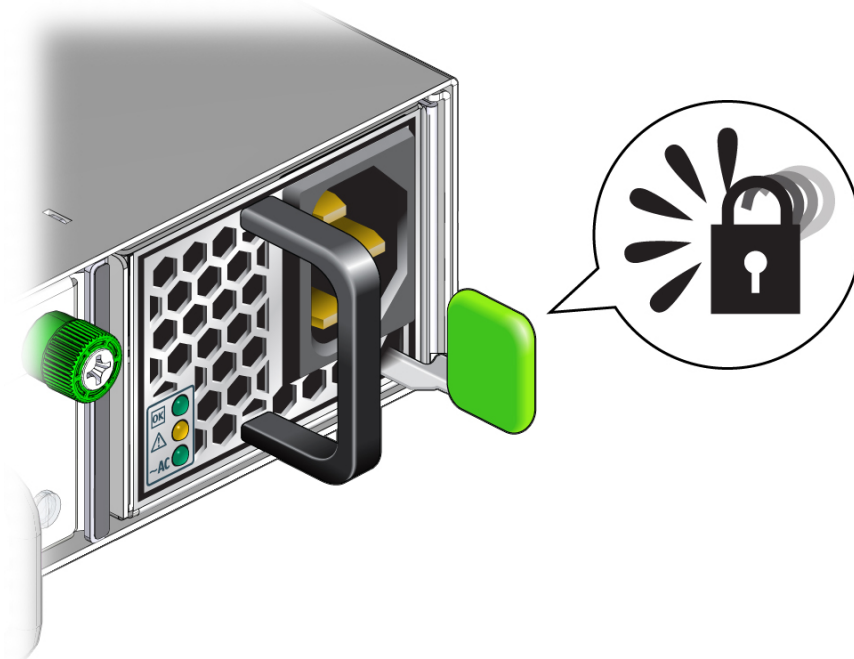
▼ 電源装置を取り付ける

電源装置の取り付けは、ホットスワップ操作です。電源装置を取り付ける前にスイッチの電源を切断する必要はありません。

1. 電源装置を交換している場合は、まず障害のある電源装置または廃止された電源装置を取り外してから、このタスクの[ステップ 2](#)に戻ります。
[135 ページの「電源装置を取り外す」](#)を参照してください。
2. ステータス LED が左側に、リリース爪が右側にある状態で、電源装置をスイッチシャーシの開口部の位置に合わせます。



3. ハンドルを押して、電源装置を空きスロット内にスライドさせます。
4. 電源装置が固定されたら、リリース爪がカチッと音がするまでしっかり押して、電源装置をシャーシに固定します。



5. 電源装置の電源を投入します。
電源装置の電源を投入するには、まず電源コードを引き出し、次に SER MGT の常時接続を使用する場合は SER MGT ケーブルを引き出す必要があります。156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」を参照してください。

関連情報

- 132 ページの「電源装置 LED」
- 133 ページの「障害のある電源装置を特定する」
- 135 ページの「電源装置を取り外す」
- 139 ページの「電源装置を検証する」

▼ 電源装置を検証する

電源装置を取り付けたあと、その機能を検証できます。

1. Oracle ILOM CLI から、電源装置をリセットします。

```
-> set /SYS/PSx clear_fault_action=true
```

ここで、x は 0 または 1 です。たとえば、電源装置 PS0 をリセットするには、次のように入力します。

```
-> set /SYS/PS0 clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/PS0 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
->
```

2. 電源装置に障害があるとは見なされなくなっていることを検証します。

[133 ページの「障害のある電源装置を特定する」](#)を参照してから、このタスクに戻ります。

3. 出力電圧を確認します。

```
-> show /SYS/PSx/V_OUT value
```

ここで、x は 0 または 1 です。たとえば、電源装置 PS0 の出力電圧をチェックするには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/PS0/V_OUT value
/SYS/PS0/V_OUT
Properties:
  value = 11.875 Volts
->
```

出力電圧は、10 - 14 V の範囲にあるべきです。

4. 電源投入プロセスを続行します。

[159 ページの「電源装置の電源を投入する」](#)に戻ります。

関連情報

- [132 ページの「電源装置 LED」](#)
- [133 ページの「障害のある電源装置を特定する」](#)
- [135 ページの「電源装置を取り外す」](#)
- [137 ページの「電源装置を取り付ける」](#)

スイッチの交換

これらのトピックでは、スイッチ全体を交換する方法について説明します。

説明	リンク
障害のあるスイッチを交換します。	143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」
	142 ページの「スイッチの LED」
	70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」
	74 ページの「スナップ留め具を取り外す」
	77 ページの「スイッチの電源を切断するための準備をする」
	78 ページの「電源装置の電源を切断する」
	91 ページの「データケーブルを取り外す」
	145 ページの「スイッチを取り外す」
	148 ページの「スイッチの設置」
	159 ページの「電源装置の電源を投入する」
	163 ページの「交換用スイッチを構成する」
	100 ページの「データケーブルを取り付ける」
	166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」
	168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
	151 ページの「スイッチを検証する」
スイッチに障害があるかどうかを判定します。	142 ページの「スイッチの LED」
	143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」
	15 ページの「障害の検出と管理」

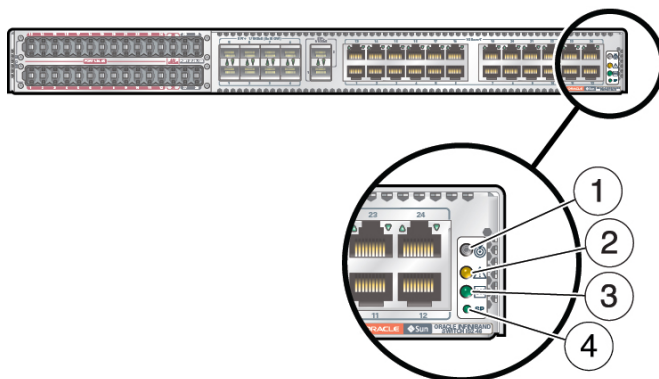
関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)

- 15 ページの「障害の検出と管理」
- 65 ページの「保守の準備」
- 83 ページの「データケーブルの保守」
- 109 ページの「バッテリーの保守」
- 121 ページの「ファンモジュールの保守」
- 131 ページの「電源装置の保守」
- 155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」

スイッチの LED

スイッチのステータスは、4 つの LED によって表されます。これらの LED は、スイッチの背面の右側にあります。36 ページの「シャーシステータス LED」を参照してください。この図と表は、スイッチの LED の機能について説明しています。これらの情報は、143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」のタスクに使用してください。



番号	アイコン	位置	名前	色	状態および意味
1		上部	位置特定	白色	これらの状況を示します。 ■ 速い点滅 – スイッチが自身を識別しています。 ■ 消灯 – 無効になっています。
2		中央	アテンション 保守要求	オレンジ色	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – 障害が検出されました。 ■ 消灯 – 障害は検出されていません。
3		中央	OK	緑色	これらの状況を示します。 ■ 点灯 – スイッチが障害なく機能しています。

番号	アイコン	位置	名前	色	状態および意味
4	SP	下部	SP	緑色	■ 消灯 – スイッチはオフであるか、初期化中です。これらの状況を示します。 ■ 点灯 – SP は準備ができています。 ■ ゆっくり点滅 – SP がブートしています。 ■ 消灯 – SP は電源がオフであるか、リセットされたか、障害があります。

関連情報

- [143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」](#)
- [145 ページの「スイッチを取り外す」](#)
- [148 ページの「スイッチの設置」](#)
- [151 ページの「スイッチを検証する」](#)

▼ スwitchに障害があるかどうかを判定する

スイッチを交換する前に、それに障害があるかどうかを判定する必要があります。

1. 最初の手順を確認します。
 - スイッチがある場所にいる場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
 - スイッチから離れた場所にいる場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
2. 保守アクション要求 LED が点灯しているかどうかを確認します。
[36 ページの「シャーシステータス LED」](#)を参照してください。
 - **SP LED** が消灯している場合は、そのスイッチを交換します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)から開始します。
 - スイッチに障害があるかどうかを判定できない場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
3. Oracle ILOM CLI にアクセスします。
[38 ページの「SP へのアクセス」](#)を参照してください。
4. スイッチが問題になっているかどうかを判定します。

```
-> show /System/Open_Problems
```

コマンドの出力は次のようになることがあります。

スイッチに障害があるかどうかを判定する

```
Open Problems (1)
Date/Time          Subsystems          Component
-----
Thu Dec 17 05:11:35 2015 System          MB (Motherboard)
  fault.chassis.env.temp.over-fail (Probability:100, UUID:4c4bdfa1-f7d5-c7a7-e59e-f9a8ce4fab21, Resource:/SYS/MB, Part
  Number:7092577, Serial Number:AK00329231, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)
->
```

または

```
Open Problems (1)
Date/Time          Subsystems          Component
-----
Thu Dec 17 05:13:26 2015 System          SP (Service Processor)
  fault.chassis.voltage.fail (Probability:100, UUID:0a408985-6011-ccd7-c3a1-e01c7254ea87, Resource:/SYS/SP,
  Part
  Number:7096151, Serial Number:489089M+15306P00M0, Reference Document:http://support.oracle.com/msg/---)
->
```

- 出力に単語 **temp** と **fail**、または **voltage** と **fail**、および **Oracle ILOM** ターゲット **/SYS/MB** または **/SYS/SP** のどちらかが表示されている場合は、そのスイッチを交換します。

70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」から開始します。

- 出力で別のコンポーネントが識別されている場合は、そのコンポーネントを保守します。

49 ページの「未解決の問題の障害」および 29 ページの「Oracle ILOM レガシーターゲットの交換可能コンポーネント」を参照してください。

5. Oracle ILOM インタフェース内で、メインボードコンポーネントの障害状態を表示します。

```
-> show /SYS -t fault_state
Target          | Property          | Value
-----
/SYS             | fault_state       | OK
.
.
/SYS/MB          | fault_state       | Faulted
.
/SYS/SP          | fault_state       | OK
->
```

この出力の中の **/SYS**、**/SYS/MB**、および **/SYS/SP** で始まる行を探します。

それらの障害状態が **OK** 以外である場合は、そのスイッチを交換します。70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」から開始します。

6. スイッチに障害があるかどうかを判定できない場合は、さらに情報を探します。

15 ページの「障害の検出と管理」を参照してください。

関連情報

- [142 ページの「スイッチの LED」](#)
- [145 ページの「スイッチを取り外す」](#)
- [148 ページの「スイッチの設置」](#)
- [151 ページの「スイッチを検証する」](#)

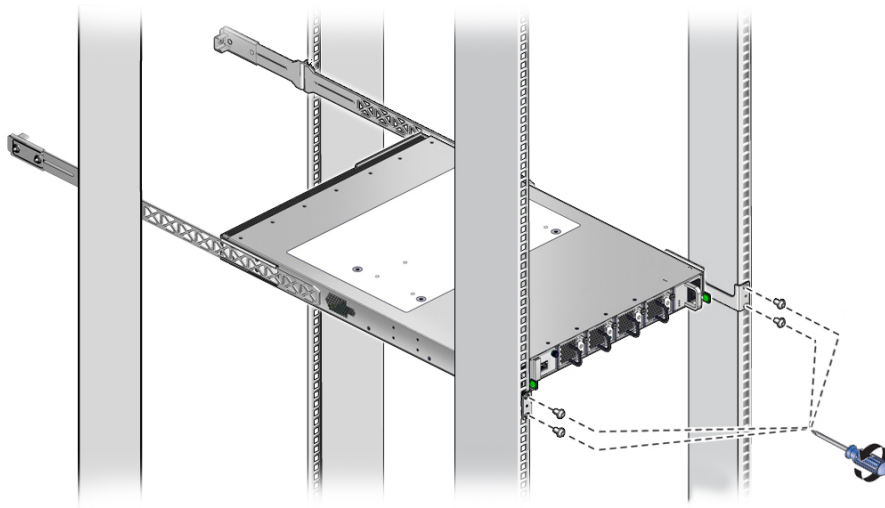
▼ スイッチを取り外す

スイッチの取り外しは、コールド保守操作です。スイッチを取り外す前に、その電源を切断する必要があります。

注記 - スイッチの重さおよび固定のため、スイッチの取り外しには 2 人が必要です。

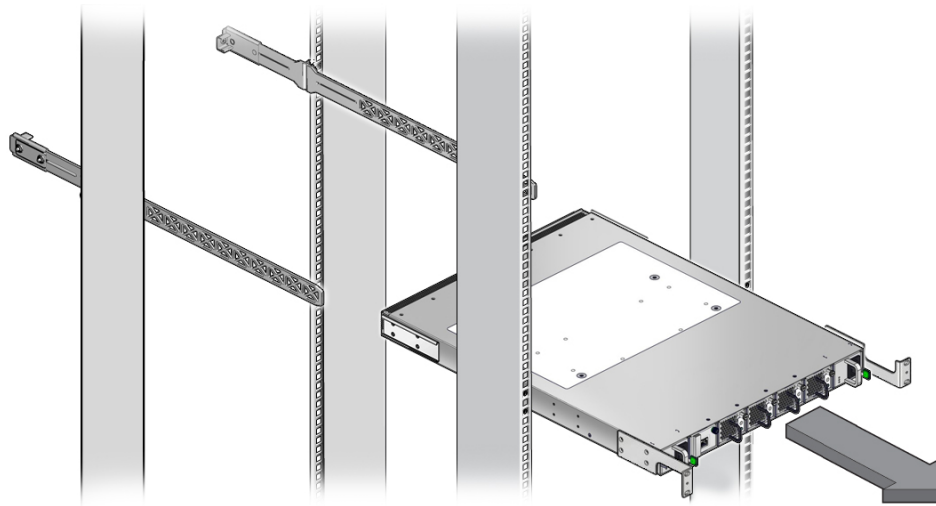
1. 最初の手順を確認します。
 - 保守の準備ができていない場合は、ここでそれを行う必要があります。
[65 ページの「保守の準備」](#)を参照してください。
 - これらの前提条件のタスクを完了している場合は、[ステップ 2](#)に進みます。
2. エアダクト構成部品と SER MGT ケーブル (接続されている場合) を取り外します。
[70 ページの「エアダクト構成部品を取り外す」](#)を参照してください。
3. 両方のスナップ留め具を取り外します。
[74 ページの「スナップ留め具を取り外す」](#)を参照してください。
4. 両方の電源装置の電源を切断します。
[78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)を参照してください。
5. すべてのデータケーブルを取り外します。
[91 ページの「データケーブルを取り外す」](#)を参照してください。

6. スwitchの重さを支えながら、プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用して、長い留め具から 4 つのねじを取り外します。



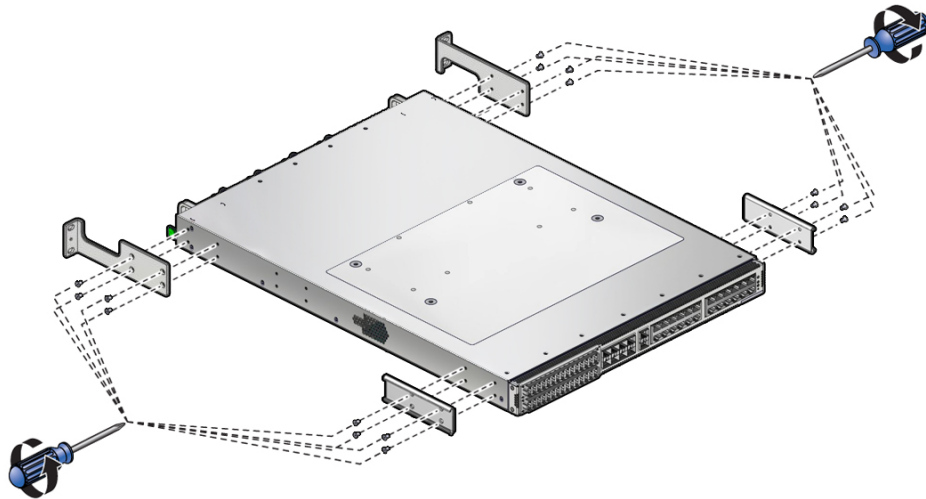
7. スwitchをスライドさせてラックからゆっくり引き出します。

スライドさせるとき、スイッチが長いレールに固定されていないことを確認してください。



8. スイッチを安定した作業面の上に置きます。

9. プラスのねじ回し (Phillips の 1 番) を使用して、C の形をした留め具をスイッチシャーシの背面側に固定している 8 つのねじを取り外します。



10. 長い前面固定部品をスイッチシャーシの前面側に固定している 8 つのねじを取り外します。
11. 交換用スイッチを取り付けます。
[148 ページの「スイッチの設置」](#)を参照してください。

関連情報

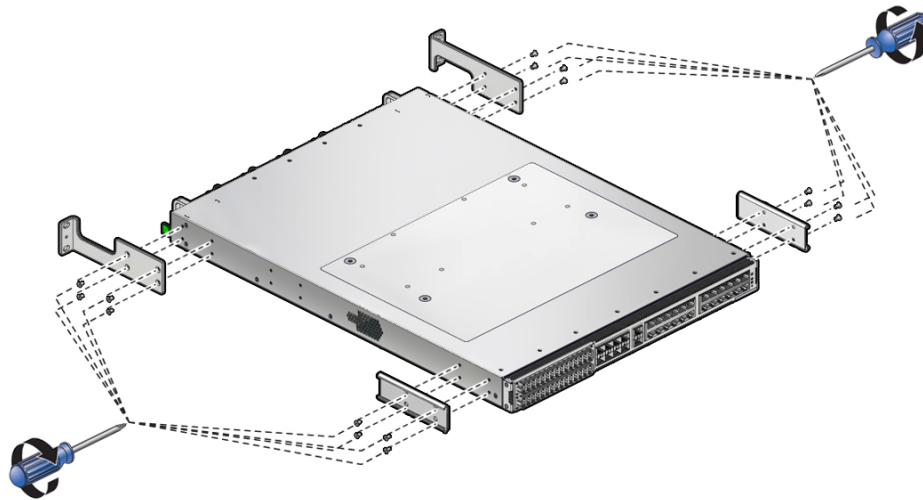
- [142 ページの「スイッチの LED」](#)
- [143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」](#)
- [148 ページの「スイッチの設置」](#)
- [151 ページの「スイッチを検証する」](#)

▼ スwitchの設置

注記 - スwitchの重さおよび固定のため、スswitchの取り付けには 2 人が必要です。

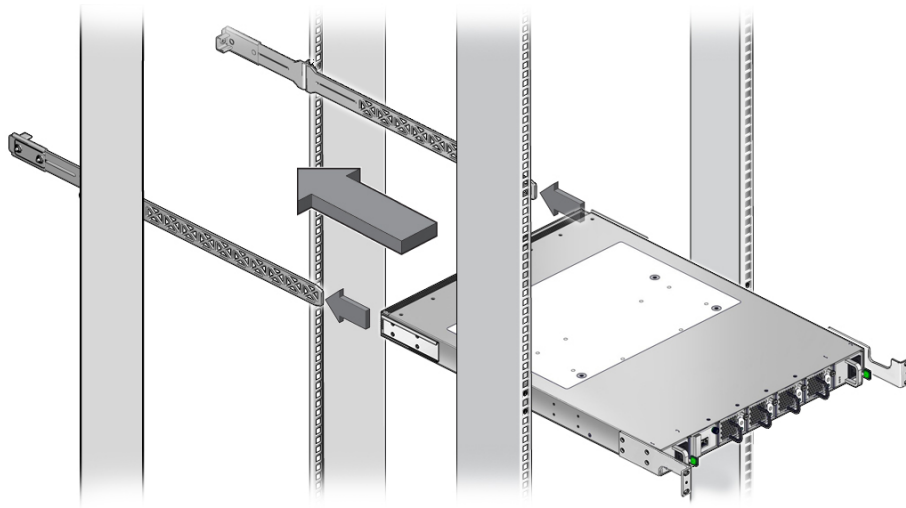
1. スwitchを交換している場合は、まず障害のあるスswitchまたは廃止されたスswitchを取り外してから、このタスクの[ステップ 2](#)に戻ります。
[145 ページの「スswitchを取り外す」](#)を参照してください。

2. プラスのねじ回し (Phillips の 1 番) を使用して、2 つの長い前面固定部品をシャーシの前面側に固定する 8 つのねじを取り付けます。

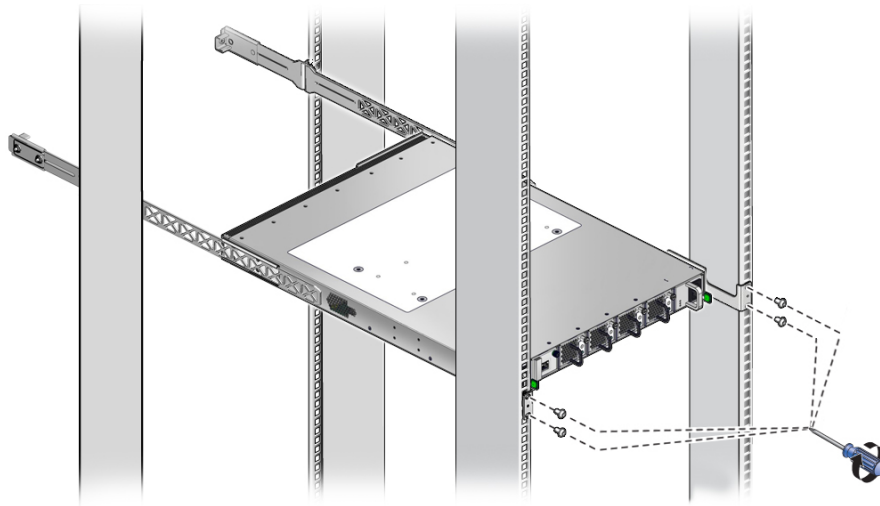


3. 8 つのねじを使用して、C の形をした 2 つの留め具をシャーシの背面側に取り付けます。
4. スイッチを慎重に持ち上げて、ラックの前面から後方にスライドさせます。

長いレールの両端をスイッチシャーシの背面にある C の形をした留め具に確実にスライドさせるようにしてください。



5. プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用して、スイッチシャーシの前面を各側に 2 本のねじを使用して前側のラックポストに取り付けます。



注記 - この時点ではねじを完全に締め付けないでください。

6. スイッチを稼働状態に戻します。

155 ページの「スイッチを稼働状態に戻す」で指示されたタスクを実行します。
最初に、電源コードを引き出します。156 ページの「電源コードおよび SER MGT
ケーブルを引き出す」を参照してください。

関連情報

- 142 ページの「スイッチの LED」
- 143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」
- 145 ページの「スイッチを取り外す」
- 151 ページの「スイッチを検証する」

▼ スイッチを検証する

スイッチを取り付けたあと、その機能を検証できます。

1. スイッチに障害があるとは見なされなくなっていることを検証してから、このタスクに戻ります。

143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」を参照してください。

2. Ethernet 接続を確認します。

a. EMS コンソールを起動します。

```
-> start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
Are you sure you want to start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
(y/n)? y
Management Switch for Oracle InfiniBand Switch IS2-46
SEFOS login:
```

b. SEFOS にログインします。

```
SEFOS login: root
Password: password
SEFOS#
```

デフォルトのパスワードは admin123 です。

c. Ethernet ポートの状態を表示します。

```
SEFOS# show interfaces status
```

Port	Status	Duplex	Speed	Negotiation	Capability
----	-----	-----	-----	-----	-----

```

Gi0/1      not connected  Half  -      Auto      Auto-MDIX on
Gi0/2      connected      Full  1 Gbps  Auto      Auto-MDIX on
Gi0/3      connected      Full  1 Gbps  Auto      Auto-MDIX on
Gi0/4      not connected  Half  -      Auto      Auto-MDIX on
Gi0/5      not connected  Half  -      Auto      Auto-MDIX on
Gi0/6      connected      Full  1 Gbps  Auto      Auto-MDIX on
Gi0/7      not connected  Half  -      Auto      Auto-MDIX on
...
Gi0/13     connected      Full  1 Gbps  Auto      Auto-MDIX on
...
Gi0/23     not connected  Half  -      Auto      Auto-MDIX on
Gi0/23     connected      Full  1 Gbps  Auto      Auto-MDIX on
Gi0/25     connected      Full  1 Gbps  Auto      Auto-MDIX on
Gi0/26     connected      Full  1 Gbps  Auto      Auto-MDIX on
Ex0/1      not connected  Full  10 Gbps No-Negotiation Auto-MDIX on
Ex0/2      not connected  Full  10 Gbps No-Negotiation Auto-MDIX on
SEFOS#

```

この出力で、Port は背面パネルにあるポートです。ポート Gi0/25 および Gi0/26 は、スイッチアーキテクチャの内部用です。ポート Ex0/1 および Ex0/2 は 2 つの SFP+ アップリンクポートです。Status はポートの状態です。Duplex、Speed、および Negotiation はリンクのパラメータです。Capability は自動クロスオーバー機能がオンであるかどうかを示しています。

- d. 既知の接続済みのポートのステータスが **connected** 以外の場合は、原因を調査してください。

[15 ページの「障害の検出と管理」](#)を参照してください。

- e. EMS コンソールを終了します。

```

SEFOS# exit
Connection closed by foreign host

Entering character mode
Escape character is '^]'.
start: The session with /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli has ended.
->

```

3. IB およびゲートウェイの接続を確認します。

- a. ホストを起動します。

```

-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y

Serial console started. To stop, type ESC (

```

- b. Enter を押します。

```
[user@hostname ~]#
```

ここでは:

- *user* は現在のユーザー名です。
- *hostname* は SCP のホスト名です。

c. パスワード `admin` を使用してユーザー `admin` に切り替えます。

```
[user@hostname ~]# su admin
Welcome to IBOS Controller
Copyright (c) 2012-2015 Oracle Corp. All rights reserved.
Enter "help" for information on available commands.
Enter the command "show system copyright" for licensing information
admin@hostname[OFOS]
```

注記 - このドキュメントではこれ以降、`admin@hostname[OFOS]` プロンプトを簡単に `[OFOS]` で置き換えています。

これが OFOS へのはじめてのアクセスである場合は、OFOS 構成ウィザードが起動されることがあります。この状態が発生した場合は、『*Oracle InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド*』の OFOS 構成ウィザードの実行に関する項を参照してください。

d. ゲートウェイのポートの状態を表示します。

```
[OFOS] show ioports
name      type              state             descr             v-resources
-----
0/1       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
0/2       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
0/3       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
0/4       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
0/5       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
0/6       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
0/7       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
0/8       gwEthernet10GbPort up/indeterminate  0
8 records displayed
[OFOS]
```

この出力で、`name` は背面パネルにあるポート番号です。`state` はローカルポート/ピアポートの状態です。`descr` はピアポートのノード記述子です。`v-resources` は、そのポートでサポートされている VLAN および VNIC の数です。

e. IB ポートの状態を表示します。

```
[OFOS] show infiniband-port
name      state             mode_state        guid
-----
0/1       up/down          switching         0
0/2       up/down          switching         0
0/3       up/down          switching         0
0/4       up/down          switching         0
.
.
0/27      up/down          switching         0
0/28      up/down          switching         0
0/29      up/down          switching         0
0/30      up/down          switching         0
30 records displayed
[OFOS]
```

この出力で、`name` は背面パネルにあるポート番号です。`state` はローカルポート/ピアポートの状態です。`mode_state` はリンクの状態です。`guid` はピアポートの GUID です。

- f. これらのコマンドの出力で、ポートが **down** 状態として示されている場合、またはリンク `mode_state` が **switching** 以外の場合は、原因を調査します。

[15 ページの「障害の検出と管理」](#) を参照してください。

- g. ホストコンソールを終了します。

exit と入力して Enter キーを押し、Esc キーを押して (と入力します。

```
[OF0S] exit
[root@nsn156-168 ~]#
Serial console stopped.
->
```

関連情報

- [142 ページの「スイッチの LED」](#)
- [143 ページの「スイッチに障害があるかどうかを判定する」](#)
- [145 ページの「スイッチを取り外す」](#)
- [148 ページの「スイッチの設置」](#)

スイッチを稼働状態に戻す

これらのトピックでは、保守タスクを実行したあとにスイッチを稼働状態に戻す方法について説明します。

手順	説明	リンク
1.	電源コード、および必要に応じて SER MGT ケーブルを引き出します。そのあと、これらのコンポーネントを保守した場合は、電源装置の電源を投入します。 ■ 電源装置 ■ スイッチの交換	156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」 159 ページの「電源装置の電源を投入する」
2.	このコンポーネントを保守した場合は、スイッチを構成し、データケーブルを接続します。 ■ スイッチの交換	163 ページの「交換用スイッチを構成する」 100 ページの「データケーブルを取り付ける」
3.	スナップ留め具を取り付けます。	166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」
4.	手順 1 のコンポーネントまたはこれらのコンポーネントを保守した場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。 ■ バッテリ ■ ファンモジュール	168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
5.	手順 1、手順 2、または手順 4 のコンポーネントを保守した場合は、これらのコンポーネントの取り付けを検証します。	139 ページの「電源装置を検証する」 106 ページの「データケーブルを検証する」 151 ページの「スイッチを検証する」 119 ページの「バッテリーを検証する」 129 ページの「ファンモジュールを検証する」

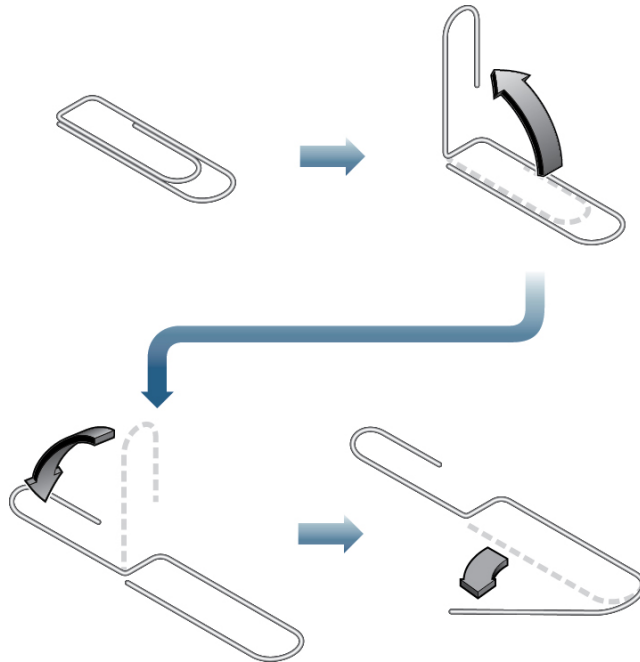
関連情報

- [11 ページの「コンポーネントの識別」](#)
- [15 ページの「障害の検出と管理」](#)
- [65 ページの「保守の準備」](#)
- [83 ページの「データケーブルの保守」](#)
- [109 ページの「バッテリーの保守」](#)

- 121 ページの「ファンモジュールの保守」
- 131 ページの「電源装置の保守」
- 141 ページの「スイッチの交換」

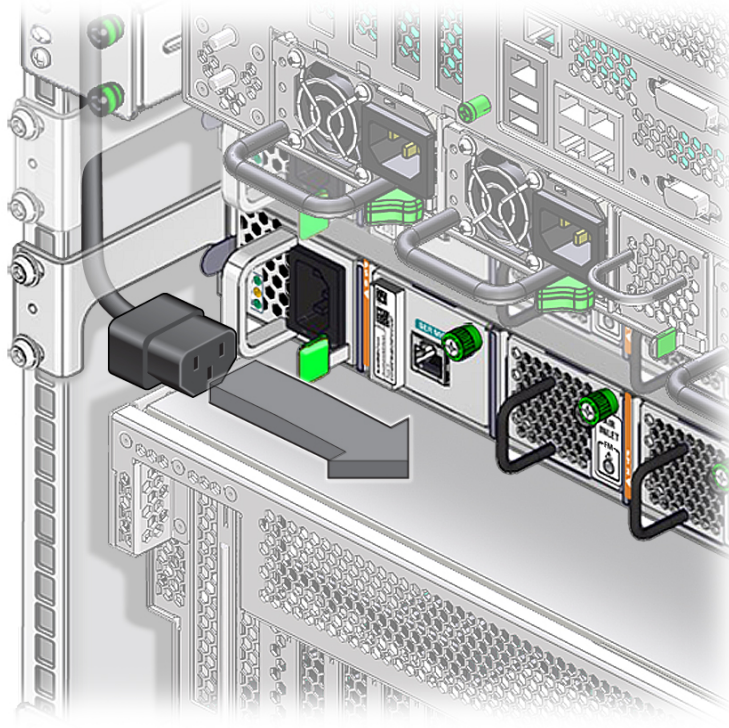
▼ 電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す

1. ペーパークリップを取り出し、小さい方のループを大きい方のループから離します。



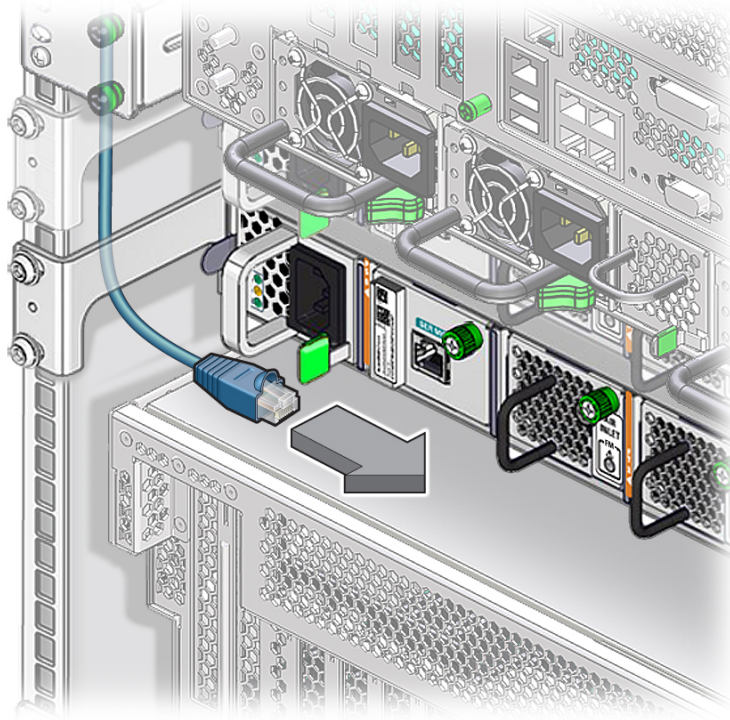
2. ペーパークリップをさらに広げて小さい方のループを折り返し、ペーパークリップが S 字になるようにします。
3. 大きい方のループを約 45 度開いて、フックのような形にします。
4. 小さい方のループを持ち、大きい方のループを長い前面固定部品の開口部に挿入し、電源コードを引っかけて内部にぶら下げます。

5. 指でつかむことができるまで、開口部を通して電源コードを引き込みます。



6. コードの端が自由になるようにコードを引き込みます。
7. 必要に応じて、もう一方の電源コードに対して**ステップ 4** から**ステップ 6** を繰り返します。
8. SER MGT の常時接続がある場合は、SER MGT ケーブルに対して**ステップ 4** から**ステップ 6** を繰り返します。

注記 - SER MGT ケーブルを引き込むときは、RJ-45 コネクタの爪を壊さないように注意してください。



9. 電源装置の電源を投入します。

159 ページの「電源装置の電源を投入する」を参照してください。

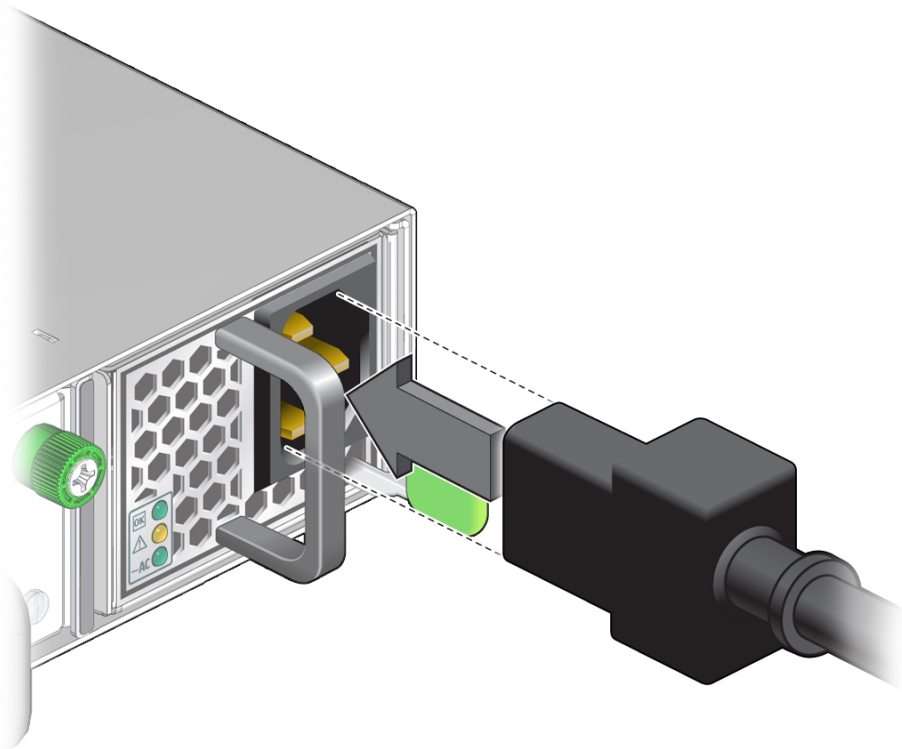
関連情報

- 159 ページの「電源装置の電源を投入する」
- 160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」
- 163 ページの「交換用スイッチを構成する」
- 166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」
- 168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」

▼ 電源装置の電源を投入する

注記 - どちらかの電源装置の電源を投入すると、スイッチの電源が投入されます。

1. 電源コードを電源装置に再接続します。



AC LED が緑色に点灯して、電源装置が施設の電源に接続されていることを示します。しばらくすると、OK LED が緑色に点灯して、電源装置がフル電源状態にあることを示します。

2. 保守操作の一部として電源装置を交換した場合は、電源装置のアテンション LED が点灯していないことを確認します。
 - アテンション LED が点灯している場合は、[139 ページの「電源装置を検証する」](#)を参照してから、この手順に戻ります。

- アテンション LED が消灯している場合は、[ステップ 3](#) に進みます。
3. 次の手順を確認します。
 - 電源装置を取り付けた場合は、スナップ留め具を取り付けます。
[166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」](#)を参照してください。
 - 交換のあとにスイッチの電源を投入している場合は、もう一方の電源コードに対して[ステップ 1](#)を繰り返します。
 - 構成プロセスの一部としてスイッチの電源を投入している場合は、そのタスクに戻ります。
[163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#)を参照してください。
 4. 交換用スイッチを構成できるように **SER MGT ケーブル**を接続します。
[160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)を参照してください。

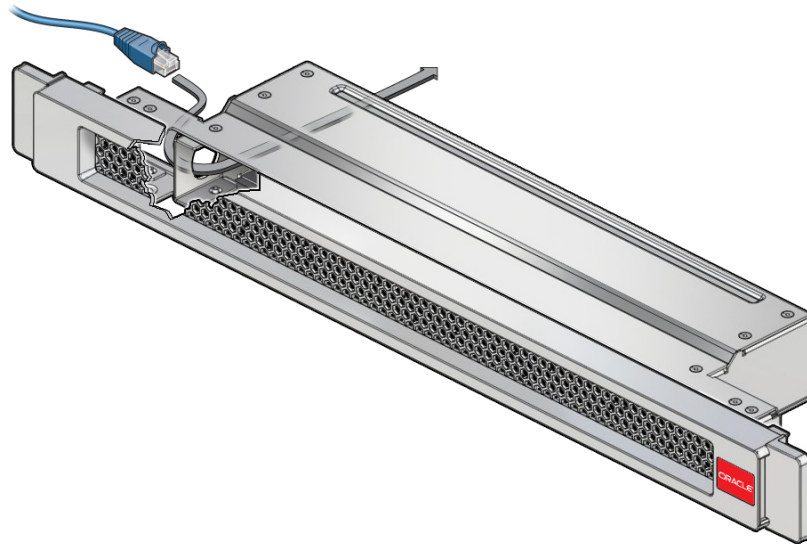
関連情報

- [156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)
- [160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)
- [163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#)
- [166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」](#)
- [168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)

▼ SER MGT ケーブルの接続

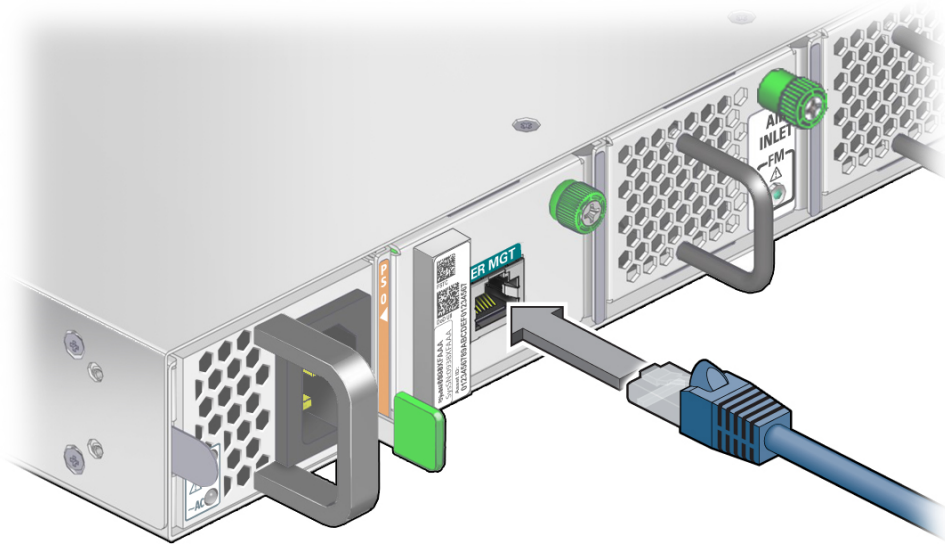
1. 次の手順を確認します。
 - SER MGT ケーブルが常時接続になる場合は、[ステップ 2](#) に進みます。
 - SER MGT 接続が交換用スイッチを構成するための一時的なものでしかない場合は、[ステップ 4](#) に進みます。
2. エアダクト構成部品の側面の開口部に **SER MGT ケーブル**の端を通します。
 - SER MGT ケーブルが左側にある場合は、ケーブルを外側から通して、左側の開口部 (Oracle ロゴがない方) から中心に通します。

- SER MGT ケーブルが右側にある場合は、ケーブルを外側から通して、右側の開口部 (Oracle ロゴがある方) から中心に通します。



3. エアダクト構成部品にケーブルをさらに引き込んでたるみをなくします。
4. スイッチの前面左側の電源装置の近くにある SER MGT ソケットに RJ-45 コネクタを合わせます。

ソケットの爪は上側にあります。



5. カチッと音がするまでコネクタをソケットに挿入し、その位置に固定します。
6. 次の手順を確認します。
 - スイッチをすでに交換し、それを構成する必要がある場合は、[163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#)を参照してください。
 - 電源装置、ファンモジュール、またはバッテリーを取り付けた場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。
[168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)を参照してください。

関連情報

- [156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)
- [159 ページの「電源装置の電源を投入する」](#)
- [163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#)
- [166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」](#)
- [168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)

▼ 交換用スイッチを構成する

注記 - このタスクの手順は、実行すべき操作を一般化したものです。これらのステップを実行する方法に関するより詳細な指示については、『Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド』、『Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド』、および『Oracle Fabric OS 1.0 管理ガイド』を参照してください。



注意 - 指示があるまで、どのネットワークまたはファブリックケーブルも接続しないでください。

1. 交換用スイッチの出荷用梱包箱から顧客情報シートを取り外します。
2. シリアル番号、プライマリ MAC ID、およびセカンダリ MAC ID を記録します。
プライマリ MAC ID は SP MAC ID であり、セカンダリ MAC ID は SCP MAC ID です。
3. 顧客情報シートを安全な場所に保管します。
4. 次の手順を確認します。
 - SP および SCP に DHCP 経由で IP アドレスを割り当てる場合は、ここで DHCP サーバーを構成します。
ステップ 5 に進みます。
 - SP および SCP に SER MGT ポート経由で静的 IP アドレスを割り当てる場合は、ステップ 8 に進みます。
5. DHCP サーバーにログインし、そのサーバーを、記録した SP MAC ID の事前に定義された IP アドレスとホスト名を割り当てるように構成します。
取り外したスイッチと同じ IP アドレスとホスト名を使用します。
6. DHCP サーバーを、記録した SCP MAC ID の事前に定義された IP アドレスとホスト名を割り当てるように構成します。
取り外したスイッチと同じ IP アドレスとホスト名を使用します。
7. ステップ 9 に進みます。
8. SER MGT ポートを使用して、取り外したスイッチと同じホスト名およびネットワーク管理パラメータで交換用スイッチを構成します。
39 ページの「SP にアクセスする (SER MGT ポート)」および 40 ページの「ネットワーク管理を構成して有効にする (SER MGT ポート)」を参照してください。

9. 1本のネットワーク管理ケーブルを接続します。
[100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)を参照してください。
10. SP にアクセスします。
[38 ページの「SP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)を参照してください。
11. Oracle ILOM 構成を復元します。
SEFOS 構成も復元されます。『Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド』を参照してください。
12. SCP にアクセスします。
[40 ページの「SCP にアクセスする \(RJ-45 ポート\)」](#)を参照してください。
13. 優先度をいちばん下に設定します。
『Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド』を参照してください。
14. 前にバックアップされたスイッチ構成を復元します。
 - a. スイッチで Oracle Fabric Manager 構成を復元します。
『Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド』を参照してください。
 - b. スイッチで Oracle Fabric OS 構成を復元します。
『Oracle Fabric OS 1.0 管理ガイド』を参照してください。
15. 交換用スイッチの電源を完全に切断します。
[78 ページの「電源装置の電源を切断する」](#)を参照してください。
16. 交換用スイッチをネットワークおよびファブリックに接続します。
[100 ページの「データケーブルを取り付ける」](#)を参照してください。
17. 交換用スイッチの電源を投入します。
[159 ページの「電源装置の電源を投入する」](#)を参照してください。
ネゴシエーションおよび伝播がすべて完了するまで待ちます。
18. 次のステップは、Oracle Fabric Manager を使用して実行します。
『Oracle Fabric Manager 5.0 管理ガイド』を参照してください。
 - a. マスターサブネットマネージャーからパーティション構成を移行します。
パーティション構成が交換用スイッチに伝播されるまで待ちます。
 - b. マスターサブネットマネージャーからセキュリティー機能を有効にします。

セキュリティーポリシーが交換用スイッチに伝播されるまで待ちます。

- c. 交換用スイッチのサブネットマネージャーのノードリストとファブリック構成ファイルを構成し、このリストとファイルがほかのスイッチのリストとファイルと整合性があることを確認します。

- d. (オプション) 交換用スイッチの優先度を取り外されたスイッチの元の優先度に設定します。

ハンドオーバーがすべて完了するまで待ちます。

19. **スナップ留め具を取り付けます。**

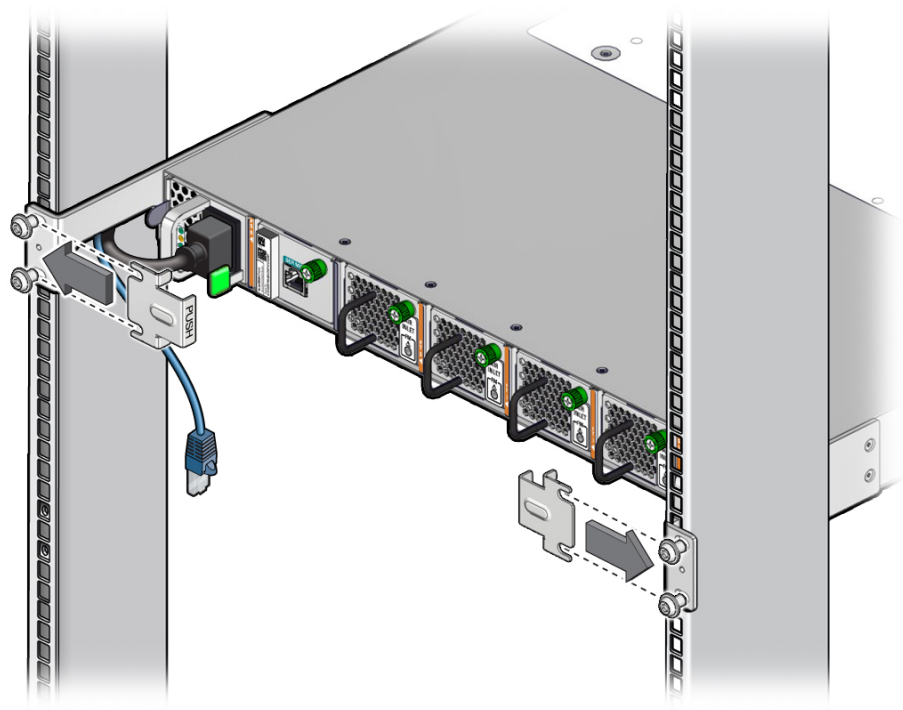
[166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」](#)を参照してください。

関連情報

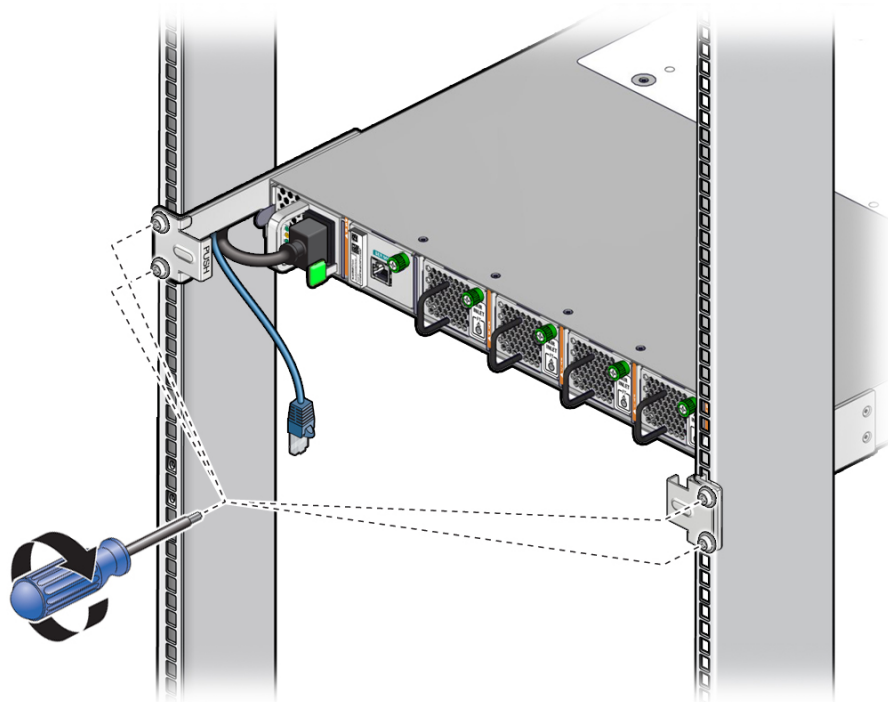
- [156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)
- [159 ページの「電源装置の電源を投入する」](#)
- [160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)
- [166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」](#)
- [168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)

▼ スナップ留め具を取り付ける

1. 緩めたねじの下に、爪がラック側を指すようにしてスナップ留め具をスライドさせます。



2. スナップ留め具に浮き出し印刷された単語 **PUSH** を押しながら、プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用してねじを完全に締めます。



3. 次の手順を確認します。
 - 電源装置をすでに交換し、SER MGT の常時接続を使用する場合は、SER MGT ケーブルを接続します。
160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」を参照してください。
 - 電源装置をすでに交換し、SER MGT 接続を使用しない場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。
168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」を参照してください。
 - スイッチを交換した場合は、もう一方のスナップ留め具に対して**ステップ 1** および**ステップ 2**を繰り返します。
4. エアダクト構成部品を取り付けます。
168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」を参照してください。

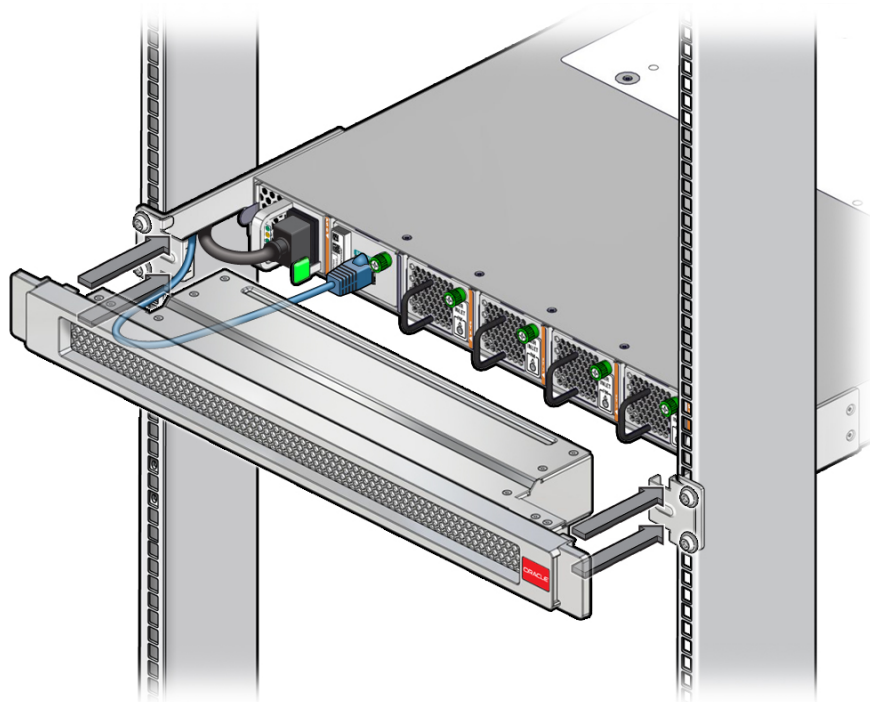
関連情報

- 156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」
- 159 ページの「電源装置の電源を投入する」
- 160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」
- 163 ページの「交換用スイッチを構成する」
- 168 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」

▼ エアダクト構成部品の取り付け

1. スナップ留め具のねじがラックポストにしっかり取り付けられていることを確認します。
2. 電源コードおよび SER MGT ケーブル (接続されている場合) が邪魔にならないように配線されていて、エアダクト構成部品の取り付けを妨げないことを確認します。
長い前面固定部品の開口部に電源コードのたるみを収めます。エアダクト構成部品のくぼみに SER MGT ケーブルのたるみを収めます。
3. エアダクト構成部品をラックの取り付け場所まで持ち上げます。

エアダクト構成部品は左右対称ですが、ロゴが存在する場合はそれが右側になります。



4. エアダクト構成部品をカチッと音がするまでスイッチの前面に押し込みます。
5. 取り付けたら、ラックの前面ドアを閉じます。
6. コンポーネントの取り付けを検証します。
次を参照してください。

- [129 ページの「ファンモジュールを検証する」](#)
- [119 ページの「バッテリーを検証する」](#)
- [139 ページの「電源装置を検証する」](#)
- [151 ページの「スイッチを検証する」](#)

関連情報

- [156 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)
- [159 ページの「電源装置の電源を投入する」](#)
- [160 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)
- [163 ページの「交換用スイッチを構成する」](#)
- [166 ページの「スナップ留め具を取り付ける」](#)

用語集

1

10GBASE-T – LR	300 m を超える配線距離をサポートする Ethernet テクノロジ。
10GBASE-T – SR	標準 10GbE Ethernet テクノロジ。
10GbE/40GbE モジュール	10GbE および 40GbE インタフェースをサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。
16G ファイバチャネルモジュール	ファイバチャネルインタフェースをサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

A

アダプタ	ホストがファブリックまたはネットワーク経由で通信できる物理デバイス (HCA、NIC など)。
AD	Active Directory の省略形。
ASR	Automatic Service Request (自動保守要求)。特定のハードウェア障害が発生した場合に自動的に保守要求を開く Oracle ハードウェアの機能。ASR は My Oracle Support (MOS) と統合されており、サポート契約が必要です。「MOS」も参照してください。

C

CFM	Cubic Feet per Minute (立方フィート/分)。通気の測定の標準。
CMB	Cable Management Bracket (ケーブル管理留め具) の省略形。シャーシから伸びるケーブルを支え、1 つにまとめるコンポーネント。

D

DN Distinguished Name (識別名) の省略形。Active Directory の用語。

DSA 鍵 Digital Signature Algorithm (デジタル署名アルゴリズム) 鍵。SSH 認証のコンポーネント。「RSA」および「SSH」も参照してください。

E

EDR Extended Data Rate (拡張データレート)。InfiniBand (IB) テクノロジーのスループット (通常は 100G ビット/秒)。「IB」も参照してください。

EMS モジュール Embedded Management Switch モジュール。SEFOS オペレーティングシステムを使用して Ethernet スイッチおよび管理コントローラを提供するスイッチシャーシ内のコンポーネント。「SEFOS」も参照してください。

Ethernet 管理スイッチ 複数のサービスプロセッサ (SP) またはホストの、各ネットワーク管理インタフェースを経由したシングルポイント管理を可能にする Ethernet スイッチ。「SP」も参照してください。

Ethernet ゲートウェイ あるプロトコルから別のプロトコル (たとえば、IB から Ethernet) へのデータ転送を可能にするデバイス。または、Ethernet ネットワークのルーティングノードとして機能するデバイス。

F

ファイバチャネル 主にストレージシステムに対して使用されるデータ転送テクノロジー。

ファブリックインターコネクト ゲートウェイサービスおよび追加機能を提供する IB スイッチの短縮名。

ファブリックカード スパイントポロジ構造を提供する IB スイッチシャーシのコンポーネント。「IB SFM モジュール」も参照してください。

ファンモジュール シャーシの内部に冷却空気を供給するホットスワップ対応の交換可能コンポーネント。

FM Fan Module (ファンモジュール) の省略形。「ファンモジュール」も参照してください。

G

GB	GigaByte (G バイト) の省略形。1G バイトは約 1000M バイトです。
GbE	Gigabit Ethernet の省略形。Ethernet テクノロジーでのスループットの単位。
GUID	Globally Unique Identifier (一意のグローバル識別子)。IB ノードを一意に識別する 32 桁の 16 進数。「IB」も参照してください。

H

ハウジング	PrizmMT コネクタの色付きのプラスチック部分 (4x の場合はマゼンタ、12x の場合は黒)。これは収納としてではなく、解除装置として機能しますが、製造元の USConec によって「ハウジング」という用語が割り当てられました。
HCA	Host Channel Adapter (ホストチャネルアダプタ)。サーバーやホストなどのコンピューティングインスタンスで使用される、IB ノードの終端ポイントである物理デバイス。

I

I/O モジュール	Oracle Fabric Interconnect F2-12 および Oracle InfiniBand Switch IS2-254 のユーザー交換可能な物理インタフェースコンポーネント。
I²C	IPMI プロトコルを使用して I ² C ノードに問い合わせたり、影響を与えたりするハードウェアバス。「IPMI」および「Oracle ILOM」も参照してください。
IB	InfiniBand。非常に高性能なコンピューティングに使用される、高帯域幅のメッセージングテクノロジー。
IB SFM モジュール	スパイントポロジ構造を提供する Oracle InfiniBand Switch IS2-254 の I/O モジュール。IB SLM モジュールと組み合わせて使用されます。「ファブリックカード」および「IB SLM モジュール」も参照してください。
IB SLM モジュール	リーフトポロジ構造を提供する Oracle InfiniBand Switch IS2-254 の I/O モジュール。IB SFM モジュールと組み合わせて使用されます。「ラインカード」および「IB SFM モジュール」も参照してください。
IB スイッチ	IB ファブリック内のノード間の接続を提供する物理デバイス。
ILOM	「Oracle ILOM」を参照してください。
IPMI	Intelligent Platform Management Interface (インテリジェントプラットフォーム管理インタフェース)。I ² C バス経由でシャーシコンポーネントをモニターおよび制御するためのプロトコル。

K

KVMS Keyboard (キーボード)、Video (ビデオ)、Mouse (マウス)、および Storage (ストレージ) の省略形。ホストのリモート操作を提供する手段。

L

長距離 IB モジュール QDR IB のスループットを最大 40 km の距離にわたってサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

ラインカード リーフトポロジ構造を提供する IB スイッチシャーシのコンポーネント。「IB SLM モジュール」も参照してください。

リーフスイッチ リーフトポロジを利用したスイッチ。

LDAP Lightweight Directory Access Protocol。IP 経由のディレクトリサービスを提供するためのプロトコル。

LDAP over SSL Secure Sockets Layer トンネル経由で LDAP をセキュリティー保護するスキーム。「LDAP」も参照してください。

LR IB IOM QDR IB のスループットを最大 40 km の距離にわたってサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

LR トランシーバ 長距離のファイバチャネル通信に使用されるトランシーバ。

M

モジュール ユーザーが交換できるシャーシのコンポーネント。通常は外部からアクセスできません。「I/O モジュール」および「ファンモジュール」も参照してください。

MAC Machine Allocation Code。ネットワークノードを一意に識別する 12 桁の 16 進数。

MIB Management Information Base (管理情報ベース)。オブジェクト識別子 (OID) の集合を含むプレーンテキストファイル。SNMP プロトコルを使用してスイッチを管理する場合に使用されます。「OID」および「SNMP」も参照してください。

MOS My Oracle Support (<http://support.oracle.com>)

N

ネットワーク管理 Ethernet ネットワークを使用して SP または SCP を管理するための手段。「シリアル管理」、「SP」、および「SCP」も参照してください。

O

OID	Object Identifier (オブジェクト識別子)。特定の目的に対応しており、かつ SNMP プロトコルによって解釈されるパラメータを持つ MIB のコンポーネント。「MIB」および「SNMP」も参照してください。
Oracle F2 10 Gb および 40Gb Ethernet モジュール	10GbE または 40GbE の機能を提供する I/O モジュール。
Oracle F2 Dual Port 16G ファイバチャネルモジュール	16Gb ファイバチャネルの機能を提供する I/O モジュール。
Oracle F2 Long Range InfiniBand モジュール	QDR InfiniBand の機能を長距離にわたって提供する I/O モジュール。
Oracle F2 Quad Port 10GBASE-T モジュール	4 つの 10GbE インタフェースの機能を提供する I/O モジュール。
Oracle Fabric Interconnect F2-12	仮想化スイッチ。「仮想化スイッチ」も参照してください。
Oracle Fabric Manager	スイッチおよびファブリックを管理するための Web ベースの GUI。
Oracle Fabric OS	Oracle Fabric オペレーティングシステム。ファブリックを管理する SCP 内のオペレーティングシステム。「SCP」も参照してください。
Oracle ILOM	Oracle Integrated Lights Out Manager。IPMI プロトコルと I ² C バスを使用して、シャーシのハードウェアコンポーネントをモニターおよび制御するインタフェース。
Oracle InfiniBand Switch IS2-254	スパインスイッチ。「スパインスイッチ」も参照してください。
Oracle InfiniBand Switch IS2-46	リーフスイッチ。「リーフスイッチ」も参照してください。

Oracle Linux OS	Oracle Linux オペレーティングシステム。UNIX ベースのオペレーティングシステムであり、多くの場合はサービスプロセッサに組み込まれます。「SP」も参照してください。
Oracle Solaris OS	Oracle Solaris オペレーティングシステム。UNIX ベースのオペレーティングシステムであり、通常は高性能エンタープライズコンピューティングプラットフォームに使用されます。

P

PrizmMT ケーブル	IB 4x および 12x テクノロジーに使用される光ファイバコネクタおよびケーブル。PrizmMT フェルールを使用して構成されます。外観は標準 MT ケーブルおよびコネクタに似ていますが、互換性はありません。「標準 MT ケーブル」も参照してください。
---------------------	--

Q

QSFP	Quad Small Form-Factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタプラグブル)。高速データインターコネクトのためのフォームファクタ。
-------------	---

R

RADIUS	Remote Authentication Dial-In User Service。ユーザーの認証、承認、およびアカウントリングを提供するプロトコル。
RJ-45	Ethernet インターコネクトのための 8 ピンモジュラーフォームファクタの標準。
RSA 鍵	Rivest Shamir Adleman アルゴリズム鍵。SSH 認証のコンポーネント。「DSA」および「SSH」も参照してください。

S

シリアル管理	シリアルデータストリームを使用して SP または SCP を管理するための手段。「SER MGT」、「ネットワーク管理」、「SP」、および「SCP」も参照してください。
スイッチ前面	ラック内に取り付けられたときに冷たい通路に面する、スイッチシャーシの吸気側の端です。通常は、ファンモジュールや電源装置が取り付けられている端です。

スイッチ背面	ラック内に取り付けられたときに熱い通路に面する、スイッチシャーシの排気側の端です。通常は、高速データ接続が取り付けられている端です。
スパインスイッチ	スパイントポロジを利用したスイッチ。
標準 MT ケーブル	IB 4x テクノロジに使用される光ファイバコネクタおよびケーブル。外観は PrizmMT ケーブルおよびコネクタに似ていますが、互換性はありません。「PrizmMT ケーブル」も参照してください。
SCP	System Control Processor (システム制御プロセッサ)。IB テクノロジ、ファブリック管理インタフェース、サブネットマネージャーなどの、より複雑で、かつリソースを大量に消費するサービスを管理するサービスプロセッサのタイプ。SCP がシャーシホストである場合もあります。「SP」も参照してください。
SEFOS	Sun Ethernet Fabric Operating System。Ethernet ネットワークを管理するために EMS モジュールによって使用されるオペレーティングシステム。「EMS モジュール」も参照してください。
SER MGT	Serial Management (シリアル管理)。SP とインタフェースするために使用される低速のシリアルデータストリーム。「SP」も参照してください。
SFP+	Small Form-Factor Pluggable (スモールフォームファクタプラグブル)。高速データインターコネクトのためのフォームファクタ。
SNMP	Simple Network Management Protocol。スイッチをリモートでモニターおよび制御するためのマシンインタフェース。MIB および OID を使用して、データまたは命令を含むメッセージを交換します。「MIB」および「OID」も参照してください。
SP	Service Processor (サービスプロセッサ)。シャーシホストの状態には関係なく、Oracle ILOM インタフェース経由でシャーシをモニターおよび制御するデバイス。「Oracle ILOM」および「SCP」も参照してください。
SR トランシーバ	短距離のファイバチャネル通信に使用されるトランシーバ。
SSH	Secure Shell。DSA および RSA アルゴリズムを利用したセキュアなネットワーク通信プロトコル。「DSA」および「RSA」も参照してください。

V

仮想化スイッチ	仮想化機能を持つ複数のインタフェースをサポートしているスイッチ。
VAC	Voltage Alternating Current (交流電圧)。
VDC	Voltage Direct Current (直流電圧)。

W

WWN	World Wide Name。ファイバチャネルおよびその他のストレージインタフェースデバイスに使用される識別子。
WWNN	World Wide Node Name。ノード専用のファイバチャネル名。
WWPN	World Wide Port Name。ポート専用のファイバチャネル名。

索引

あ

アラーム状態
 /SYS ターゲット, 57
 レガシーターゲット, 57

安全

 記号, 66
 情報, 66

エアダクト

 取り付け, 168
 取り外し, 70

温度

 /SYS ターゲット, 60
 レガシーターゲット, 60

か

切り離し

 SER MGT ケーブル, 70
 電源コード, 78

クリーニング

 PrizmMT ケーブル, 106
 PrizmMT ソケット, 106

ケーブル

 PrizmMT, 85
 RJ-45, 86
 SFP+, 86
 SFP+ の組み立て, 98
 検証, 106
 識別, 84
 障害のあるデータケーブルの特定, 87
 追加, 100
 取り付け, 100
 取り外し, 91
 保守, 83
 ケーブルの組み立て, 98
 ケーブルの追加, 100

検証

 PrizmMT ケーブル, 106
 RJ-45 ケーブル, 106
 SFP+ ケーブル, 106
 ケーブル, 106
 スイッチ, 151
 電源装置, 139
 バッテリー, 119
 ファンモジュール, 129

健全性状態, 51

交換可能コンポーネント

 /HOST ターゲット, 27
 /SP ターゲット, 27
 /System ターゲット, 28
 /SYS ターゲット, 29
 障害が発生した項目, 30
 レガシーターゲット, 29

コンポーネント

 LED, 37
 障害が発生したコンポーネントの識別, 27
 ステータスの表示, 54
 背面パネル, 14
 フロントパネル, 13
 問題のあるコンポーネントの表示, 48
 リセット, 55

さ

識別

 ケーブル, 84
 コンポーネント, 11
 障害が発生したコンポーネント, 27

システムの健全性, 50

シャースステータス LED, 36

準備

 スイッチの電源を切断する, 77

保守, 65
 障害
 /System/Open_Problems, 49
 手動でのクリア, 55
 障害が発生した項目の交換可能コンポーネント, 30
 障害状態
 /SYS ターゲット, 56
 レガシーターゲット, 56
 障害のある
 ケーブル, 87
 スイッチ, 143
 電源装置, 133
 バッテリー, 109
 ファンモジュール, 122
 障害のあるデータケーブルの特定
 ケーブル, 87
 障害のある電源装置の特定
 電源装置, 133
 障害のあるファンモジュールの特定
 ファンモジュール, 122
 障害の手動でのクリア, 55
 消費電力
 /SYS ターゲット, 58
 表示, 52
 レガシーターゲット, 58
 診断, 15
 Oracle ILOM ターゲット, 25
 開始, 16
 スイッチがある場所, 17
 追加, 19
 ツール, 32
 リモート, 22
 診断の開始, 16
 スイッチ
 Oracle ILOM ターゲットの診断, 25
 稼働状態に戻す, 155
 検証, 151
 交換, 141
 構成, 163
 コンポーネント, 12
 障害があるかどうかの判定, 143
 診断, 17
 ステータス LED, 142
 追加の診断, 19
 電源切断, 78

電源投入, 159
 電源を切断するための準備, 77
 特定, 69
 トラブルシューティング, 15
 取り付け, 148
 取り外し, 145
 リモート診断, 22
 スイッチの交換, 141
 スイッチの構成, 163
 スイッチの特定, 69
 スナップ留め具
 取り付け, 166
 取り外し, 74
 静電気防止
 mat, 67
 リストストラップ, 67
 接続
 SER MGT ケーブル, 160
 電源コード, 159

た

ツール
 診断, 32
 保守, 67
 電圧
 /SYS ターゲット, 59
 レガシーターゲット, 59
 電源コード
 切り離し, 78
 接続, 159
 引き出し, 156
 電源切断
 スイッチ, 78
 電源装置, 78
 電源装置
 検証, 139
 障害のある電源装置の特定, 133
 ステータス LED, 132
 電源切断, 78
 電源投入, 159
 取り付け, 137
 取り外し, 135
 保守, 131
 リセット, 139
 電源投入

スイッチ, 159
電源装置, 159
ドキュメント内の記号, 66
トラブルシューティング, 15
 /SP ターゲット, 43
 /System ターゲット, 47
 /SYS ターゲット, 52
LED, 32
スイッチ, 15
レガシーターゲット, 52
取り付け
 PrizmMT ケーブル, 100
 RJ-45 ケーブル, 100
 SFP+ ケーブル, 100
 エアダクト, 168
 ケーブル, 100
 スイッチ, 148
 スナップ留め具, 166
 電源装置, 137
 バッテリー, 115
 ファンモジュール, 126
取り外し
 PrizmMT ケーブル, 91
 RJ-45 ケーブル, 91
 SFP+ ケーブル, 91
 エアダクト, 70
 ケーブル, 91
 スイッチ, 145
 スナップ留め具, 74
 電源装置, 135
 バッテリー, 110
 ファンモジュール, 125

な

ネットワーク管理
 プロパティの表示, 45
有効化, 40

は

背面パネル
 LED, 34, 35, 36
 コンポーネント, 14
バッテリー

検証, 119
障害があるかどうかの判定, 109
取り付け, 115
取り外し, 110
保守, 109

引き出し

SER MGT ケーブル, 156
電源コード, 156

表示

アクティブな消費電力, 52
コンポーネントステータス, 54
システムの健全性, 50
シャーシのシリアル番号, 68
ネットワーク管理プロパティ, 45
ファームウェアバージョン, 47
問題のあるコンポーネント, 48
ユーザーセッション, 46
ログ, 44

ファームウェアバージョン, 47
ファン速度

 /SYS ターゲット, 61
 レガシーターゲット, 61
ファンモジュール

 検証, 129
 障害のあるファンモジュールの特定, 122
 ステータス LED, 122
 取り付け, 126
 取り外し, 125
 保守, 121
 リセット, 129
フロントパネル
 LED, 34
 コンポーネント, 13

保守

 ケーブル, 83
 電源装置, 131
 バッテリー, 109
 ファンモジュール, 121
保守アクション LED, 36
保守ツール, 67

や

有効化
 ネットワーク管理, 40
 レガシーターゲット, 53

ユーザーセッション, 46

ら

リセット

コンポーネント, 55

電源装置, 139

ファンモジュール, 129

リセット可能なターゲット, 63, 63

レガシーターゲット

FRUID, 56

LED 状態, 62

アラーム状態, 57

温度, 60

交換可能コンポーネント, 29

障害状態, 56

消費電力, 58

電圧, 59

トラブルシューティング, 52

ファン速度, 61

有効化, 53

ログ

表示, 44

フィルタ, 44

ロケータ LED, 36

C

clear_fault_action ターゲット, 63

E

ESD

静電気防止用マット, 67

静電気防止用リストストラップ, 67

測定, 66

防止, 70

F

FRUID

/SYS ターゲット, 56

レガシーターゲット, 56

L

LED

OK, 36

RJ-45 リンク, 35

SFP+ リンク, 34

SP, 36

検査, 33

コンポーネント, 37

シャーシステータス, 36, 142

状態

/SYS ターゲット, 62

レガシーターゲット, 62

電源装置ステータス, 132

トラブルシューティング, 32

ファンモジュールステータス, 122

フロントパネル, 34

保守アクション, 36

ロケータ, 36, 69

LED の検査, 33

O

OK LED, 36

P

PrizmMT ケーブル, 85

クリーニング, 106

検証, 106

追加, 100

取り付け, 100

取り外し, 91

R

RJ-45 ケーブル, 86

検証, 106

追加, 100

取り付け, 100

取り外し, 91

リンク LED, 35

S

/SP ターゲット

- 交換可能コンポーネント, 27
- トラブルシューティング, 43
- /SYS ターゲット
 - FRUID, 56
 - LED 状態, 62
 - アラーム状態, 57
 - 温度, 60
 - 交換可能コンポーネント, 29
 - 障害状態, 56
 - 消費電力, 58
 - 電圧, 59
 - トラブルシューティング, 52
 - ファン速度, 61
- /System/Open_Problems 障害, 49
- /System ターゲット
 - 交換可能コンポーネント, 28
 - トラブルシューティング, 47
- SER MGT ケーブル
 - 切り離し, 70
 - 接続, 160
 - 引き出し, 156
- SFP+ ケーブル, 86
 - 組み立て, 98
 - 検証, 106
 - 追加, 100
 - 取り付け, 100
 - 取り外し, 91
 - リンク LED, 34
- SP
 - LED, 36
 - アクセス, 38
 - RJ-45 ポート, 38
 - SER MGT ポート, 39
- SP へのアクセス, 38
 - RJ-45 ポート, 38
 - SER MGT ポート, 39

